町田市ひきこもり者支援体制推進事業

「若年者の自立に関する調査報告」
～ひきこもる若者たちを地域で支えるために～

・一般市民意識調査報告

・民生委員・児童委員意識調査報告

・社会資源調査（精神保健・医療分野）報告

2013 年 3 月

町 田 市 保 健 所

はじめに

近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。社会的、身体的に様々な課題を抱え、ひきこもりやニートになる若年者が全国的に増加しているといわれています。

東京都による若年者自立支援調査（平成 19 年度）の推計によると、15 歳～34 歳でひきこもりの状態にある方は、都内に少なくとも 2 万 5 千人以上いると報告されています。

保健所では、保健師の個別支援活動の中で、思春期の精神保健に関わる相談が増加してきたことから、1998 年度に思春期の精神専門医相談を開始しました。それ以降、ひきこもりの状態にあるご本人及びご家族に対して、社会復帰及び自立と社会参加への支援のための専門グループ活動（2003 年度に親グループ、2006 年度に本人グループ）を開始し、回復に向けての支援を行ってきました。10 年以上にわたる支援の中で、「ひきこもり」の状態が長期にわたっていること、それにより、問題が深刻化してからの相談が多く、対象者の年齢の幅も広いこと、保護者の高齢化等、様々な状況が見えてきました。課題を抱えている若年者を早期に支援していく関係機関同士のネットワークなどの仕組みを構築することが必要と考えております。

町田市では、「町田市新５ヵ年計画（2012 年度～2016 年度）」の重点事業として、今年度より「ひきこもり者支援体制推進事業」の取り組みを開始し、まず「若年者の自立に関する調査」を行いました。

本調査の結果をふまえ、市民、関係機関、行政が一体となって自立を支援していけるよう協力体制を整備し、相談・支援の充実を行い、ひきこもり者が社会参加しやすい地域を目指していきます。

最後に、調査にあたりご協力をいただきました市民の皆様、民生委員・児童委員及び、精神保健・医療分野の医療機関の方々に深く感謝いたします。

また、今回の報告書の作成にあたりご指導いただきました、杏林大学保健学部教授　浅沼奈美先生に心からお礼を申し上げます。

２０１３年３月

町田市保健所
所長　　大井　洋

目　次

Ⅰ　町田市ひきこもり者支援体制推進事業について …… 1

Ⅱ　若年者の自立に関する調査 …… 5
　１　若年者の自立に関する調査（一般市民調査） …… 7
　２　若年者の自立に関する調査（民生委員・児童委員調査） …… 22
　３　社会資源調査（精神保健・医療分野） …… 27

Ⅲ　「若年者の自立に関する調査」からみた現状と施策の方向性 …… 31

資料編

一般市民調査結果データ …… 37

民生委員・児童委員調査結果データ …… 103

社会資源調査（精神保健・医療分野）機関一覧 …… 119

調査票 …… 123

Ⅰ　町田市ひきこもり者支援体制推進事業について

１　事業の概要

「ひきこもり」などに係る実態を把握し、市民、関係機関、行政が一体となって自立を支援していけるよう普及啓発をするとともに、連携協力体制を整備し、相談・支援の充実を行い、若者の社会的自立の支援を推進する。

２　事業の位置づけ

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」
　まちづくり基本目標
　　Ⅰ　将来を担う人が育つまちをつくる
　　基本政策　３　生涯にわたって学び成長できるまちをつくる
　　政策　１　青少年の健やかな成長を支える環境をつくる
　　施策　２　若者の社会的自立の支援
を具体的にすすめるため、町田市新５カ年計画の重点事業をとして実施。

３　事業スケジュール

（１）市内のひきこもり等の現状と実態を把握する

2012 年度：一般市民意識調査の実施
　　民生委員・児童委員意識調査の実施
　　社会資源調査（精神保健・医療分野）の実施
2013 年度：社会資源調査（NPO、就労関係機関、教育機関など）の実施
　　当事者調査の実施

（２）効果的な支援体制を検討する

・社会資源調査を通じた情報収集・分析
・支援関係者を含めた事例検討会・講演会の実施
・所内相談支援体制の充実（本人グループ*1、親グループ*2、精神専門医相談）

（３）関係機関同士がネットワークを構築し、地域が力を合わせて支援力を向上する

・2013 年度：支援ネットワーク会議の準備
・2014 年度以降：支援ネットワーク会議の開催

---

*1 ひきこもりの状態にある対象者本人が自宅以外で安心して外出できる居場所を提供し社会参加の足がかりとするため週１回グループワーク活動を行う。
*2 ひきこもりの状態にある子をもつ親が互いに学びあい親子関係の改善や当事者の回復に資することを目的に月１回グループワーク活動を行う。

ひきこもり者支援体制推進事業

事業概要

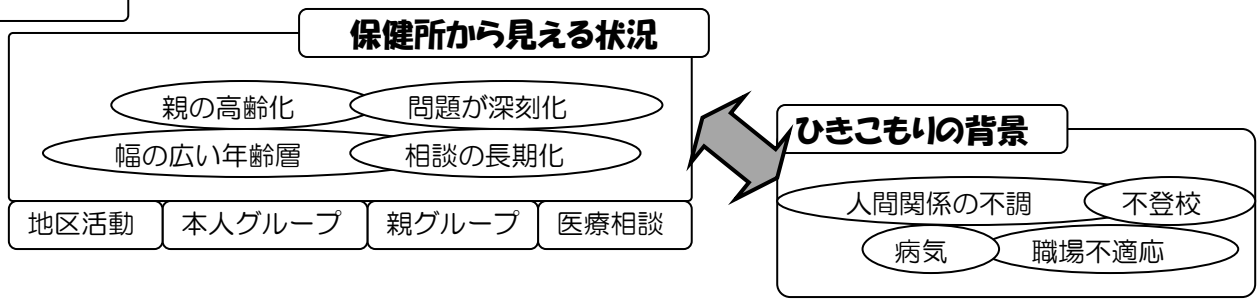
「ひきこもり」などに係る実態を把握し、市民、関係機関、行政が一体となって自立を支援していけるよう普及啓発・連携協力体制を整備し、相談・支援の充実などを行い、ひきこもり者が社会参加しやすい地域を目指します。

町田市新５ヵ年計画（２０１２年度から２０１６年度）の重点事業。

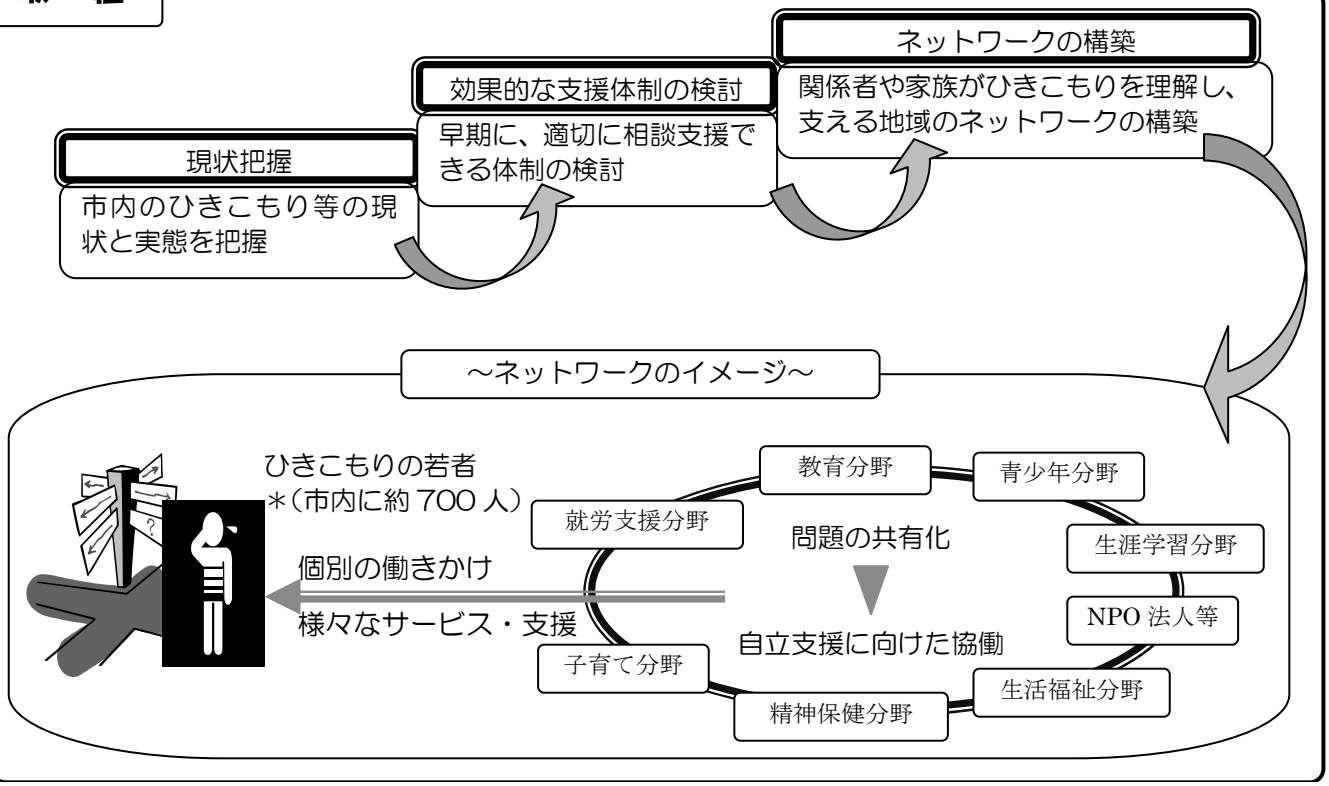
目指す姿

1　ひきこもり、ニートなど様々な要因によって社会的な不適応の状態にある若者の回復と、社会への参加、多様な形態の自立ができる仕組みがある。
2　当事者家族や関係者が、ひきこもり等の背景を理解して緩やかな回復を支援している。
3　地域において当事者家族が孤立しない仕組みがある。

現　状



取　組



※2013 年 1 月 1 日現在「町田市住民基本台帳世帯と人口」による 20 歳代から 30 歳代までの若者 103,558 人に、東京都が実施した「平成 19 年度　若年者自立支援調査研究報告書」による、ひきこもりの出現率　0.72%を乗じて推計

Ⅱ　若年者の自立に関する調査

１　若年者の自立に関する調査（一般市民調査）

１）調査概要

【調査対象及び回収の状況】
　調査対象者　2,000 名（町田市内在住の 20 歳から 64 歳の市民の中から無作為抽出）
　回収件数　　820 件（有効回答件数　813 件、有効回収率　40.7%）
【調査方法】郵送による配付、回収
【調査期間】2012 年 9 月 14 日～9 月 30 日

２）調査結果の見方

①　設問の回答者数はＮで表示している。
②　集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
③　標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なる。各回答の比率における誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表の通りである。

回答数(N)	5%又は95%	10%又は90%	15%又は85%	20%又は80%	25%又は75%	30%又は70%	35%又は65%	40%又は60%	45%又は55%	50%
N=800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.2%	±3.3%	±3.4%	±3.4%	±3.5%
N=500	±1.9%	±2.6%	±3.1%	±3.5%	±3.8%	±4.0%	±4.2%	±4.3%	±4.4%	±4.4%
N=300	±2.5%	±3.4%	±4.0%	±4.5%	±4.9%	±5.2%	±5.4%	±5.5%	±5.6%	±5.7%
N=100	±4.3%	±5.9%	±7.0%	±7.8%	±8.5%	±9.0%	±9.3%	±9.6%	±9.7%	±9.8%
N=50	±6.0%	±8.3%	±9.9%	±11.1%	±12.0%	±12.7%	±13.2%	±13.6%	±13.8%	±13.9%

※回答数 800、そのうち 30%（＝回答の比率）が回答した場合、この回答に対する誤差は±3.2%である。

④　統計的検定結果については、5%水準に＊印を、1%水準に＊＊印を、それぞれ付記した。
⑤　自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

３）回答者の属性

【性別】男性（41.1%）、女性（57.4%）、無回答（1.5%）
【年齢】60 歳以上（18.2%）、40～44 歳（14.3%）、45～49 歳（12.7%）
【就業状況】常勤（41.1%）、非常勤（21.9%）、主婦・主夫（21.9%）、無職・その他（7.6%）
【子育て経験】子育て経験あり（66.9%）、子育て経験なし（31.9%）
【居住地区】南地区（34.1%）、鶴川地区（23.0%）、町田地区（19.4%）、忠生地区（13.9%）、堺地区（7.5%）

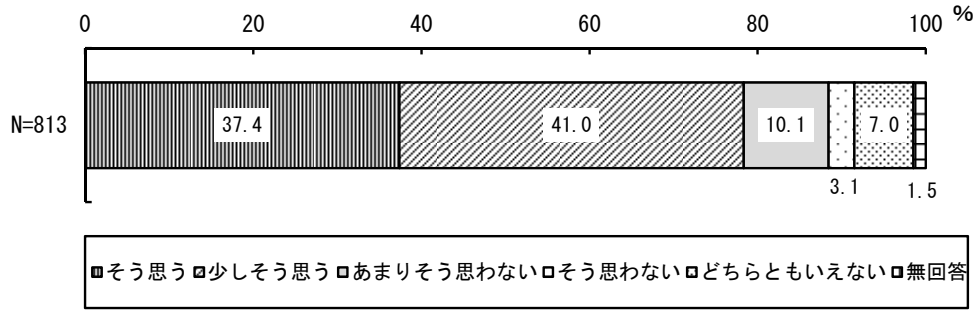
４）調査結果

（１）「ひきこもり」に対する市民の理解や意識について

①若者の自立に対する考え、就労に対する考えの認識

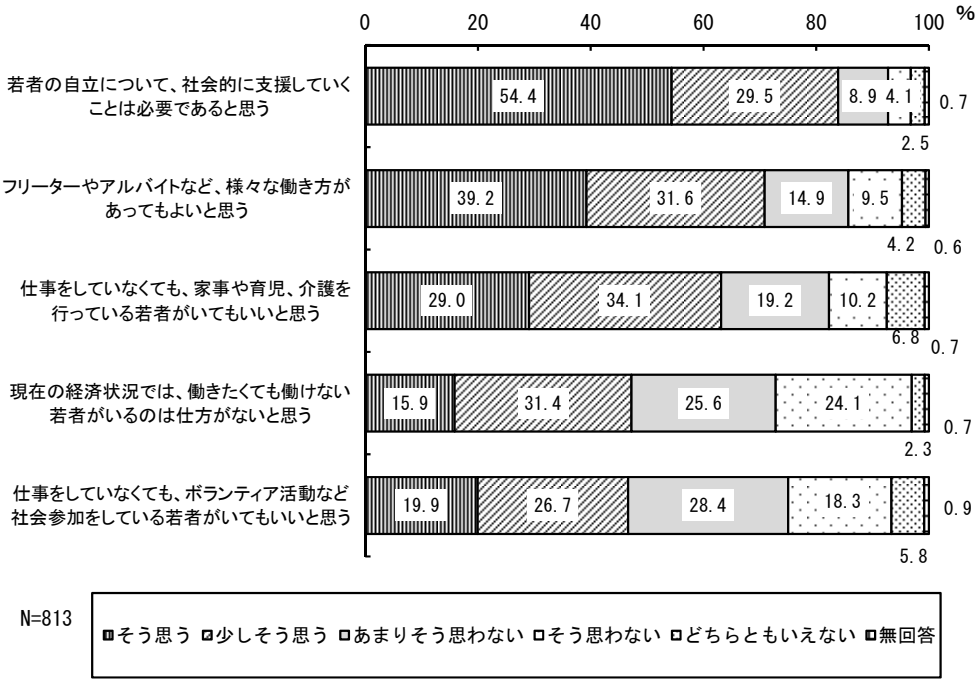
○「自立していない若者が増えている」と感じている市民は78.4%であった。

「自立していない若者が増えている」ことに対する考え



○フリーターやアルバイトなど多様な働き方を肯定している市民は70.8%であった。
○「若者の自立に向けた社会的支援は必要」と考えている市民は83.9%であった。

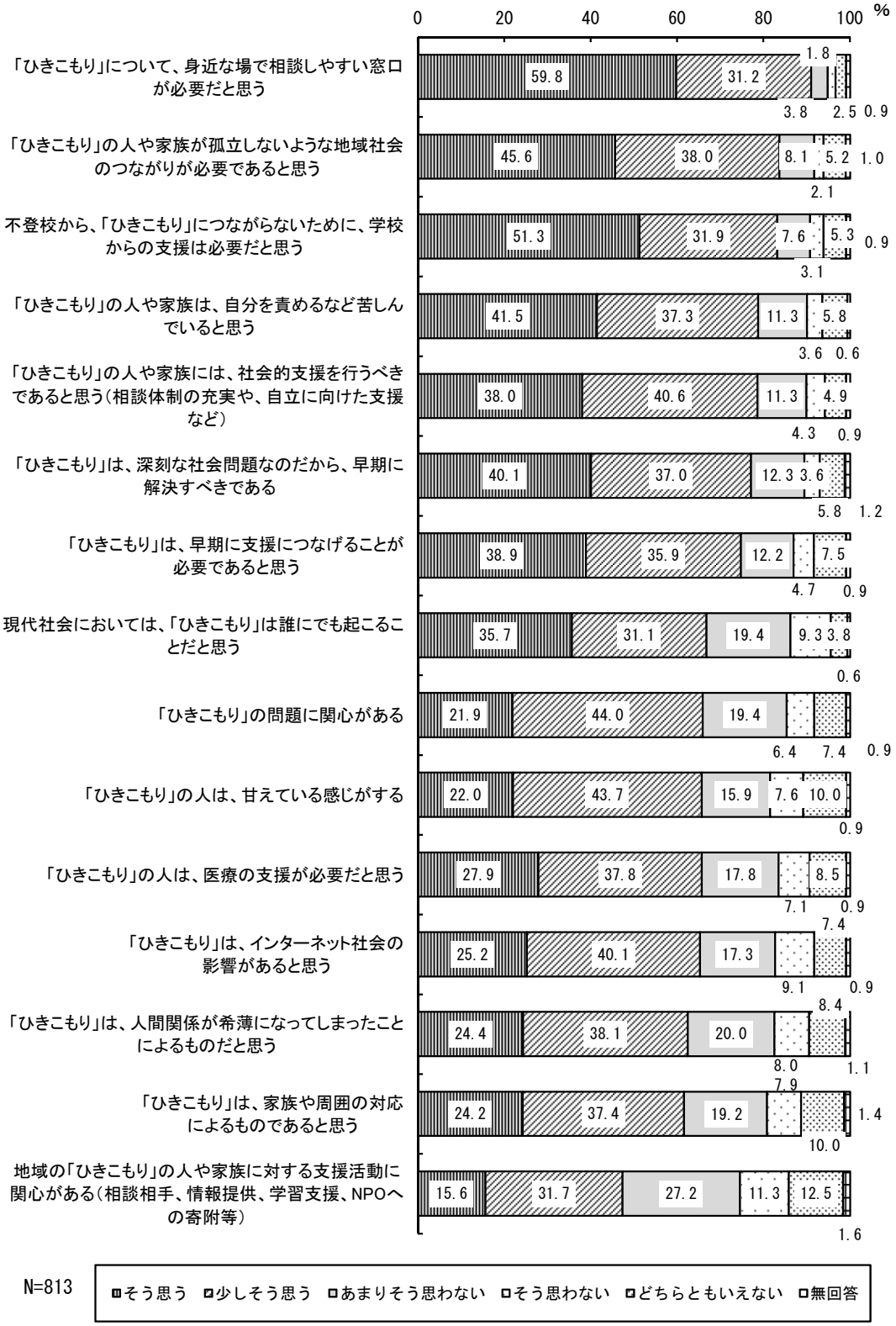
若者の就労や社会参加についての考え



②「ひきこもり」の背景、社会的支援等についての認識

○「ひきこもりについて、身近な場で相談しやすい窓口が必要である」について、91.0%が肯定している。また「ひきこもりの人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要である」については83.6%、「不登校からひきこもりにつながらないための、学校からの支援の必要性」については83.2%が肯定している。
○「地域でのひきこもりの人や家族に対する支援活動」については、47.3%が関心を持っている。

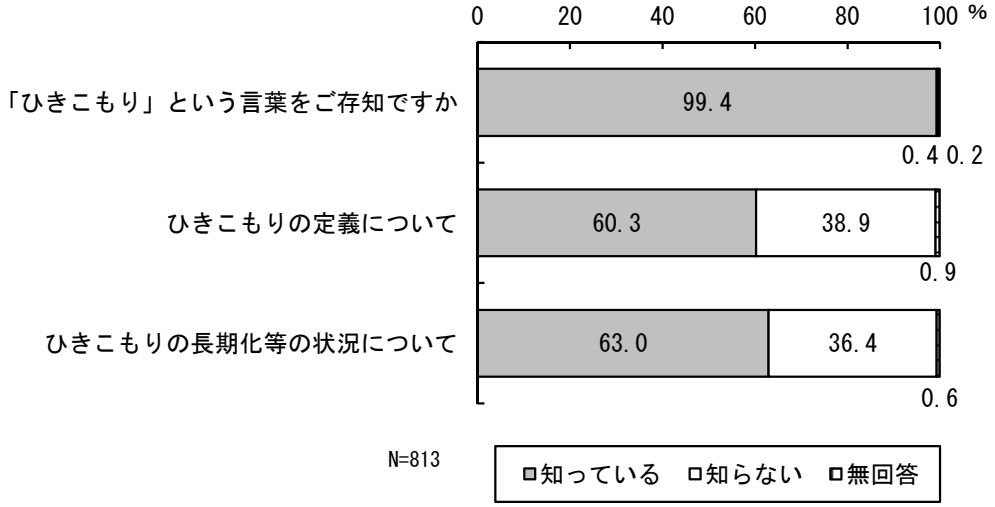
「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について



③「ひきこもり」の認知について

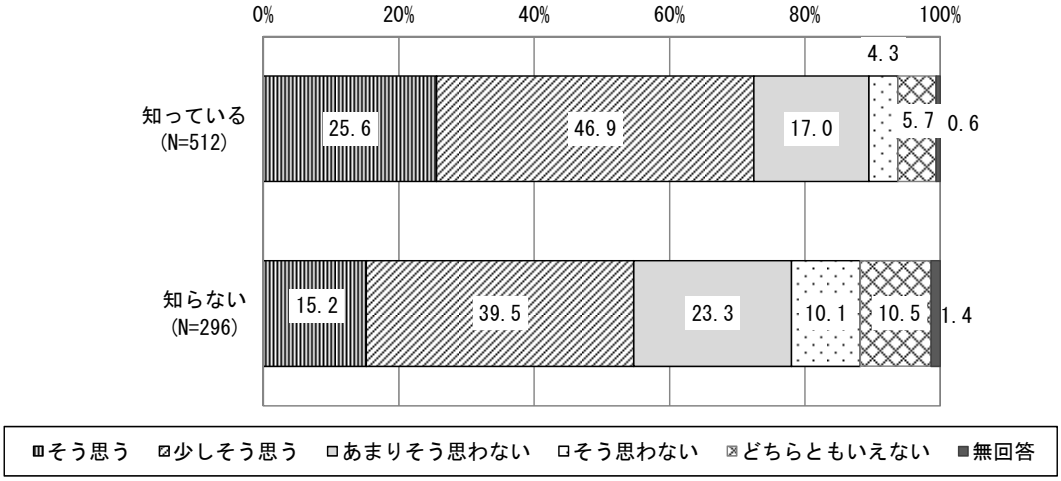
○「ひきこもり」という言葉についてはほぼ全員が認知しており、ひきこもりの定義については60.3%、ひきこもりの長期化等の状況については63.0%が認知している。

ひきこもりの状況の認知



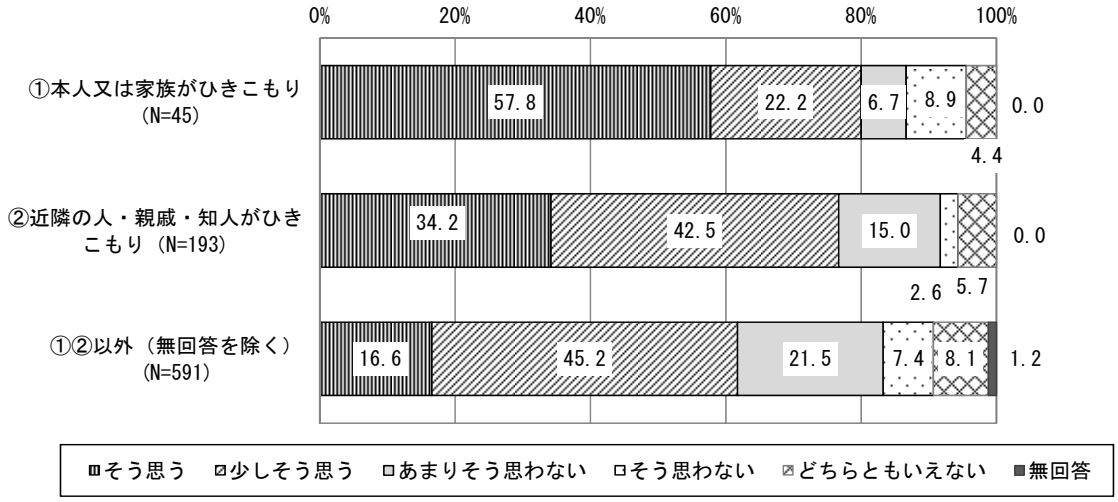
○ひきこもりの状況を知っている人は、知らない人と比べてひきこもりの問題への関心が高い。

ひきこもりの状況の認知の有無別にみた「ひきこもり」の問題への関心



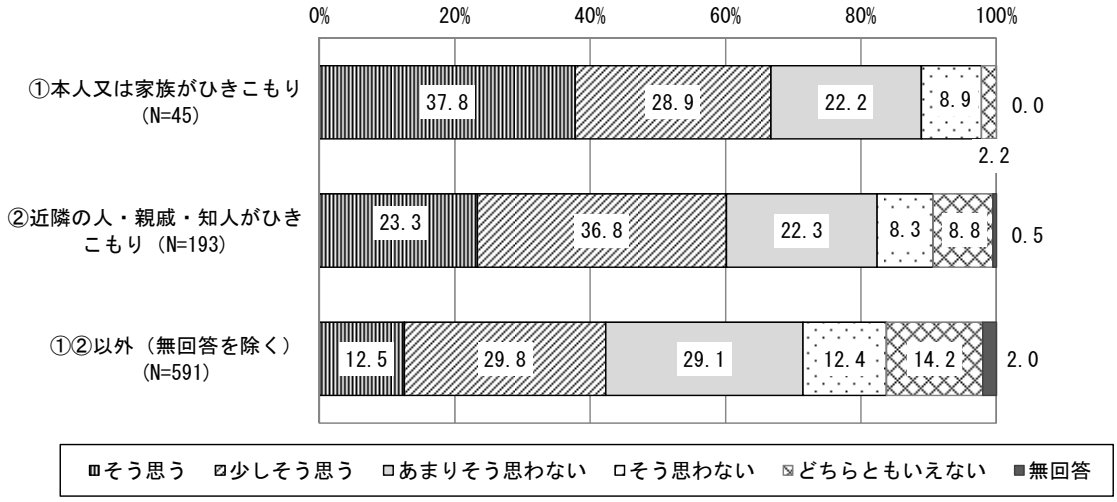
○本人又は家族、近隣の人・親戚・知人にひきこもりの人がいる人では、そうでない人と比べて「ひきこもり」の問題への関心が高い。特に本人又は家族がひきこもりの人では、「そう思う」が 57.8%となっている。

ひきこもりの身近さ別にみた「ひきこもり」の問題への関心



○本人や家族・身の周りにひきこもりの状況の人がいる人の方が、地域のひきこもりの人や家族に対する支援活動への関心が高い。

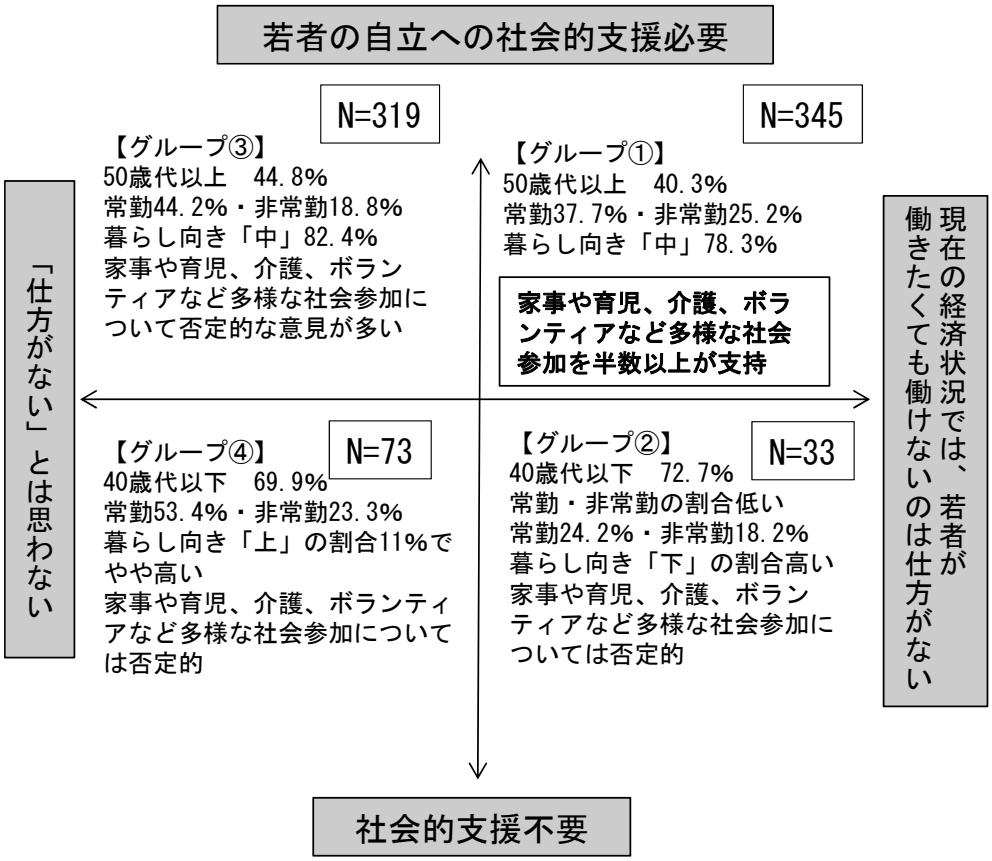
ひきこもりの身近さ別にみた　支援活動への関心



④若者の自立に対する社会的支援についての考え

○若者の自立に対する社会的支援を支持しているグループは 50 歳代以上の割合が高く、40 歳代以下では社会的支援への支持が低く、多様な社会参加についても否定的であることがうかがえた。また「現在の経済状況では、若者が働きたくても働けないのは仕方がないとは思わない」という考えを示しているグループは、常勤で働いており暮らし向きが高い傾向がみられた。

若者の自立に対する社会的支援についての考え



○若者を取り巻く環境の認識と、若者の自立支援に対する考えの関連性をみるために、問 4 (1)「現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」と (5)「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」への回答状況をもとに、回答者 813 名を下記の 4 つのグループに分類した。

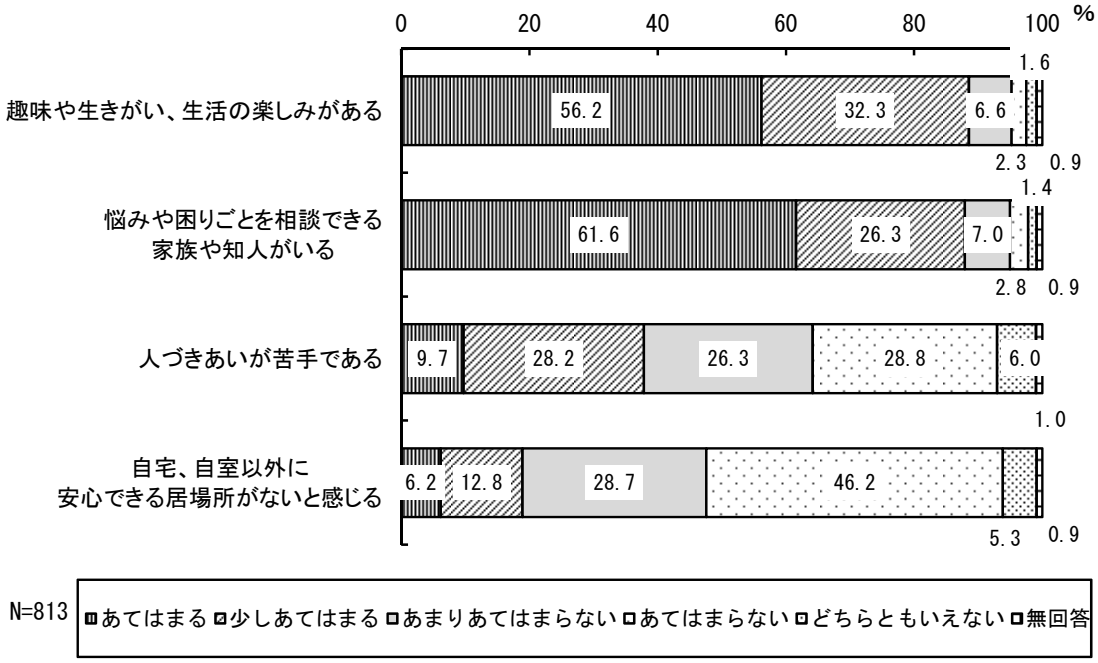
グループ①：社会環境要因、社会的支援の必要性をともに支持しているグループ
グループ②：社会環境要因は肯定しつつも社会的支援は不要とするグループ
グループ③：社会環境要因は否定しつつも何らかの社会的支援は必要とするグループ
グループ④：社会環境要因も社会的支援も否定しているグループ

（２）当事者を取り巻いている環境について

①回答者（市民）の状況

○「趣味や生きがい、生活の楽しみがある」については 56.2%、「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」については 61.6%が「あてはまる」と回答、「人づきあいが苦手である」については 37.9%が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答、「自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる」については、19.0%が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答している。

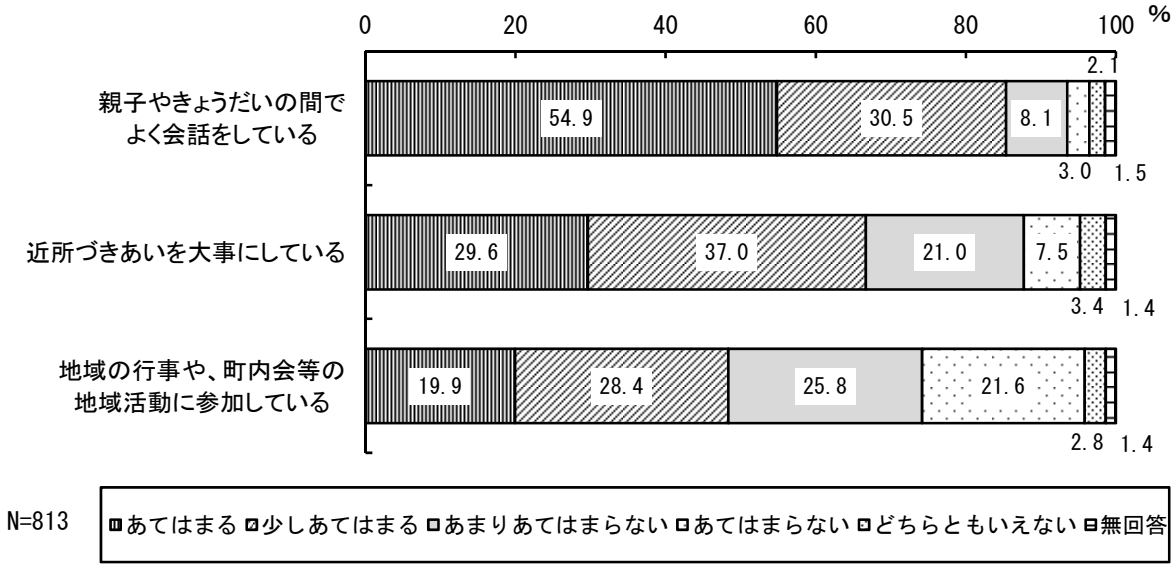
回答者自身の状況



②回答者（市民）の家族の状況

○「親子やきょうだい間でよく会話をしている」については 54.9%、「近所づきあいを大切にしている」については 29.6%、「地域の行事や町内会等の地域活動への参加」については 19.9%が「あてはまる」と回答している。

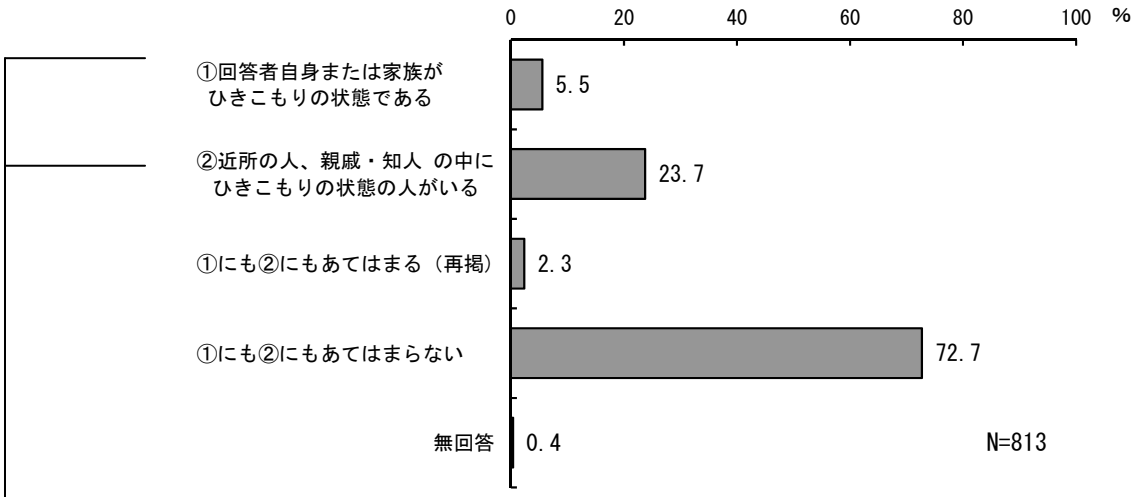
回答者の家族の状況



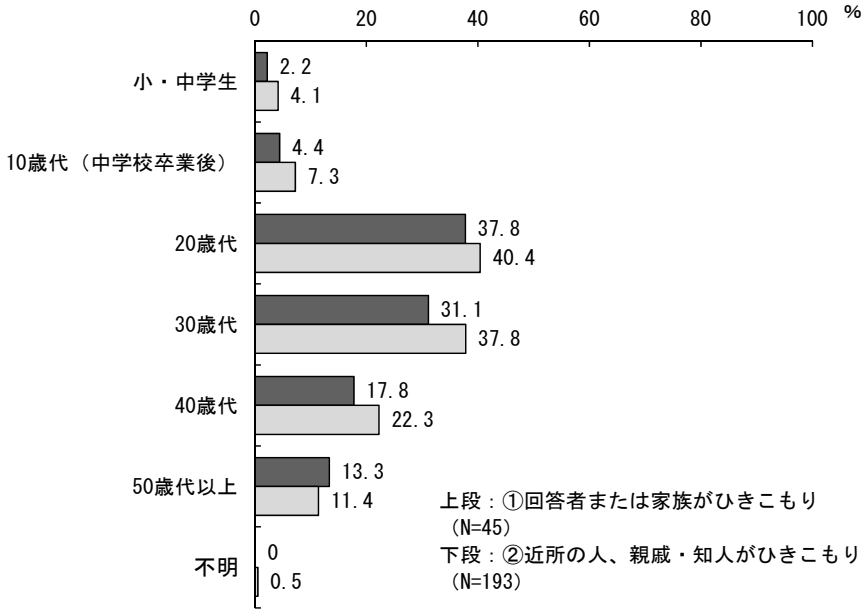
③ひきこもりの状況

○回答者自身または家族がひきこもりの状態であると回答した人は5.5%（45名）、年齢は20歳代、30歳代が68.9%であった。
○近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいると回答した人は23.7%であった。

回答者の周辺におけるひきこもりの方の有無



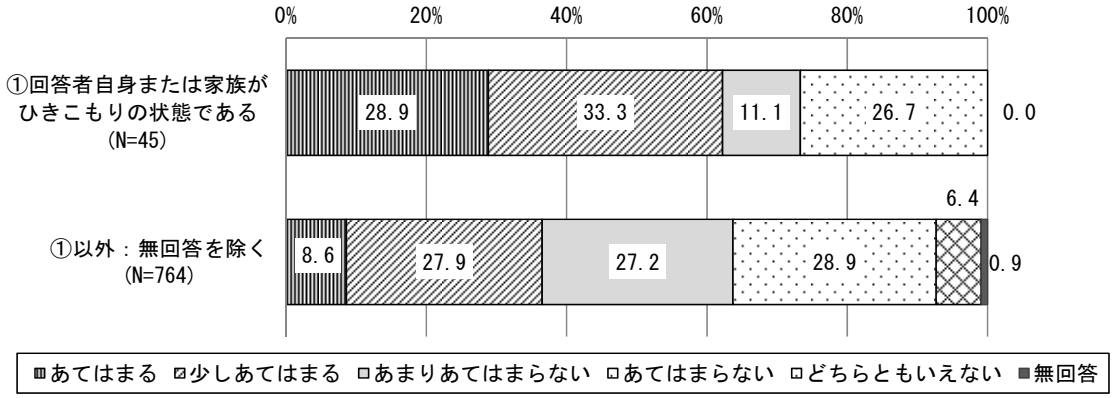
① 回答者自身または家族がひきこもりの状態（45名）・当事者の年齢
② 近所の人、親戚・知人がひきこもりの状態（193名）・当事者の年齢



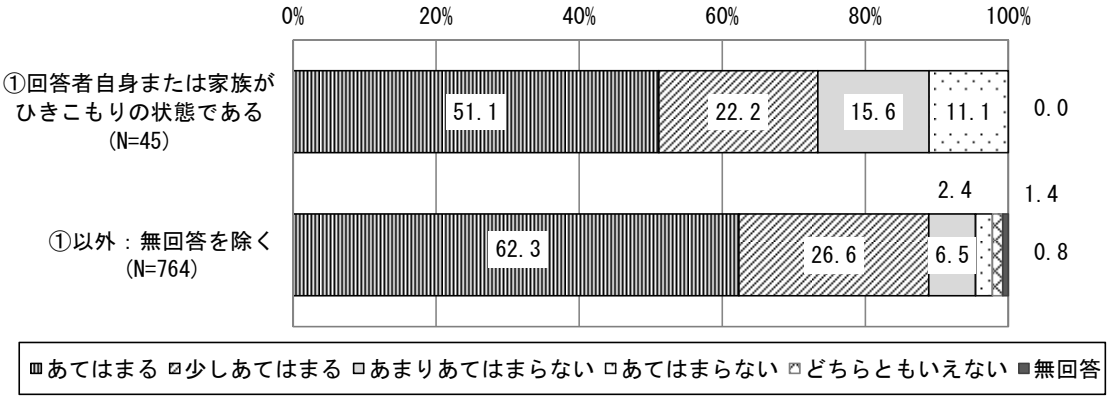
（複数回答）

○「回答者自身または家族がひきこもりの状態である」人では、人づきあいに苦手さを感じている人が 62.2%、悩みや困りごとを相談できる家族・友人がいない人が 26.7%、自宅・自室以外に安心できる居場所がないと感じている人が 35.5%である。

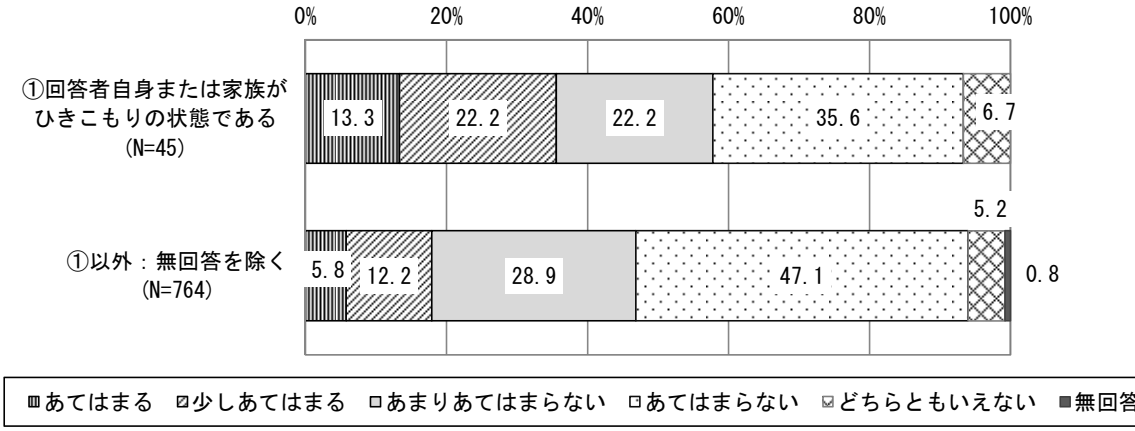
「人づきあいが苦手である」の回答状況



「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」の回答状況



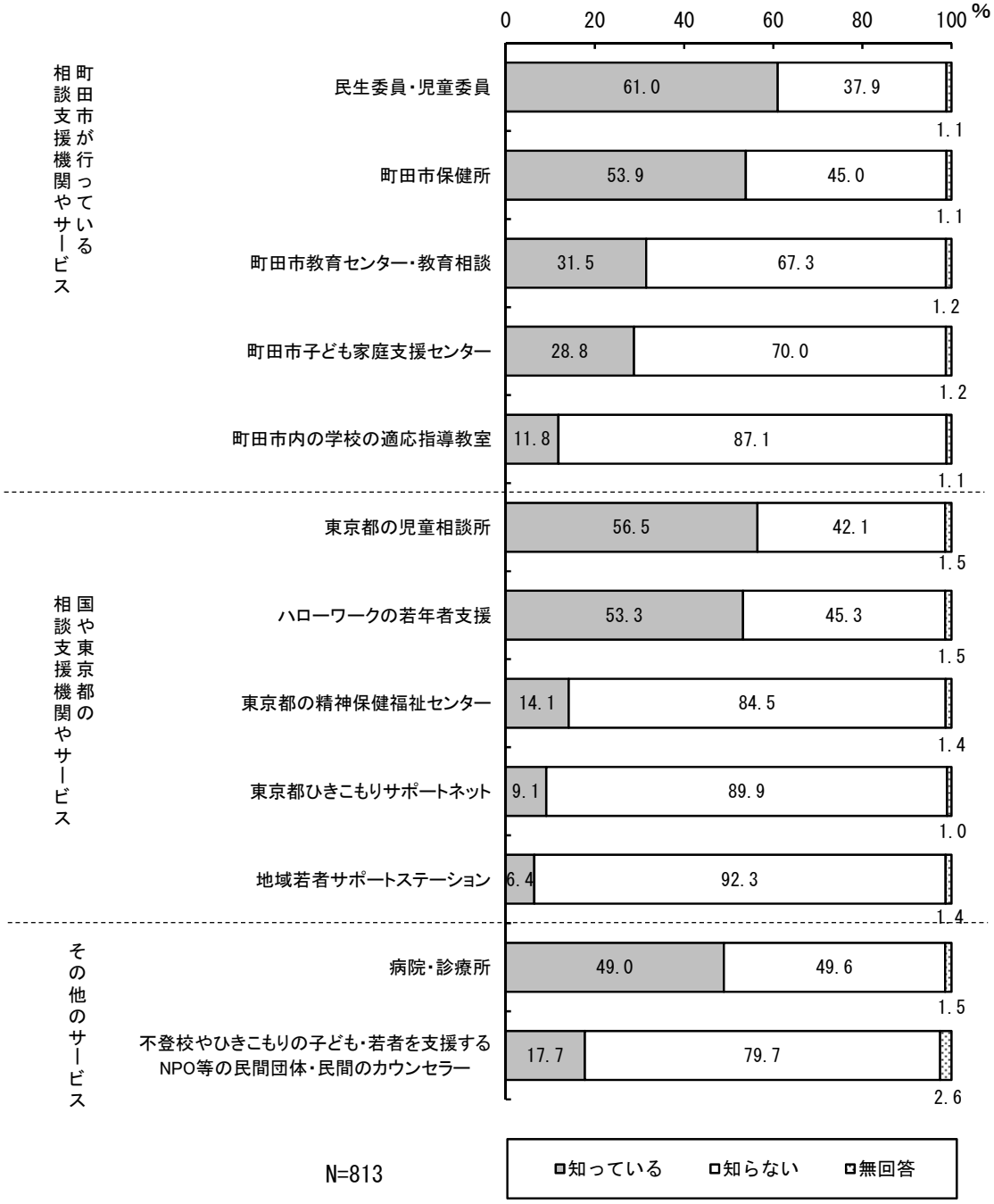
「自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる」の回答状況



（３）ひきこもり者の社会復帰を支援する社会資源（支援機関）について

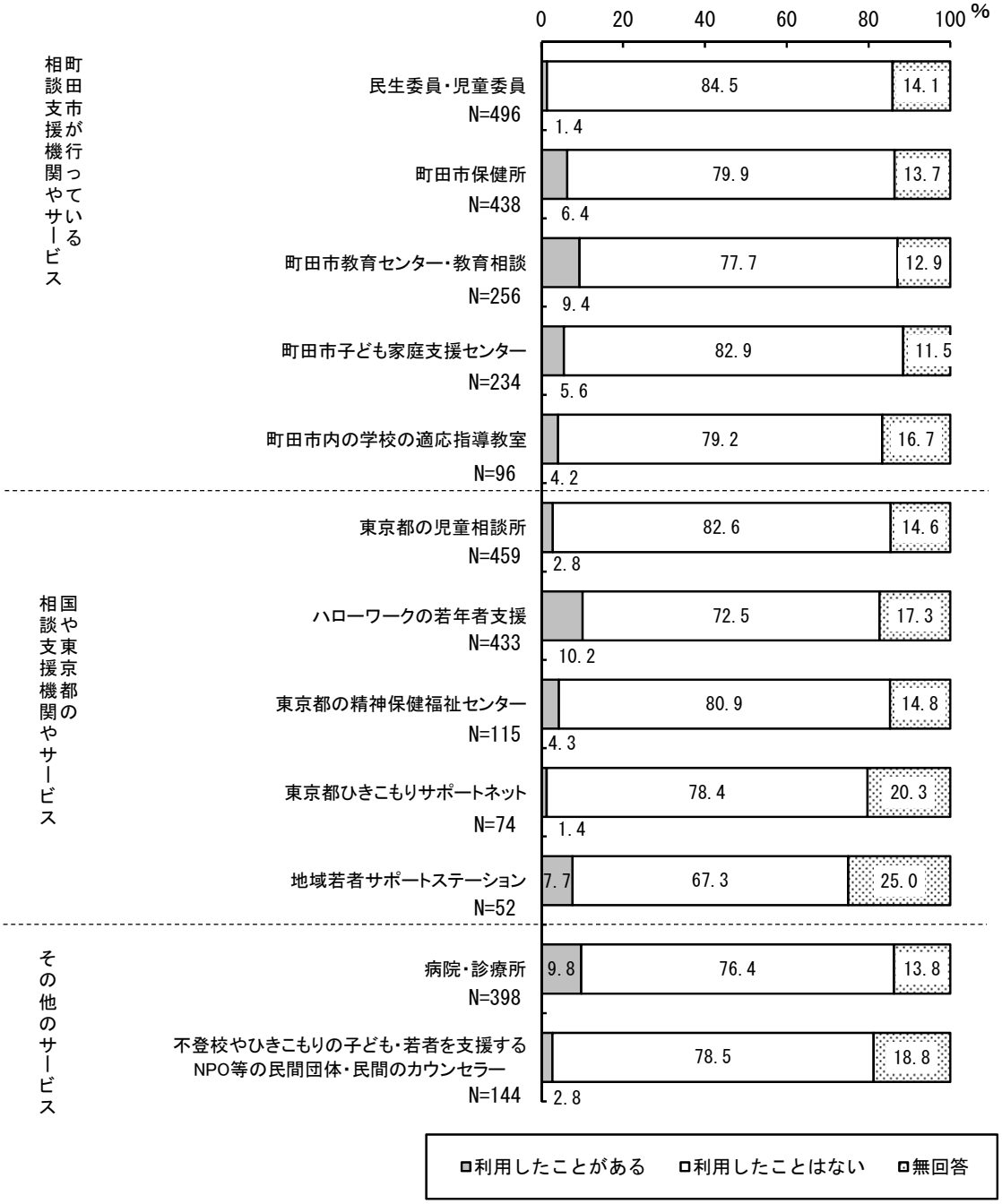
○認知度が概ね半数を超えているサービスや機関は「民生委員・児童委員」「児童相談所」「保健所」「ハローワークの若年者支援」「病院・診療所」である。

「ひきこもり」に関する社会資源の認知



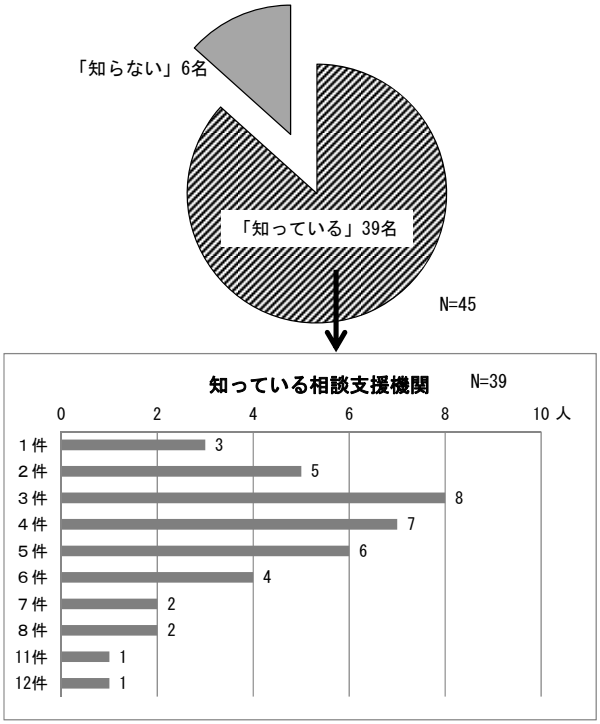
○実際にサービスを利用したという人は、回答者全体でみると少ないが、12 項目中最も多かったのは「ハローワークの若年者支援」で 44 名であった。これは、「ハローワークの若年者支援」を「知っている」と回答した人 433 名の 10.2%にあたる。次いで「病院・診療所」(39 名)、「町田市保健所」(28 名)、「町田市教育センター・教育相談」(24 名)となっている。

「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（利用経験）

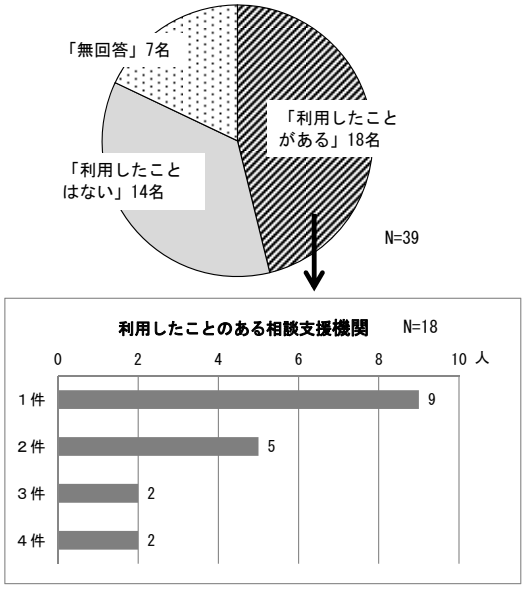


○本人または家族がひきこもりの状況の 45 名のうち 1 件も支援機関やサービスを知らない人は 6 名であった。
○相談支援機関やサービスを知っている 39 名のうち、「利用したことがある」人は 18 名であった。

本人または家族がひきこもりの状況の人（45 名）の相談支援機関やサービスの認知状況



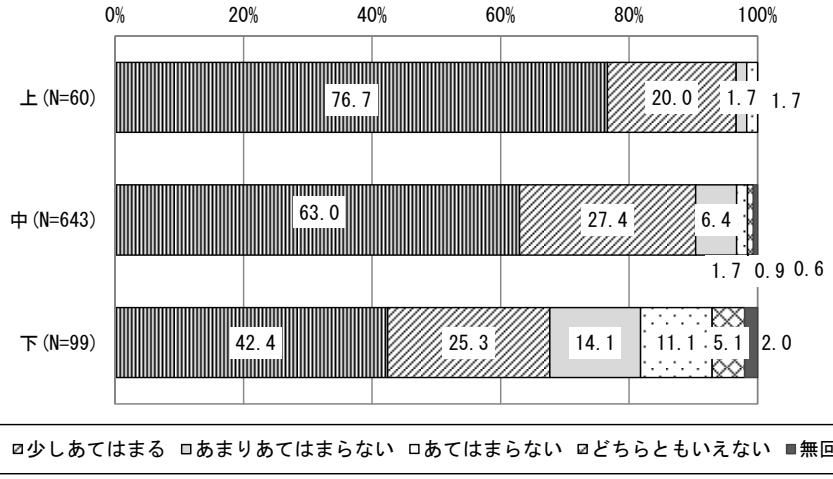
本人または家族がひきこもりの状況の人（45 名）の相談支援機関やサービスの利用状況
（相談支援機関やサービスを認知している人 39 名の内訳）



（４）「ひきこもり」の問題以外の状況
①暮らし向き別にみた状況

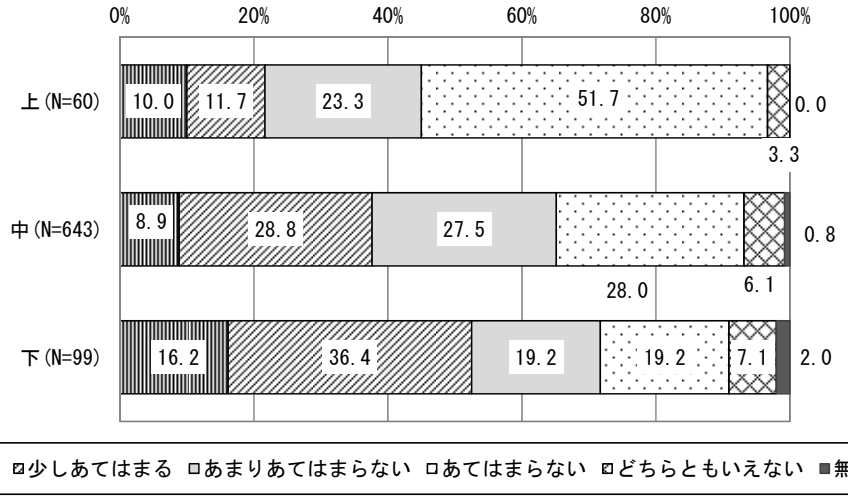
○「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」について、「上」と感じている人では「あてはまる」「少しあてはまる」の割合が高く、「中」「下」となるほどその割合は低くなっている。

暮らし向き別にみた　回答者自身の状況について
－ 悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－



○「自宅・自室以外に安心できる居場所がないと感じる」について、「下」と回答した人では「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合が高く、「中」、「上」となるほどその割合は低くなっている。

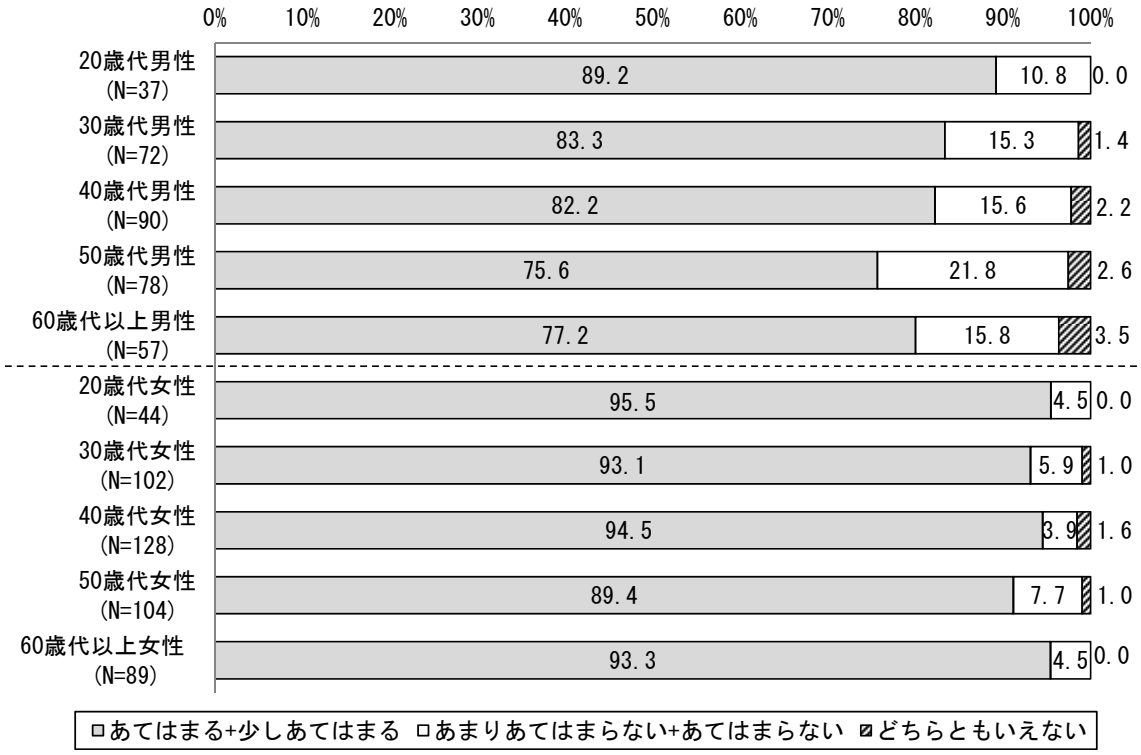
暮らし向き別にみた　回答者自身の状況について
－自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－



②年齢別にみた状況

○50 歳代男性では「相談できる家族や知人がいない」人の割合が他と比べて高い。

「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」の回答状況



**5%有意

２　若年者の自立に関する調査（民生委員・児童委員調査）

１）調査概要

【調査対象及び回収の状況】
　調査対象者　町田市内の民生委員、主任児童委員　244 名
　回収件数　　156 件（有効回収率　63.9%）
【調査方法】9 地区の定例民生委員児童委員協議会で直接配布、郵送による回収
【調査期間】2012 年 10 月

２）調査結果の見方

①　設問の回答者数はＮで表示している。
②　集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
③　標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、回答者数（N）＝156 とする場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下記の通りである。

各回答の比率	5%又は95%	10%又は90%	15%又は85%	20%又は80%	25%又は75%	30%又は70%	35%又は65%	40%又は60%	45%又は55%	50%
標本誤差	±1.24%	±1.70%	±2.03%	±2.27%	±2.46%	±2.60%	±2.71%	±2.78%	±2.83%	±2.84%

④　統計的検定結果については、5%水準に＊印を、1%水準に＊＊印を、それぞれ付記した。
⑤　自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

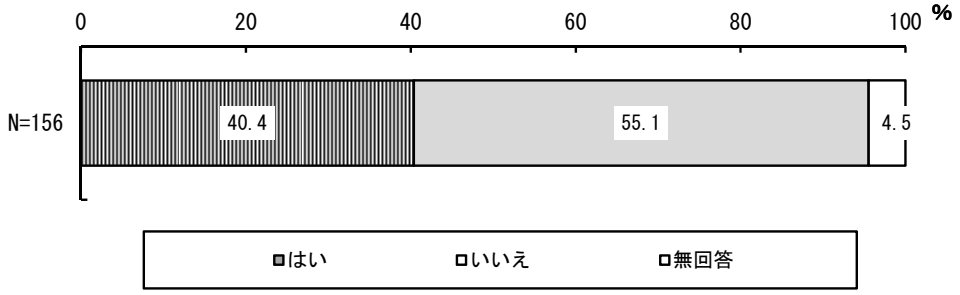
３）回答者の属性

【民政委員・児童委員歴】平均 6.5 年

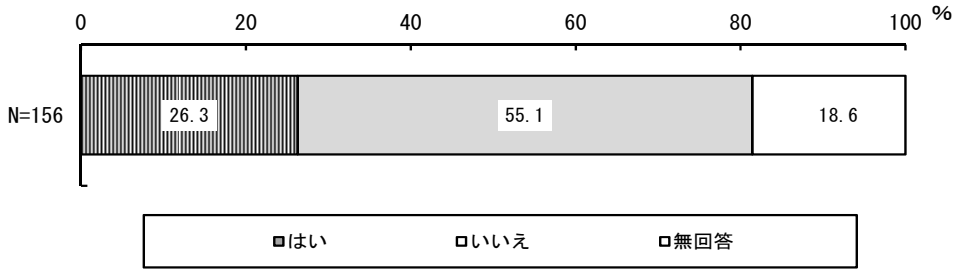
４）調査結果

○担当地区内にひきこもり傾向にある人がいると回答した人は 40.4%、相談や情報提供を受けたことがあると回答した人は 26.3%であった。
○相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこととしては「対応方法がわからない」、「こちらからの働きかけを拒否、無視される」等である。

相談や情報提供は受けていないが、
担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方がいる



「ひきこもり」又は、「ひきこもり」の傾向にある方に関する、
相談・情報提供を受けたことがある



○相談・情報提供を受けた後の対応については、「その他」が最も多く 18 件、次いで「訪問や電話相談を行った（行っている）」（15 件）、「行政機関、専門機関に相談した」（14 件）が多い。

相談を受けた後の対応（複数回答）

	件数	割合 N=41	割合 (除無回答) N=41
訪問や電話相談を行った（行っている）	15	36.6	36.6
行政機関、専門機関に相談した	14	34.1	34.1
他の民生委員・児童委員に相談した	8	19.5	19.5
自治会・町内会の役員に相談した	2	4.9	4.9
その他	18	43.9	43.9
無回答	0	0.0	－
全　　体	57	－	－

相談を受けた後の対応：「その他」の内容

内　容	（件）
見守っている	6
家族と話をしている、家族への情報提供	5
本人から話を聞いている、本人への情報提供	2
今後訪問予定	1
交番との打ち合わせ	1
対応していないが対応困難	1
訪問しているが応答がない	1
合　計	17

○相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこととして最も多かったのは「対応方法がわからない」、「こちらからの働きかけを拒否、無視される」という意見であった。また「見守ってくださいと言われたが、具体的にどのようにしたらよいかわからない」、「精神疾患の方への接し方がわからない」など、全体として当事者や家族との関わり方について課題と感じている状況がうかがえる。

相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこと（自由回答）

内　容	（件）
対応方法が分からない	5
こちらからの働きかけを拒否、無視される	5
見守りの場合、対応が難しい	4
精神疾患の方への接し方がわからない	3
近隣住民が困っている（騒音等）	3
家族が隠したがる	2
本人・家族の態度（問題と思っていない）	2
個人情報の取り扱い	2
その他	5
合　計	31

○一般市民調査と比較すると、全体的にひきこもりの問題への関心が高く、支援の必要性、早期解決の必要性について、一般市民よりも高い割合で支持している傾向がみられる。また「地域のひきこもりの人や家族に対する支援活動」について、一般市民よりも関心や活動意欲が高くなっている。

「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

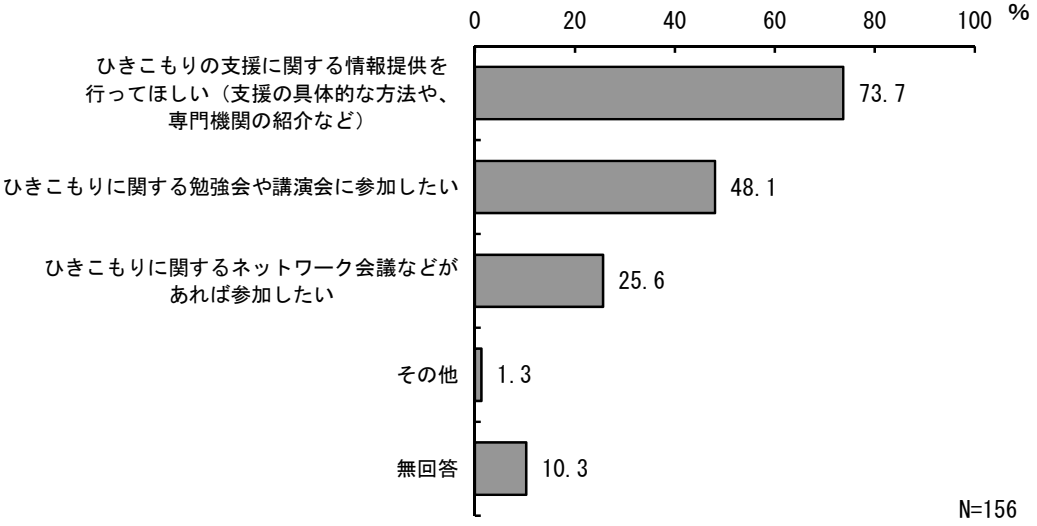
	民生委員調査 (N=156)			一般市民調査 (N=813)		
	そう思う＋少しそう思う	そう思わない＋あまりそう思わない	どちらともいえない	そう思う＋少しそう思う	そう思わない＋あまりそう思わない	どちらともいえない
「ひきこもり」の問題に関心がある	**86.5**	7.1	4.5	65.9	25.8	7.4
「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	**79.5**	12.2	6.4	77.1	15.9	5.8
「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	56.4	27.6	11.5	**61.6**	27.1	10.0
「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	57.7	28.8	10.9	**62.5**	28.0	8.4
「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	52.6	34.0	11.5	**65.3**	26.4	7.4
現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	64.7	26.3	6.4	**66.8**	28.8	3.8
「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	**82.1**	10.3	3.2	78.7	14.9	5.8
「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	42.3	40.4	14.1	**65.7**	23.5	10.0
「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	**87.2**	5.1	4.5	78.6	15.6	4.9
「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	**78.8**	10.3	8.3	65.7	25.0	8.5
「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	**82.1**	9.6	5.8	74.8	16.9	7.5
不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	**90.4**	4.5	3.2	83.2	10.7	5.3
「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	**89.7**	3.8	3.2	83.6	10.2	5.2
「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	**91.7**	2.6	2.6	91.0	5.7	2.5
地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	**73.1**	13.5	9.6	47.4	38.5	12.5
ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う	67.3	16.0	13.5	－	－	－

※網掛け部分は、「そう思う＋少しそう思う」の割合が高い方を示す

**1%有意

○「ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい」(73.7%)、「ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい」(48.1%)、「ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい」(25.6%) であった。

ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること（複数回答）



３　社会資源調査（精神保健・医療分野）

１）調査概要

【目的】

「ひきこもり」などの状態にある若者の相談支援の充実を図るため、

①医療機関へ訪問調査を行い、児童思春期に係わる診療状況の実態把握をする

②地域の支援関係者と、顔の見えるネットワークを構築する

【調査対象及び協力状況】

調査対象医療機関　36 ヶ所

調査協力医療機関　全 36 ヶ所

※P. 119　社会資源調査（精神保健・医療分野）機関一覧　参照

① 市内病院（精神科外来を含む）9 ヶ所、市内診療所（精神科、心療内科）20 ヶ所

② 町田市近郊の児童思春期に対応している病院（精神科）7 ヶ所

【調査方法】郵送にて調査票を配布後、保健師 2 名体制で訪問し聞き取り調査を実施

※聞き取り調査は、医療機関の院長又は医療連携室担当者等を対象に実施した。

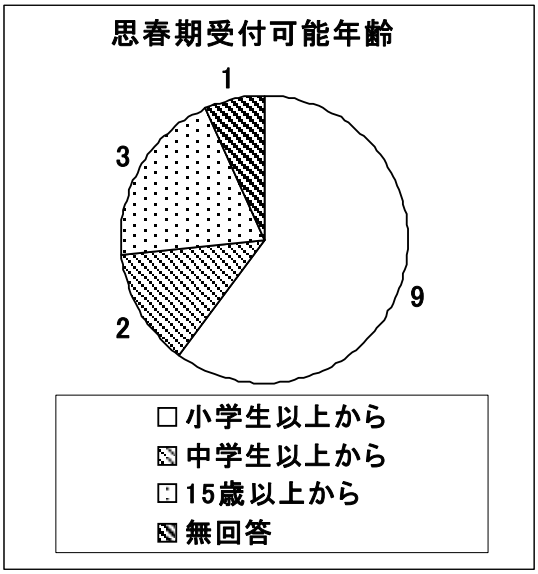
【調査期間】2012 年 7 月～9 月

２）調査結果

【町田市内における児童思春期に係わる診療状況】

市内医療機関 29 ヶ所のうち、児童思春期を対応可能と回答した医療機関は 15 ヶ所であった。そのうち、診療内容でカウンセリング及び心理検査実施機関は 6 ケ所であった。以下は、市内の児童思春期を対応可能と回答した医療機関 15 ヶ所の傾向についての結果である。

① 受付可能年齢：小学生以上　9 ヶ所、中学生以上　2 ヶ所、15 歳以上　3 ヶ所であった。

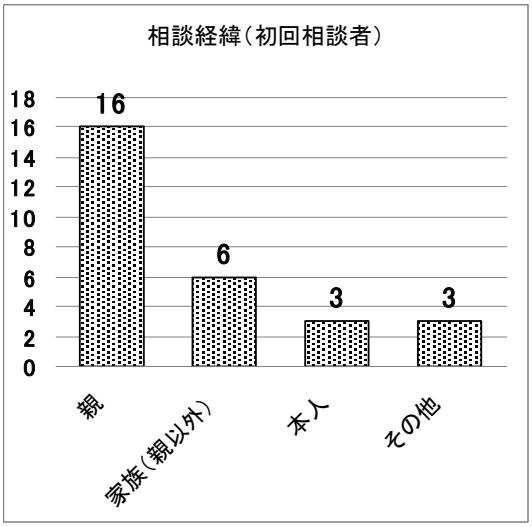


思春期受け付け可能年齢	
小学生以上から	9
中学生以上から	2
15 歳以上から	3
無回答	1
総計	15

② 紹介元：学校　8 ヶ所、教育センター　4 ヶ所、その他として、家族、児童相談所、保健所、口コミであった。（複数回答）

紹介元	
学校	8
教育相談センター	4
その他	6
○その他の内訳：　家族、児童相談所、保健所、口コミ	

③ 相談の経緯（初回相談者）：親 16 件、家族（親以外）6 件、本人 3 件であった。（複数回答）

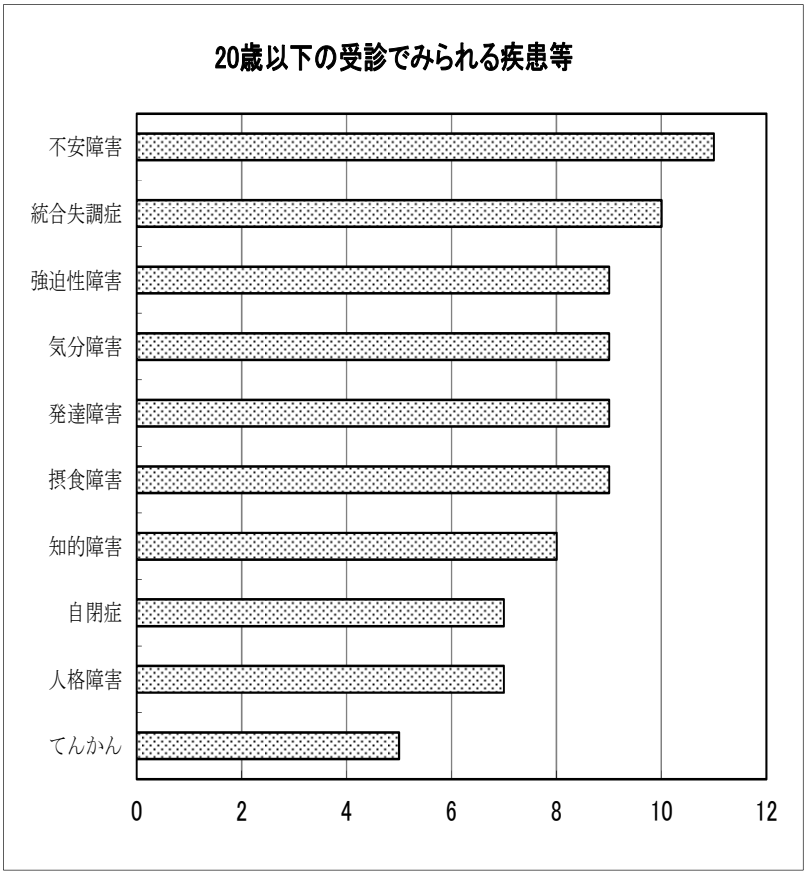


相談の経緯（初回相談者）	
親	16
家族（親以外）	6
本人	3
その他	3

④ 主訴：自傷行為、自殺企図、うつ、暴力、多動、不適応、不登校、頭痛、腹痛、適応障害、ひきこもり等であった。（複数回答）

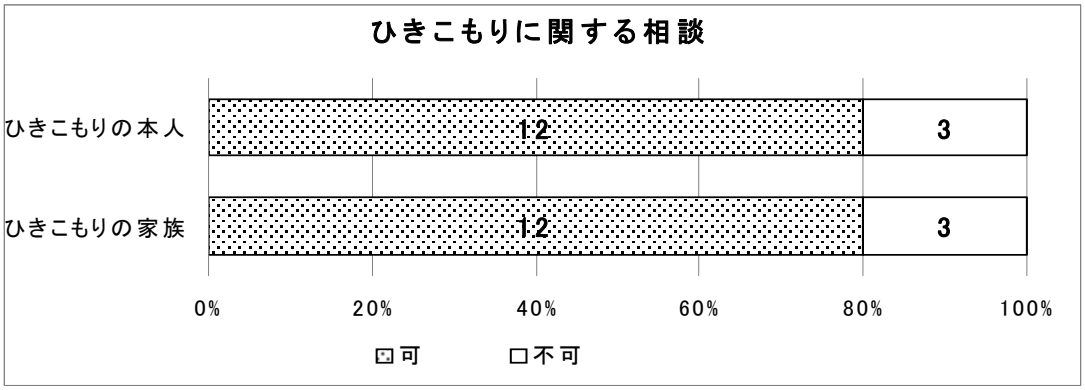
主訴	
自傷行為	4
自殺企図	1
○その他：うつ、暴力、多動、ひきこもり、適応障害、不適応、不登校、頭痛、腹痛等	

⑤ 20 歳以下でみられる主な疾患：不安障害、強迫性障害、統合失調症、摂食障害、発達障害、気分障害等であった。その他の疾患等として、いじめ、不登校、パニック障害、新型うつが挙げられた。（複数回答）



20歳以下の受診でみられる疾患等	
不安障害	11
統合失調症	10
強迫性障害	9
気分障害	9
発達障害	9
摂食障害	9
知的障害	8
自閉症	7
人格障害	7
てんかん	5
○その他の内訳：パニック障害、新型うつ、いじめ、不登校	

⑥ ひきこもりの相談を受けることが可能と回答した医療機関、家族相談が可能と回答した医療機関はそれぞれ 12 ヶ所であった。



ひきこもりに関する相談	可	不可
ひきこもりの本人	12	3
ひきこもりの家族	12	3

⑦ 保健所へ期待すること：入院支援や退院後のフォロー、家族支援などの個別支援活動の他、地域との連携強化や、疾患についての普及啓発、社会資源情報の発信、社会復帰の場の提供、精神保健における医療連携の中心的な役割を担ってほしい等の意見が聞かれた。

保健所に期待すること、要望
・地域と積極的に連携したい。 ・地域生活を送る上でのフォローをお願いしたい。 ・障がい福祉課と保健所の役割分担がわかりにくい。 ・病気の理解等の啓発が大切。 ・精神保健における医療連携の中心的な役割を担ってもらいたい。 ・患者にあれやこれやとプレッシャーをかけないでほしい。 ・ひきこもりの病態を理解して訪問してほしい。 ・療育、未就学の人の社会資源を知りたい。 ・ひきこもりの方が利用できる居場所や、デイケア、活動の場などを提供してほしい。 ・診療所だけでは解決が困難な場合、行政は協力をしてほしい。 ・病識の無い人の受診に向けた支援をしてほしい。

Ⅲ　「若年者の自立に関する調査」からみた現状と施策の方向性

１　調査結果にみる町田市の「ひきこもり」に関する状況

１）「ひきこもり」に対する市民の理解や意識について

若者の自立や就労に対して、「自立していない若者が増えている」と感じている市民は78.4%、「フリーターやアルバイトなど様々な働き方があってもよい」70.8%、「若者の自立に向けた社会的支援は必要」83.9%であった。多様な働き方を肯定している市民が多く、自立に向けた社会的支援が必要と考える市民も多いことがわかった。

「ひきこもり」の問題に対する市民の意識をみると、全体的に関心が高く、78.6%の方が社会的支援が必要と考えていた。「ひきこもりの人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要である」については83.6%が肯定しており、「地域でのひきこもりの人や家族に対する支援活動」についてでは、47.3%が関心を持っていることがわかった。また、「ひきこもり」の長期化等の状況を知っている人は、知らない人と比べてひきこもりの問題への関心が高かった。

これらの結果から、身近な地域における「ひきこもり」の現状について理解を深めるための普及啓発を行い、当事者や家族が孤立しないような地域社会や、市民の方の支援活動につながるきっかけづくりを行っていくことの重要性を改めて確認できた。

さらに、市民の「若者の自立や就労に関する意識」と、「『ひきこもり』に対する意識」との関連性では、「現在の経済状況では働きたくても働けない若者がいるのは仕方ない」と、「若者の自立への社会的支援が必要」の両方の考えを示しているグループは、そうでないグループに比べて、若者の多様な社会参加についても肯定する人が多かった。このことから、ひきこもりの若者が社会復帰するにあたり、地域での潜在的な理解者、支援者が存在していることが考えられた。今後、効果的な普及啓発を進めることで、当事者が地域社会において、社会参加の機会を確保する一助になることも期待される。

２）当事者を取り巻いている環境について

「一般市民調査」の結果、回答者自身または家族がひきこもりの状態であるとした人は5.5%（45名）、近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいるとした人は23.7%であった。

ひきこもり群の推計は、東京都の調査「実態調査からみるひきこもる若者のこころ」（平成19年度若年者自立支援調査研究報告書）によると、15～34歳人口の0.72%、内閣府の調査「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）報告書」（平成22年7月）によると15～39歳人口の1.79%とされている。

東京都と内閣府の調査は、調査対象者を15～34歳（内閣府では15～39歳）の男女とし、行動類型を把握する調査項目「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどに出かける」「自室からは出かけるが、家からは出ない」等の状況が6ヶ月以上続いている回答者をひきこもり群と設定している。

本調査においては、調査対象者を20～64歳とし、調査票上、ひきこもりの状態を「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態であり、時々は買い物などで外出することもある場合も『ひきこもり』に含める」と明示したうえで、「自分自身、または家族に『ひきこもり』の状態にあてはまる人がいるのか否か」「近所の人や親戚・知人に『ひきこもり』の状態にあてはまる人がいるのか否か」を調査項目として設定している。

本調査の結果を、東京都及び内閣府の調査結果に基づく推計と比較することは困難であるが、地域社会においてひきこもりの状態にあると認知されている若者が身近に存在しており、支援体制の確立が喫緊の課題であるとこが明確となった。

また、前記 45 名の傾向を見ると、「人づきあいに苦手さを感じている」（62.2%）、「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいない」（26.7%）など、当事者が相談相手を持ちにくい状況であることが伺えた。また、「自宅、自室以外に安心できる居場所がない」人は 35.5%で、身近にひきこもりの者のいない人の同回答（18.0%）と比較すると高かった。

一方で、「民生委員・児童委員調査」の結果では、40.4%が「担当地区内にひきこもり傾向にある人がいる」としており、89.7%が「地域社会のつながりが必要」とするなど、地域コミュニティの重要性が指摘された。

これらの結果から、ひきこもりの課題を抱える当事者や家族が、早期に相談でき、緩やかな社会復帰を地域で支え、見守る環境づくりが重要であることが改めて確認できた。

３）ひきこもり者の社会復帰を支援する社会資源（支援機関）について

回答者自身または家族がひきこもりの状態であるとした 45 名の、相談支援機関やサービスの認知件数は 39 名（86.7%）と高かった。一方で、6 名は 1 件も知らない状況であった。また、相談支援機関やサービスを知っている者のうち、実際に利用している者は 18 名（46.2%）と利用状況が低かった。支援が必要な市民に、既存の支援機関の情報が届いていない現状や、情報があっても利用につながっていない状況が明らかになり、情報提供についての工夫や、ニーズに応じた相談支援機関の整備など、相談しやすい体制づくりが必要であることが確認できた。

また、「不登校から、ひきこもりにつながらないための学校からの支援の必要性」については、「一般市民調査」では 83.2%、「民生委員・児童委員調査」では 90.4%が肯定しており、義務教育から青年期にかけての途切れのない支援の必要性が支持された。

４）「ひきこもり」の問題以外に見えてきたこと

今回の調査を通じて、「暮らし向きが良くない」と感じている層で「悩みや困りごとの相談相手がいない」「人づきあいが苦手である」「自宅、自室以外に安心できる居場所がない」人が多いことがわかった。また、男性は家庭内での会話が少なく、人づきあいを苦手と感じ、悩みや困りごとの相談相手が少ない傾向がみられた。思春期から青年期の子どもの親の世代では、相談相手も少なく、居場所がないと感じる状況であった。中高年の男性の心の健康や、社会的孤立の予防は、自殺対策とも関わりが深く、庁内の関連分野や関係機関と連携を図りながら、取り組んでいく必要がある。

さらに、関係機関と支援ネットワークを構築する中で、思春期・青年期の親の世代への対応状況についても把握し、支援のあり方を検討していく必要がある。

５）児童思春期に関わる医療の状況

社会資源調査（精神保健・医療分野）の結果、市内の医療機関 29 ヶ所のうち、児童思春期を診療可能とした医療機関は 15 ヶ所であった。そのうち、ひきこもりの相談対応が可能と回答した機関は 12 ヶ所であった。このことから、市内において、複数の医療機関で児童思春期やひきこもり者の診療が可能な状況にあることが明らかになった。

一方、診療している中で、保健所に対し、家族への対応や、社会資源の情報、社会復帰の場の提供などの要望の他、地域連携の強化や、精神保健における医療連携の中心的な役割を担ってほしいという意見も聞かれるなど、期待も高いことがわかった。

これらの結果は、今後の医療機関を含めたひきこもり者支援ネットワークの構築に反映させていく必要がある。

２　今後の施策の方向性

１）来年度調査（当事者調査）に向けて

今年度の調査により、ひきこもり者に対する支援体制の確立は喫緊の課題であることがわかった。来年度は、「当事者調査」を行い、そのきっかけやひきこもりの状態を継続してしまう社会的要因、当事者が必要としている支援方法や、支援サービスについて具体的に把握していく。

２）「ひきこもり」の問題の周知と、支援サービスに関する情報の提供

保健所では、ひきこもりの方やその家族に対する支援に 10 年以上にわたり取り組んできた。今後は、さらにひきこもりの現状に対する市民の理解を深めることで、地域協力者や支援者と行政機関との連携を構築し、当事者・家族を地域で支える仕組みづくりにつなげていく。

また、支援が必要な市民に支援機関が知られていない現状から、情報提供の工夫と、早期に相談できる体制づくりに取り組んでいく。

３）民生委員・児童委員との連携の強化

民生委員・児童委員は、各担当地域において、ひきこもり者に関する情報を早期に探知する機会が多い。今回の調査では、民生委員・児童委員のひきこもり支援への関心が高く（73.1%）、積極的に関わっていきたいと考えていた。その一方で、本人や家族へどのように関わったらよいのか「対応方法が分からない」「拒否されるなどがあり難しい」などと、困っている状況があることもわかった。

今後も、相談を受けた際の対応や相談機関への紹介などがスムーズにできるよう、学習会・講演会等の実施、情報交換、情報提供等を充実させていく。

４）関係機関との連携、ネットワークの構築に向けて

今年度は、社会資源調査（精神保健・医療分野）を実施し、市内及び近郊の児童思春期に係わる診療状況の実態や、ネットワーク構築に向けての意見を把握することができた。また、保健師が医療機関に訪問し、聞き取り調査を実施したことで、顔の見える関係が構築され、個別支援活動や保健所事業（講演会等）において、新たな医療機関の協力も得ることができるようになった。

来年度は、関係部署と連携し総合的なネットワークの構築に向けた基盤づくりを進めるため、社会資源調査の対象を拡げ、ひきこもり支援に関わるＮＰＯ、就労関係機関、教育機関等の支援内容等を把握していく。

〈　資　料　編　〉

一般市民調査結果データ

１　調査概要

【調査対象及び回収の状況】

調査対象者　2,000 名（町田市内在住の 20 歳から 64 歳の市民の中から無作為抽出）
回収件数　　820 件
有効回答件数　813 件（有効回収率　40.7%）

【調査方法】

郵送による配付、回収

【調査期間】

2012 年 9 月 14 日～9 月 30 日

２　調査結果の見方

① 設問の回答者数はＮで表示している。
② 集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
③ 標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なる。各回答の比率における誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下表の通りである。

回答数(N)	5%又は95%	10%又は90%	15%又は85%	20%又は80%	25%又は75%	30%又は70%	35%又は65%	40%又は60%	45%又は55%	50%
N=800	±1.5%	±2.1%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.2%	±3.3%	±3.4%	±3.4%	±3.5%
N=500	±1.9%	±2.6%	±3.1%	±3.5%	±3.8%	±4.0%	±4.2%	±4.3%	±4.4%	±4.4%
N=300	±2.5%	±3.4%	±4.0%	±4.5%	±4.9%	±5.2%	±5.4%	±5.5%	±5.6%	±5.7%
N=100	±4.3%	±5.9%	±7.0%	±7.8%	±8.5%	±9.0%	±9.3%	±9.6%	±9.7%	±9.8%
N=50	±6.0%	±8.3%	±9.9%	±11.1%	±12.0%	±12.7%	±13.2%	±13.6%	±13.8%	±13.9%

※回答数 800、そのうち 30%（＝回答の比率）が回答した場合、この回答に対する誤差は±3.2%である。

④ 統計的検定結果については、5%水準に＊印を、1%水準に＊＊印を、それぞれ付記した。
⑤ 自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

３　回答者の属性

１）性別

○女性（57.4%）が男性（41.1%）を上回っている。

問 12　回答者の性別

	件数	割合 N=813	割合 （除無回答） N=801
男性	334	41.1	41.7
女性	467	57.4	58.3
無回答	12	1.5	－
全　　体	813	100.0	100.0

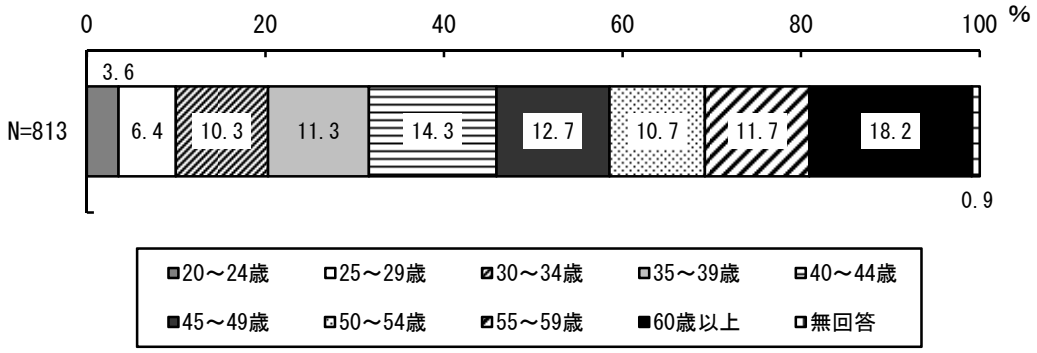
２）年齢

○「60 歳以上」が最も多く、次いで「40～44 歳」、「45～49 歳」となっている。20 歳代の割合は、他の年齢層と比べてやや低くなっている。
○住民基本台帳の年齢構成比と比較すると、回答者の 20 歳代の割合が低くなっており、60 歳代の割合が高くなっている。

問 13　回答者の年齢

	件数	割合 N=813	割合 （除無回答） N=806
20～24歳	29	3.6	3.6
25～29歳	52	6.4	6.5
30～34歳	84	10.3	10.4
35～39歳	92	11.3	11.4
40～44歳	116	14.3	14.4
45～49歳	103	12.7	12.8
50～54歳	87	10.7	10.8
55～59歳	95	11.7	11.8
60歳以上	148	18.2	18.4
無回答	7	0.9	－
全　　体	813	100.0	100.0

問 13　回答者の年齢



問 13　〈参考〉住民基本台帳の人口構成比との比較

	人口（人）	割合（%）	意識調査年齢構成比（%）
20～24歳	21,516	8.6	3.6
25～29歳	23,205	9.2	6.4
30～34歳	26,221	10.4	10.3
35～39歳	34,156	13.6	11.3
40～44歳	36,971	14.7	14.3
45～49歳	29,845	11.9	12.7
50～54歳	24,536	9.8	10.7
55～59歳	23,610	9.4	11.7
60歳以上	31,306	12.5	18.2
無回答	－	－	0.9
全　体	251,366	100.0	100.0

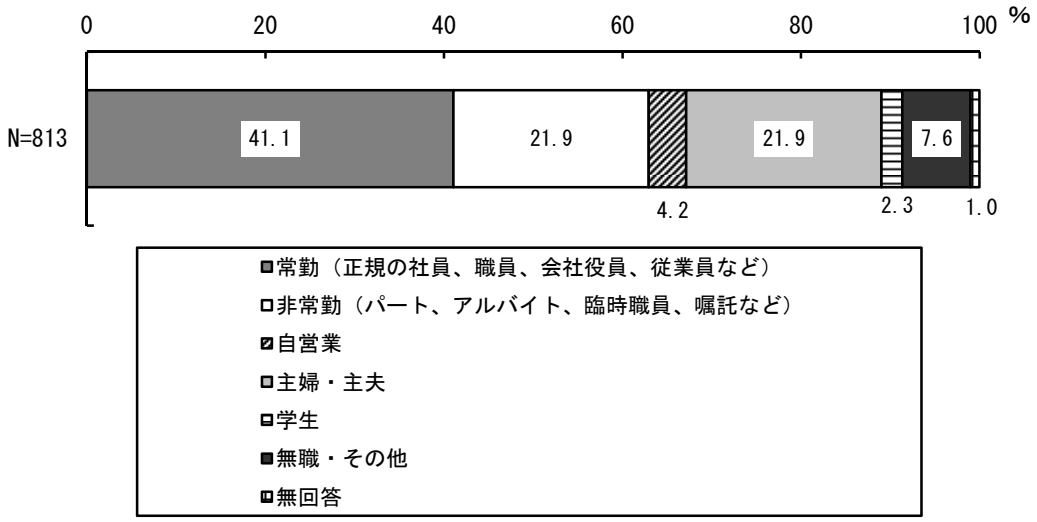
３）就業状況

○「常勤」が最も多く、次いで「非常勤」と「主婦・主夫」となっている。

問 14　回答者の就業状況

	件数	割合 N=813	割合（除無回答）N=805
常勤（正規の社員、職員、会社役員、従業員など）	334	41.1	41.5
非常勤（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託など）	178	21.9	22.1
自営業	34	4.2	4.2
主婦・主夫	178	21.9	22.1
学生	19	2.3	2.4
無職・その他	62	7.6	7.7
無回答	8	1.0	－
全　体	813	100.0	100.0

問 14　回答者の就業状況



４）家族構成

○「二世代世帯」が約 6 割で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」、「単身（一人世帯)」、「三世代世帯」となっている。

問 15　回答者の家族構成

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=803
単身（一人世帯）	86	10.6	10.7
夫婦のみの世帯	152	18.7	18.9
二世代世帯（親と子どもからなる家族）	481	59.2	59.9
三世代世帯	55	6.8	6.8
その他	29	3.6	3.6
無回答	10	1.2	－
全　　体	813	100.0	100.0

５）子育て経験の有無

○「はい（子育て経験あり）」（66.9%）が「いいえ」（31.9%）を上回っている。

問 16　回答者の子育て経験の有無

	件数	割合 N=813	割合 （除無回答） N=803
はい	544	66.9	67.7
いいえ	259	31.9	32.3
無回答	10	1.2	－
全　　体	813	100.0	100.0

６）住宅の形態

○「持ち家」が回答者全体の 4 分の 3 を占めている。

問 17　住居形態

	件数	割合 N=813	割合 （除無回答） N=805
持ち家　（一戸建て・共同住宅含む）	602	74.0	74.8
賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）	185	22.8	23.0
社宅・官舎・寮	9	1.1	1.1
その他	9	1.1	1.1
無回答	8	1.0	－
全　　体	813	100.0	100.0

７）暮らし向きについて

○「中の上」、「中の中」、「中の下」の３項目を合せると８割である。

問 18　暮らし向きについて

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=802
上の上	2	0.2	0.2
上の中	20	2.5	2.5
上の下	38	4.7	4.7
中の上	212	26.1	26.4
中の中	316	38.9	39.4
中の下	115	14.1	14.3
下の上	56	6.9	7.0
下の中	29	3.6	3.6
下の下	14	1.7	1.7
無回答	11	1.4	－
全　　体	813	100.0	100.0

８）居住地区

○「南地区」が最も多く、次いで「鶴川地区」、「町田地区」の順である。

問 19　居住地区

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=800
堺地区	61	7.5	7.6
忠生地区	113	13.9	14.1
鶴川地区	187	23.0	23.4
町田地区	158	19.4	19.8
南地区	281	34.6	35.1
無回答	13	1.6	－
全　　体	813	100.0	100.0

４　調査結果

１）「若者の自立」について

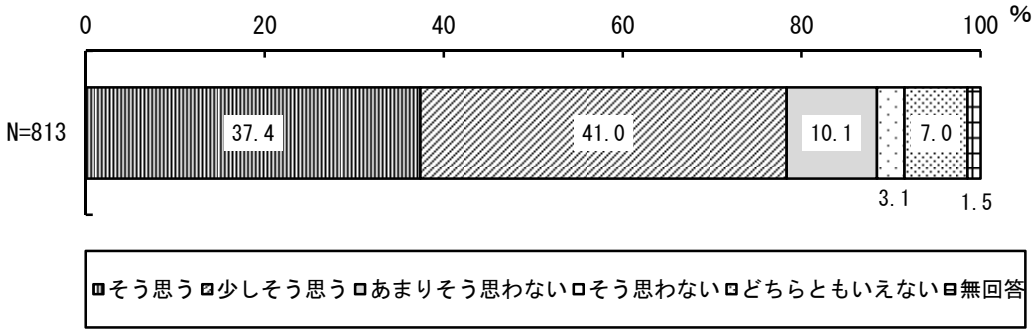
（１）「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

○「自立していない若者が増えている」と感じている市民が８割弱を占めている。

問１　「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=801
そう思う	304	37.4	38.0
少しそう思う	333	41.0	41.6
あまりそう思わない	82	10.1	10.2
そう思わない	25	3.1	3.1
どちらともいえない	57	7.0	7.1
無回答	12	1.5	－
全　　体	813	100.0	100.0

問１　「自立していない若者が増えている」ことに対する考え



■子育て経験の有無別、暮らし向き別にみた「自立していない若者が増えている」ことに対する考え

○子育て経験の有無別では「ある」人、暮らし向きが「上」と感じている人で、「自立していない若者が増えている」と感じている人が多い。

子育て経験の有無別（問 16）、暮らし向き別（問 18）にみた「自立していない若者が増えている」ことに対する考え（問 1）

問１　「最近、自立していない若年者が増えている」と言われていることについて

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	304	333	82	25	57	12	637	107	57
		100.0	37.4	41.0	10.1	3.1	7.0	1.5	78.4	13.2	7.0
問16 子育て経験	はい	544	36.8	44.1	9.2	2.4	6.1	1.5	80.9	11.6	6.1
	いいえ	259	38.2	34.4	12.4	4.6	8.9	1.5	72.6	17.0	8.9
	無回答	10	50.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	90.0	0.0	10.0
問18 暮らし向き	上	60	48.3	35.0	8.3	1.7	6.7	0.0	83.3	10.0	6.7
	中	643	36.9	42.5	10.1	3.1	5.8	1.7	79.3	13.2	5.8
	下	99	34.3	35.4	11.1	4.0	14.1	1.0	69.7	15.2	14.1

子育て経験：**1%有意
暮らし向き：　*5%有意

○自立していないと感じる理由は「定職についていない人が多い」「親に依存している」が多い。

問２　問１の回答状況別にみた意見内容

問1の回答状況	問２　意見内容	件数
1.そう思う	経済的に自立していない、定職についていない	37
	親への依存・実家で親に身の回りのことをやってもらっている	47
	メディアで報じられている	29
	周りの人（知人、家族）に自立していない人がいる	62
	責任感がない、自己中心的、他人任せ、コミュニケーション能力なし	48
	目標、夢がない	11
	少子化や経済状況などが影響している	22
	教育に問題がある(親、学校)	22
	自分自身が自立していないと思う	7
	その他	7
	（小　計）	292
2.少しそう思う	経済的に自立していない、定職についていない	41
	親への依存・実家で親に身の回りのことをやってもらっている	44
	メディアで報じられている	70
	周りの人（知人、家族）に自立していない人がいる	38
	責任感がない、自己中心的、他人任せ、コミュニケーション能力なし	39
	目標、夢がない	7
	少子化や経済状況などが影響している	6
	教育に問題がある(親、学校)	11
	自分自身が自立していないと思う	3
	その他	7
	（小　計）	266
3.あまりそう思わない	自分の周りの若者は自立している	27
	自立していないのは一部の人だけであると思う	8
	昔から自立していない人は一定数いたと思う	7
	その他	9
	（小　計）	51
4.そう思わない	自分の周りの若者は自立している	12
	自立していないのは一部の人だけであると思う	2
	昔から自立していない人は一定数いたと思う	2
	定義、根拠が曖昧	2
	（小　計）	18
5.どちらともいえない	周囲にそのような人がいないので、実感としてわからない	18
	自立の定義が曖昧である	6
	人それぞれ状況が違う	5
	（小　計）	29
無回答	周囲にそのような人がいないので、実感としてわからない	6
	自立の定義が曖昧である、個人差が大きい	2
	仕事そのものがない	4
	親に依存している	1
	（小　計）	13
	合　計	669

※複数回答あり

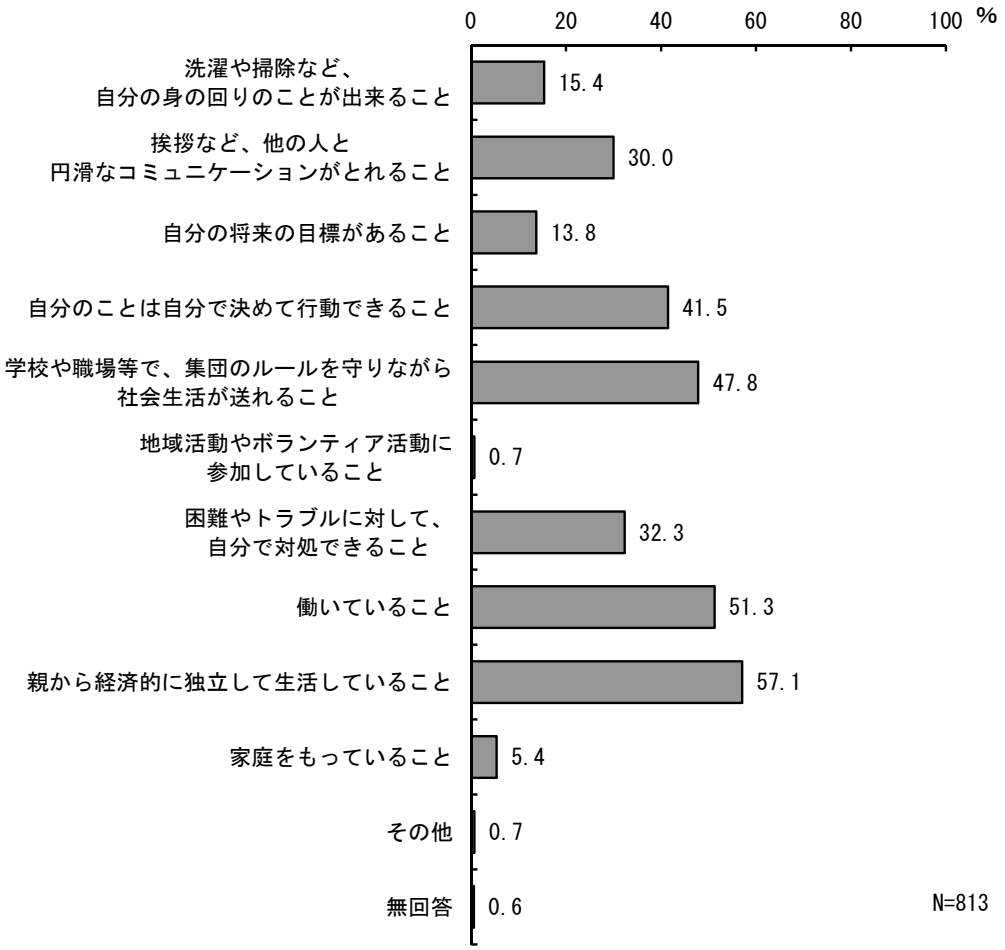
（２）重視する自立した若者の条件

○重視する自立した若者の条件については、就労しているかどうかが重視されていることがわかる。
○次いで、社会生活を送る上での意識や行動を挙げている人が多かった。

問３　重視する自立した若者の条件（3 つまで複数回答）

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=808
洗濯や掃除など、自分の身の回りのことが出来ること	125	15.4	15.5
挨拶など、他の人と円滑なコミュニケーションがとれること	244	30.0	30.2
自分の将来の目標があること	112	13.8	13.9
自分のことは自分で決めて行動できること	337	41.5	41.7
学校や職場等で、集団のルールを守りながら社会生活が送れること	389	47.8	48.1
地域活動やボランティア活動に参加していること	6	0.7	0.7
困難やトラブルに対して、自分で対処できること	263	32.3	32.5
働いていること	417	51.3	51.6
親から経済的に独立して生活していること	464	57.1	57.4
家庭をもっていること	44	5.4	5.4
その他	6	0.7	0.7
無回答	5	0.6	－
全　　体	2,412	－	－

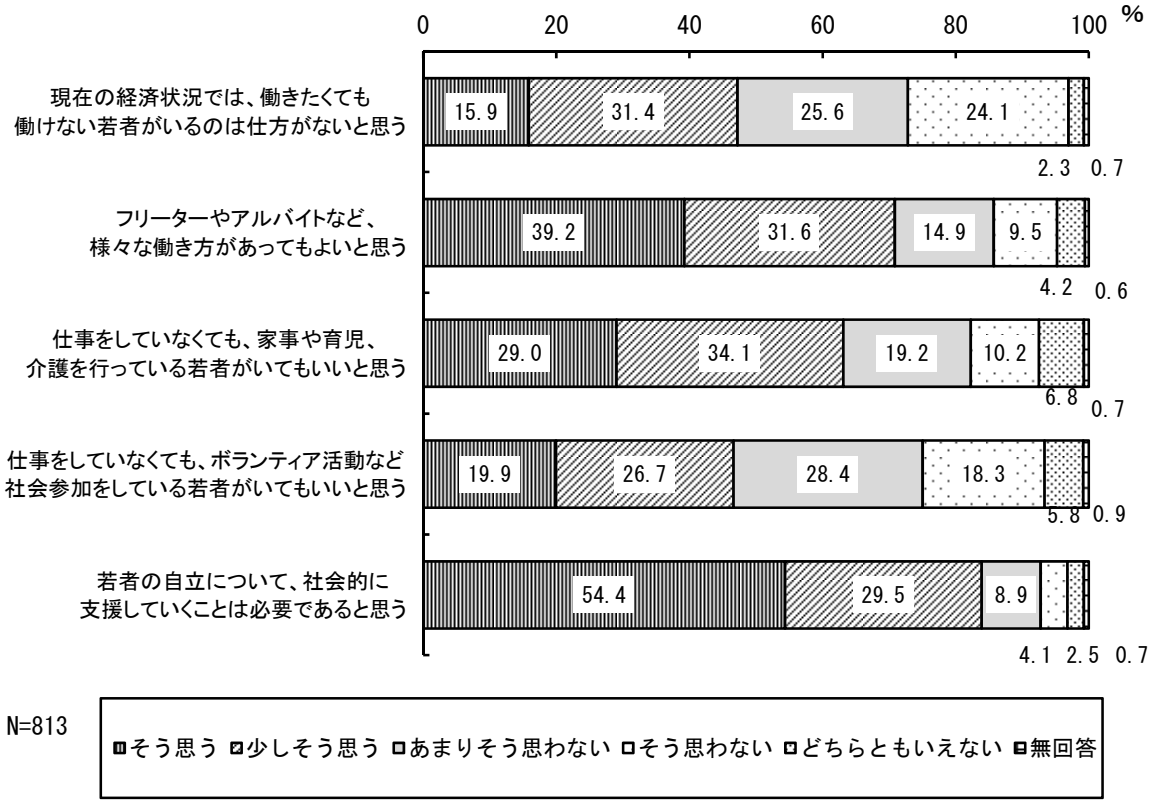
問３　重視する自立した若者の条件（3 つまで複数回答）



（３）若者の就労や社会参加についての考え

○回答者の 8 割以上が若者の自立に向けた社会的支援を支持しており、7 割がフリーターやアルバイトなど多様な働き方を肯定している。

問 4　若者の就労や社会参加についての考え



問４　若者の就労や社会参加についての考え

				そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1)	現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う		129	255	208	196	19	6	813
	(2)	フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う		319	257	121	77	34	5	813
	(3)	仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う		236	277	156	83	55	6	813
	(4)	仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う		162	217	231	149	47	7	813
	(5)	若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う		442	240	72	33	20	6	813
割合	(1)	現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う	N=813	15.9	31.4	25.6	24.1	2.3	0.7	100.0
	(2)	フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う	N=813	39.2	31.6	14.9	9.5	4.2	0.6	100.0
	(3)	仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う	N=813	29.0	34.1	19.2	10.2	6.8	0.7	100.0
	(4)	仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う	N=813	19.9	26.7	28.4	18.3	5.8	0.9	100.0
	(5)	若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う	N=813	54.4	29.5	8.9	4.1	2.5	0.7	100.0
割合(除無回答)	(1)	現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う	N=807	16.0	31.6	25.8	24.3	2.4	－	100.0
	(2)	フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う	N=808	39.5	31.8	15.0	9.5	4.2	－	100.0
	(3)	仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う	N=807	29.2	34.3	19.3	10.3	6.8	－	100.0
	(4)	仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う	N=806	20.1	26.9	28.7	18.5	5.8	－	100.0
	(5)	若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う	N=807	54.8	29.7	8.9	4.1	2.5	－	100.0

■就業状況別にみた　若者の就労や社会参加についての考え

ー「(1)現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」について

○就業状況別では「非常勤」「学生」「無職」で肯定的、「常勤」「自営業」では否定的な意見が多い傾向がみられる。

就業状況別（問 14）にみた　若者の就労や社会参加についての考え（問 4(1)）

（「現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」について）

問４(1)現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　　体		813	129	255	208	196	19	6	384	404	19
		100.0	15.9	31.4	25.6	24.1	2.3	0.7	47.2	49.7	2.3
問14	常勤	334	14.1	27.8	26.6	29.3	1.8	0.3	41.9	56.0	1.8
就業状況	非常勤	178	16.9	36.5	25.8	18.0	2.2	0.6	53.4	43.8	2.2
	自営業	34	17.6	20.6	26.5	32.4	2.9	0.0	38.2	58.8	2.9
	主婦・主夫	178	12.9	36.0	28.7	18.5	2.2	1.7	48.9	47.2	2.2
	学生	19	15.8	47.4	10.5	21.1	5.3	0.0	63.2	31.6	5.3
	無職・その他	62	30.6	24.2	16.1	22.6	4.8	1.6	54.8	38.7	4.8
	無回答	8	12.5	25.0	12.5	50.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0

*5%有意

■年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた若者の就労や社会参加についての考え
ー(2)フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う

○年齢別では若い年齢層、就業状況別では「学生」「無職」、子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い傾向がみられる。

年齢別（問 13）・就業状況別（問 14）、子育て経験別（問 16）にみた
若者の就労や社会参加についての考え（問 4(2)）
（「フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う」について）

問４(2)フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	319	257	121	77	34	5	576	198	34
		100.0	39.2	31.6	14.9	9.5	4.2	0.6	70.8	24.4	4.2
問13 年齢	20～24歳	29	55.2	13.8	17.2	13.8	0.0	0.0	69.0	31.0	0.0
	25～29歳	52	59.6	32.7	3.8	0.0	3.8	0.0	92.3	3.8	3.8
	30～34歳	84	36.9	38.1	15.5	6.0	3.6	0.0	75.0	21.4	3.6
	35～39歳	92	47.8	28.3	14.1	3.3	6.5	0.0	76.1	17.4	6.5
	40～44歳	116	36.2	37.1	12.1	7.8	6.9	0.0	73.3	19.8	6.9
	45～49歳	103	35.0	33.0	20.4	7.8	3.9	0.0	68.0	28.2	3.9
	50～54歳	87	35.6	33.3	17.2	10.3	2.3	1.1	69.0	27.6	2.3
	55～59歳	95	35.8	28.4	14.7	15.8	2.1	3.2	64.2	30.5	2.1
	60歳以上	148	35.1	29.1	14.9	15.5	4.7	0.7	64.2	30.4	4.7
	無回答	7	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
問14 就業状況	常勤	334	44.6	31.7	13.2	7.8	2.4	0.3	76.3	21.0	2.4
	非常勤	178	34.3	30.3	16.3	11.8	6.7	0.6	64.6	28.1	6.7
	自営業	34	29.4	26.5	29.4	11.8	2.9	0.0	55.9	41.2	2.9
	主婦・主夫	178	29.2	42.7	13.5	9.0	4.5	1.1	71.9	22.5	4.5
	学生	19	47.4	21.1	26.3	5.3	0.0	0.0	68.4	31.6	0.0
	無職・その他	62	58.1	8.1	11.3	12.9	8.1	1.6	66.1	24.2	8.1
	無回答	8	25.0	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0
問16 子育て経験	はい	544	35.1	32.7	16.0	11.2	4.2	0.7	67.8	27.2	4.2
	いいえ	259	47.9	29.7	12.4	5.4	4.2	0.4	77.6	17.8	4.2
	無回答	10	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0

年齢　　：　*5%有意
就業状況　：**1%有意
子育て経験：**1%有意

■年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた　若者の就労や社会参加についての考え

ー(3)「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」

○年齢別では若い年齢層の方が肯定的な意見が多い傾向がみられ、「60 歳以上」では否定的な意見が多い。
○就業状況別では「学生」「無職」で肯定的な意見が多く、「自営業」では否定的な意見が多い。
○子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い。

年齢別（問 13)、就業状況別（問 14)、子育て経験の有無別（問 16）にみた
若者の就労や社会参加についての考え（問 4(3)）
（「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」について）

問４(3)仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	236	277	156	83	55	6	513	239	55
		100.0	29.0	34.1	19.2	10.2	6.8	0.7	63.1	29.4	6.8
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	27.6	17.2	6.9	3.4	0.0	72.4	24.1	3.4
	25～29歳	52	48.1	30.8	13.5	1.9	5.8	0.0	78.8	15.4	5.8
	30～34歳	84	38.1	35.7	21.4	4.8	0.0	0.0	73.8	26.2	0.0
	35～39歳	92	35.9	34.8	14.1	7.6	7.6	0.0	70.7	21.7	7.6
	40～44歳	116	27.6	37.9	17.2	7.8	9.5	0.0	65.5	25.0	9.5
	45～49歳	103	24.3	35.0	22.3	8.7	9.7	0.0	59.2	31.1	9.7
	50～54歳	87	27.6	36.8	18.4	13.8	2.3	1.1	64.4	32.2	2.3
	55～59歳	95	25.3	30.5	17.9	16.8	7.4	2.1	55.8	34.7	7.4
	60歳以上	148	17.6	32.4	24.3	14.9	8.8	2.0	50.0	39.2	8.8
	無回答	7	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	57.1	28.6	14.3
問14 就業状況	常勤	334	32.3	34.4	19.8	9.0	4.2	0.3	66.8	28.7	4.2
	非常勤	178	24.2	36.0	22.5	11.2	5.6	0.6	60.1	33.7	5.6
	自営業	34	26.5	20.6	20.6	23.5	8.8	0.0	47.1	44.1	8.8
	主婦・主夫	178	24.7	35.4	16.9	11.2	9.6	2.2	60.1	28.1	9.6
	学生	19	47.4	10.5	31.6	5.3	5.3	0.0	57.9	36.8	5.3
	無職・その他	62	33.9	37.1	9.7	4.8	14.5	0.0	71.0	14.5	14.5
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	62.5	25.0	12.5
問16 子育て経験	はい	544	26.5	33.8	20.2	11.9	6.4	1.1	60.3	32.2	6.4
	いいえ	259	34.0	34.7	17.4	6.6	7.3	0.0	68.7	23.9	7.3
	無回答	10	40.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	70.0	20.0	10.0

年齢　　：**1%有意
就業状況　：　*5%有意
子育て経験：**1%有意

■男女別・年齢別・就業状況別・子育て経験の有無別にみた　若者の就労や社会参加についての考え

ー(4)「仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う」

○男女別では男性で、年齢別では20歳代で、就業状況別では「学生」「無職」で、子育て経験の有無別では「ない」人で肯定的な意見が多い傾向がみられる。
○就業状況別では「自営業」で、子育て経験の有無別では「ある」人で否定的な意見が多い傾向がみられる。

男女別（問12）、年齢別（問13）、就業状況別（問14）、
子育て経験の有無別（問16）にみた　若者の就労や社会参加についての考え（問4(4)）
（「仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う」について）

問４(4)仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	162	217	231	149	47	7	379	380	47
		100.0	19.9	26.7	28.4	18.3	5.8	0.9	46.6	46.7	5.8
問12 性別	男性	334	26.6	27.5	22.5	18.9	4.2	0.3	54.2	41.3	4.2
	女性	467	15.4	26.1	33.2	17.6	6.4	1.3	41.5	50.7	6.4
	無回答	12	8.3	25.0	8.3	33.3	25.0	0.0	33.3	41.7	25.0
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	24.1	10.3	17.2	3.4	0.0	69.0	27.6	3.4
	25～29歳	52	30.8	36.5	25.0	3.8	3.8	0.0	67.3	28.8	3.8
	30～34歳	84	26.2	33.3	27.4	10.7	2.4	0.0	59.5	38.1	2.4
	35～39歳	92	22.8	27.2	32.6	12.0	5.4	0.0	50.0	44.6	5.4
	40～44歳	116	15.5	29.3	30.2	13.8	11.2	0.0	44.8	44.0	11.2
	45～49歳	103	20.4	21.4	28.2	20.4	9.7	0.0	41.7	48.5	9.7
	50～54歳	87	18.4	21.8	36.8	17.2	3.4	2.3	40.2	54.0	3.4
	55～59歳	95	17.9	28.4	22.1	26.3	3.2	2.1	46.3	48.4	3.2
	60歳以上	148	11.5	23.0	29.7	29.1	4.7	2.0	34.5	58.8	4.7
	無回答	7	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0	42.9	42.9	14.3
問14 就業状況	常勤	334	23.4	29.6	25.7	16.5	4.2	0.6	53.0	42.2	4.2
	非常勤	178	15.7	25.3	34.3	19.7	4.5	0.6	41.0	53.9	4.5
	自営業	34	20.6	17.6	20.6	35.3	5.9	0.0	38.2	55.9	5.9
	主婦・主夫	178	12.4	25.8	34.3	17.4	7.9	2.2	38.2	51.7	7.9
	学生	19	26.3	31.6	15.8	26.3	0.0	0.0	57.9	42.1	0.0
	無職・その他	62	33.9	21.0	17.7	14.5	12.9	0.0	54.8	32.3	12.9
	無回答	8	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	37.5	50.0	12.5
問16 子育て経験	はい	544	16.9	24.4	32.0	20.4	5.0	1.3	41.4	52.4	5.0
	いいえ	259	25.9	31.7	21.6	13.5	7.3	0.0	57.5	35.1	7.3
	無回答	10	30.0	20.0	10.0	30.0	10.0	0.0	50.0	40.0	10.0

性別　　：**1%有意
年齢　　：**1%有意
就業状況　：**1%有意
子育て経験：**1%有意

■年齢別・就業状況別にみた　若者の就労や社会参加についての考え
－(5)「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」

○年齢別では 50 歳代以上で、就業状況別では「非常勤」「主婦・主夫」で肯定的な意見が多い傾向がみられる。
○「自営業」では、他の就業状況の人と比べて、否定的な意見がやや多い傾向がみられる。

年齢別（問 13）、就業状況別（問 14）にみた
若者の就労や社会参加についての考え（問 4(5)）
（「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」について）

問 4 (5)若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う

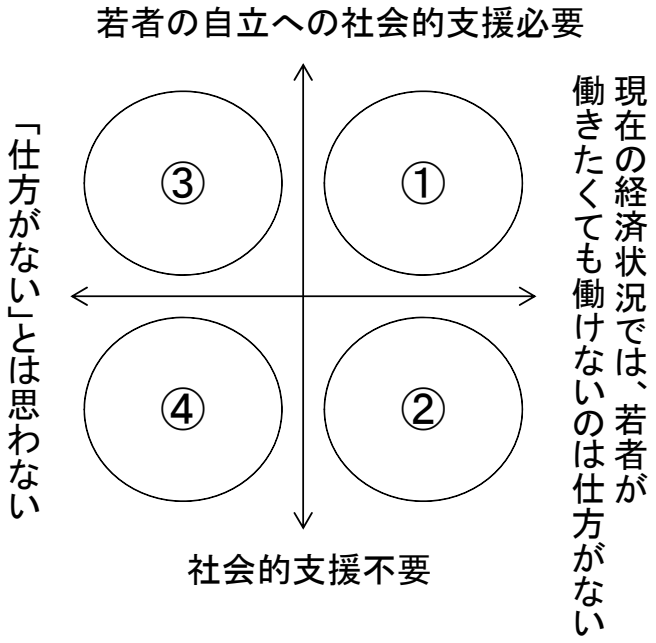
		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	442	240	72	33	20	6	682	105	20
		100.0	54.4	29.5	8.9	4.1	2.5	0.7	83.9	12.9	2.5
問13 年齢	40歳代以下	476	50.0	31.1	10.3	5.0	3.6	0.0	81.1	15.3	3.6
	50歳代以上	330	60.3	27.6	7.0	2.7	0.6	1.8	87.9	9.7	0.6
	無回答	7	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	85.7	0.0	14.3
問14 就業状況	常勤	334	52.1	30.5	9.3	5.1	2.7	0.3	82.6	14.4	2.7
	非常勤	178	58.4	26.4	10.1	2.8	1.1	1.1	84.8	12.9	1.1
	自営業	34	41.2	20.6	20.6	14.7	2.9	0.0	61.8	35.3	2.9
	主婦・主夫	178	58.4	30.9	6.2	1.7	1.1	1.7	89.3	7.9	1.1
	学生	19	36.8	42.1	15.8	5.3	0.0	0.0	78.9	21.1	0.0
	無職・その他	62	53.2	32.3	3.2	3.2	8.1	0.0	85.5	6.5	8.1
	無回答	8	75.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	87.5	0.0	12.5

年齢　　：**1%有意
就業状況　：**1%有意

■問 4 の回答状況による分析

○若者を取り巻く環境の認識と、若者の自立支援に対する考えの関連性をみるために、問 4（1）「現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う」と（5）「若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う」への回答状況をもとに、回答者 813 名を下記の 4 つのグループに分類した。

グループ①：社会環境要因、社会的支援の必要性をともに支持しているグループ
グループ②：社会環境要因は肯定しつつも社会的支援は不要とするグループ
グループ③：社会環境要因は否定しつつも何らかの社会的支援は必要とするグループ
グループ④：社会環境要因も社会的支援も否定しているグループ



	社会環境要因	社会支援	該当件数（件）	構成比（%）
グループ①	○	○	345	42.4
グループ②	○	×	33	4.1
グループ③	×	○	319	39.2
グループ④	×	×	73	9.0
	△	○	16	2.0
	△	×	1	0.1
	○	△	7	0.9
	×	△	11	1.4
	どちらか・または両方「無回答」		8	1.0
			813	100.0

○：「そう思う」または「少しそう思う」
×：「そう思わない」または「あまりそう思わない」
△：「どちらともいえない」

○グループ①～④の年齢構成では、グループ②、グループ④では 20～40 歳代の割合が高く、グループ①、グループ③は 50 歳代以上の割合が 4 割以上を占めている。

グループ①～④別にみた　年齢構成（問 13）

	20-49歳	50歳以上	無回答	合計
① (N=345)	59.1%	40.3%	0.6%	100.0%
② (N= 33)	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
③ (N=319)	53.9%	44.8%	1.3%	100.0%
④ (N =73)	69.9%	30.1%	0.0%	100.0%

*5%有意

○グループ別の就業状況では、グループ②では「常勤」の割合が低く、「自営業」「学生」「無職」の割合が他と比べて高くなっている。
○グループ④では「常勤」の割合が半数を超えており、「常勤」「非常勤」の割合が高くなっている。

グループ①～④別にみた　就業状況（問 14）

	常勤	非常勤	自営業	主婦主夫	学生	無職その他	無回答	合計
① (N=345)	37.7%	25.2%	2.0%	22.6%	2.9%	8.7%	0.9%	100.0%
② (N= 33)	24.2%	18.2%	15.2%	24.2%	6.1%	12.1%	0.0%	100.0%
③ (N=319)	44.2%	18.8%	4.1%	23.8%	1.3%	6.6%	1.3%	100.0%
④ (N =73)	53.4%	23.3%	9.6%	8.2%	2.7%	2.7%	0.0%	100.0%

**1%有意

○グループ別の暮らし向きでは、グループ②は「下」と感じている人が 4 分の 1 を占めている。
○グループ④では「上」と感じている人の割合が、他と比べてやや高い。

グループ①～④別にみた　暮らし向き（問 18）

	上の上	上の中	上の下	中の上	中の中	中の下	下の上	下の中	下の下	無回答
① (N=345)	0.0%	2.9%	4.1%	26.7%	38.3%	13.3%	7.8%	3.5%	2.3%	1.2%
② (N= 33)	0.0%	0.0%	6.1%	18.2%	30.3%	21.2%	12.1%	6.1%	6.1%	0.0%
③ (N=319)	0.6%	2.2%	5.3%	27.6%	41.7%	13.2%	5.3%	2.2%	0.0%	1.9%
④ (N =73)	0.0%	4.1%	6.8%	28.8%	28.8%	20.5%	4.1%	4.1%	2.7%	0.0%

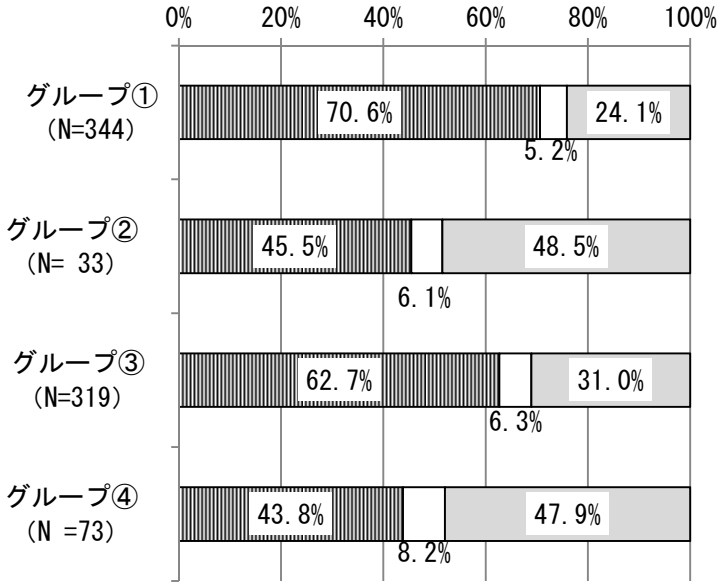
〈再集計〉

	上	中	下
① (N=345)	7.0%	78.3%	13.6%
② (N= 33)	6.1%	69.7%	24.2%
③ (N=319)	8.2%	82.4%	7.5%
④ (N =73)	11.0%	78.1%	11.0%

*5%有意

○「仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う」については、グループ①、グループ③では肯定的な意見の割合が高く、グループ②、グループ④では肯定的な意見と否定的な意見が拮抗している。

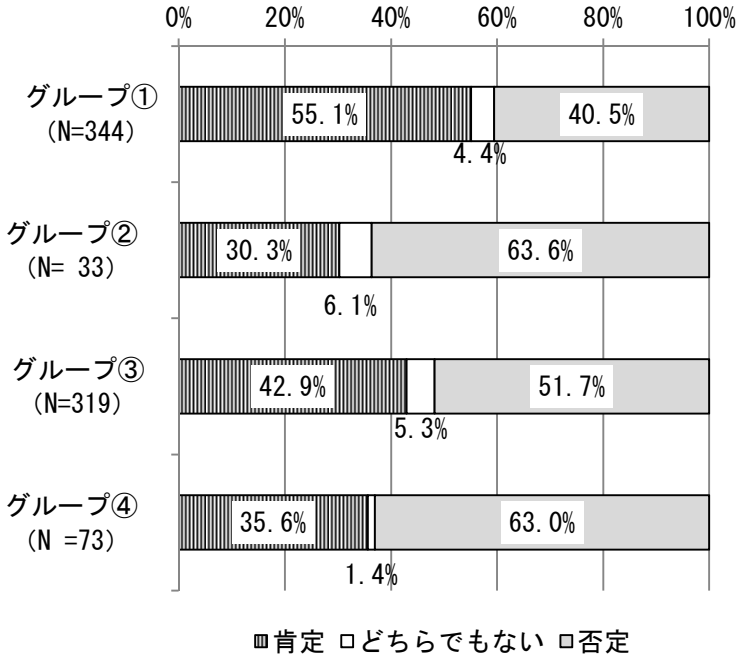
グループ①～④別にみた　家事・育児・介護について（問 4(3)）



※「肯定」＝「そう思う」または「少しそう思う」
「否定」＝「そう思わない」または「あまりそう思わない」
**1%有意

○「仕事をしていなくても、ボランティアなど社会参加をしている若者がいてもいいと思う」についての考え方では、グループ①では肯定的な意見の割合が半数以上となっているが、グループ②～④では否定的な意見の割合の方が多く、特にグループ②、グループ④では6割以上となっている。

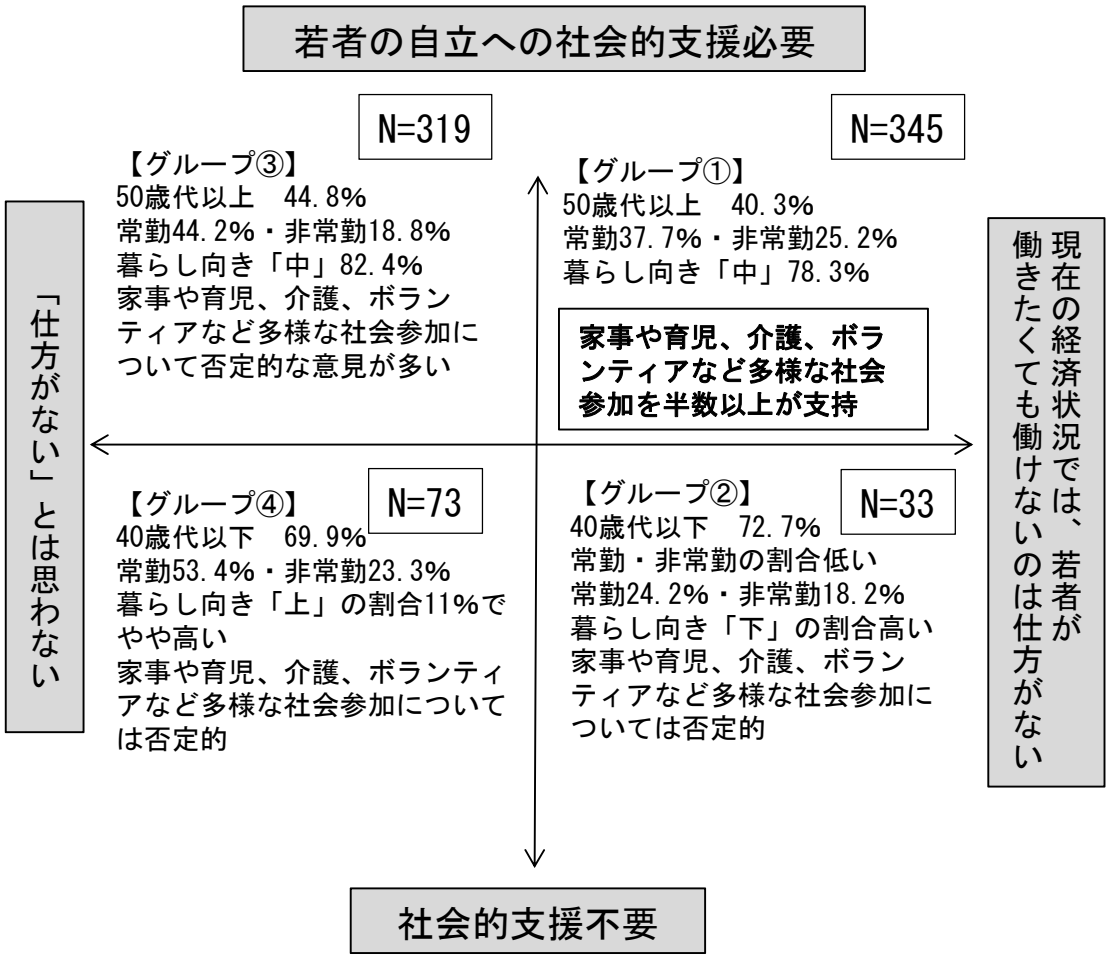
グループ①～④別にみた　ボランティア活動等の社会参加について（問4(4)）



※「肯定」＝「そう思う」または「少しそう思う」
「否定」＝「そう思わない」または「あまりそう思わない」
**1%有意

○若者の自立に対する社会的支援を支持しているグループは 50 歳代以上の割合が高く、40 歳代以下では社会的支援への支持が低く、多様な社会参加についても否定的であることがうかがえた。また「現在の経済状況では、若者が働きたくても働けないのは仕方がないとは思わない」という考えを示しているグループは、常勤で働いており暮らし向きが高い傾向がみられた。

問 4 分類：グループ①～④の特徴

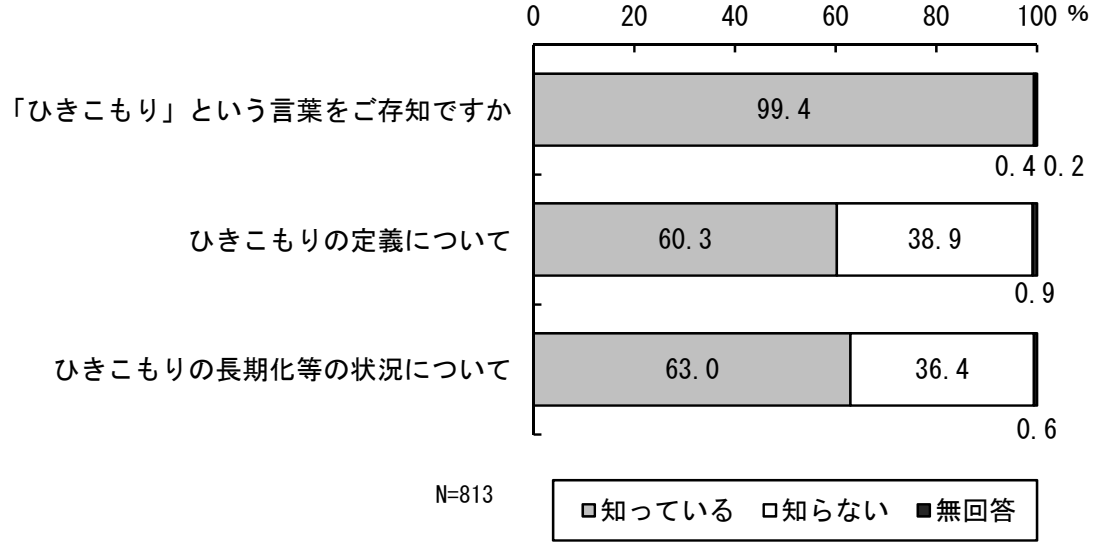


２）「ひきこもり」の認知について

（１）ひきこもりの状況の認知

○「ひきこもり」という言葉についてはほぼ全員が認知しており、ひきこもりの定義については 60.3%、ひきこもりの長期化等の状況については 63.0%が認知している。

問５　ひきこもりの状況の認知



問５　ひきこもりの状況の認知

				知っている	知らない	無回答	全体
件数	(1)	「ひきこもり」という言葉をご存知ですか		808	3	2	813
	(2)	「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々は買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか		490	316	7	813
	(3)	ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか		512	296	5	813
割合	(1)	「ひきこもり」という言葉をご存知ですか	N=813	99.4	0.4	0.2	100.0
	(2)	「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々は買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか	N=813	60.3	38.9	0.9	100.0
	(3)	ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか	N=813	63.0	36.4	0.6	100.0
割合 (除無回答)	(1)	「ひきこもり」という言葉をご存知ですか	N=811	99.6	0.4	－	100.0
	(2)	「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々は買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか	N=806	60.8	39.2	－	100.0
	(3)	ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか	N=808	63.4	36.6	－	100.0

■男女別・年齢別・子育ての経験の有無別にみた　ひきこもりの定義の認知について

○男女別では、「女性」の方が認知度が高い。
○年齢別にみると、年齢が上がるほど認知度が高い傾向がみられ、特に「60 歳以上」では 74.3%が認知している状況である。
○子育ての経験の有無別では、「ある」人の方が認知度が高い。

男女別（問 12）、年齢別（問 13）、子育て経験の有無別（問 16）にみた ひきこもりの定義の認知について（問 5(2)）

問 5 (2)「ひきこもり」の定義について

		全体	知っている	知らない	無回答
全　　体		813	490	316	7
		100.0	60.3	38.9	0.9
問12 性別	男性	334	54.8	44.6	0.6
	女性	467	64.5	34.5	1.1
	無回答	12	50.0	50.0	0.0
問13 年齢	20～24歳	29	48.3	51.7	0.0
	25～29歳	52	51.9	48.1	0.0
	30～34歳	84	41.7	58.3	0.0
	35～39歳	92	46.7	52.2	1.1
	40～44歳	116	66.4	33.6	0.0
	45～49歳	103	63.1	36.9	0.0
	50～54歳	87	57.5	41.4	1.1
	55～59歳	95	67.4	29.5	3.2
	60歳以上	148	74.3	24.3	1.4
	無回答	7	71.4	28.6	0.0
問16 子育て経験	はい	544	62.9	36.0	1.1
	いいえ	259	54.4	45.2	0.4
	無回答	10	70.0	30.0	0.0

性別　　：**1%有意
年齢　　：**1%有意
子育て経験：　*5%有意

■年齢別・子育ての経験の有無別にみた　ひきこもりの状況の認知について

○年齢別にみると、20 歳代、30 歳代の若い年齢層よりも 40 歳代以上の年齢層で認知度が高い傾向がみられる。特に「50～54 歳」では 73.6%が「知っている」と回答している。
○子育ての経験の有無別にみると、「ある」人の方が認知度が高い。

年齢別（問 13）、子育て経験の有無別（問 16）にみた
ひきこもりの状況の認知について（問 5(3)）

問５(3)ひきこもりの状況について

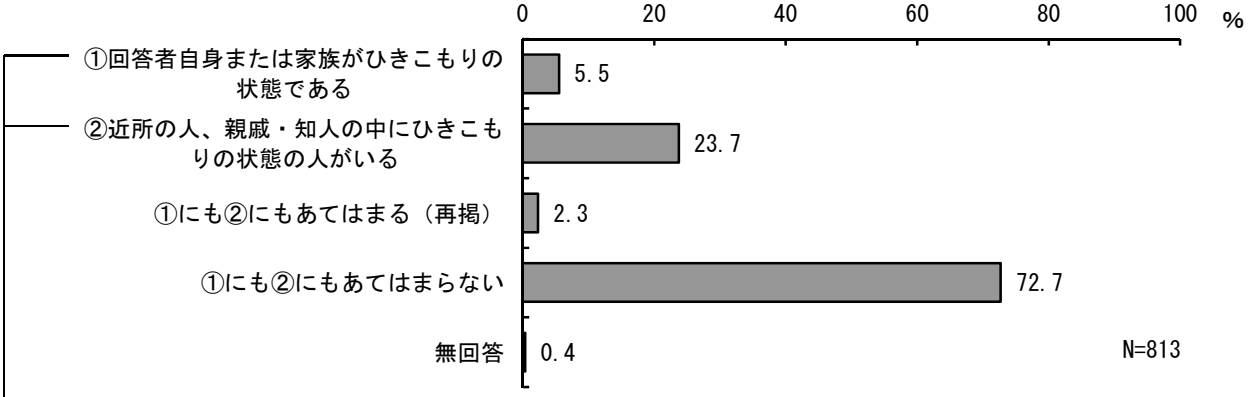
		全体	知っている	知らない	無回答
全　　体		813	512	296	5
		100.0	63.0	36.4	0.6
問13 年齢	20～24歳	29	44.8	55.2	0.0
	25～29歳	52	51.9	48.1	0.0
	30～34歳	84	57.1	42.9	0.0
	35～39歳	92	52.2	46.7	1.1
	40～44歳	116	70.7	29.3	0.0
	45～49歳	103	67.0	33.0	0.0
	50～54歳	87	73.6	25.3	1.1
	55～59歳	95	66.3	32.6	1.1
	60歳以上	148	63.5	35.1	1.4
	無回答	7	57.1	42.9	0.0
問16 子育て経験	はい	544	65.1	34.2	0.7
	いいえ	259	58.7	40.9	0.4
	無回答	10	60.0	40.0	0.0

年齢　　：**1%有意
子育て経験：　*5%有意

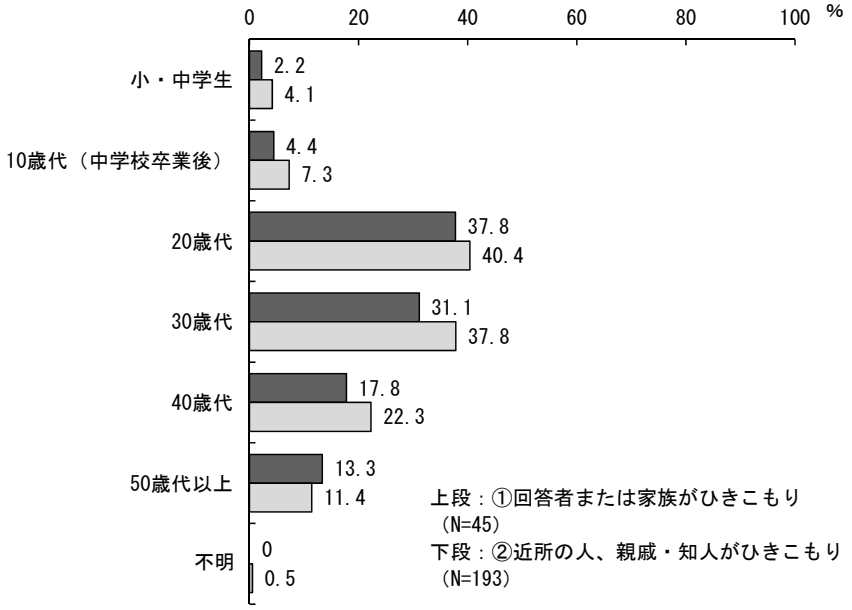
３）回答者の周辺におけるひきこもりの方の有無

○回答者自身または家族がひきこもりの状態であると回答した人は 5.5%（45 人）である。ひきこもりの状態にある方の年齢は 20 歳代、30 歳代が 68.9%であった。少数ではあるが、小・中学生や 10 歳代、40 歳代以上の人もいる。
○近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいると回答した人は 23.7%であった。ひきこもり状態の人の年齢については、20 歳代、30 歳代が 78.2%であった。
○問 6 の (1) または (2) いずれかに「はい」と回答した人は、219 人で回答者全体の 26.9%、(1)、(2) ともに「はい」と回答した人は 19 人であった。

回答者の周辺におけるひきこもりの方の有無



① 回答者自身または家族がひきこもりの状態（45 名）・当事者の年齢
② 近所の人、親戚・知人がひきこもりの状態（193 名）・当事者の年齢



（複数回答）

問６（1）　自分自身または家族の中にひきこもりの状態の人がいるか

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=809
はい	45	5.5	5.6
いいえ	764	94.0	94.4
無回答	4	0.5	－
全　　体	813	100.0	100.0

問６（1）　ひきこもりの状態の人の年齢（回答者自身または家族）

	件数	割合 N=45	割合 (除無回答) N=45
小・中学生	1	2.2	2.2
10歳代（中学校卒業後）	2	4.4	4.4
20歳代	17	37.8	37.8
30歳代	14	31.1	31.1
40歳代	8	17.8	17.8
50歳代以上	6	13.3	13.3
無回答	0	0.0	－
全　　体	48	－	－

問６（2）　近所の人、親戚・知人の中にひきこもりの状態の人がいるか

	件数	割合 N=813	割合 (除無回答) N=796
はい	193	23.7	24.2
いいえ	603	74.2	75.8
無回答	17	2.1	－
全　　体	813	100.0	100.0

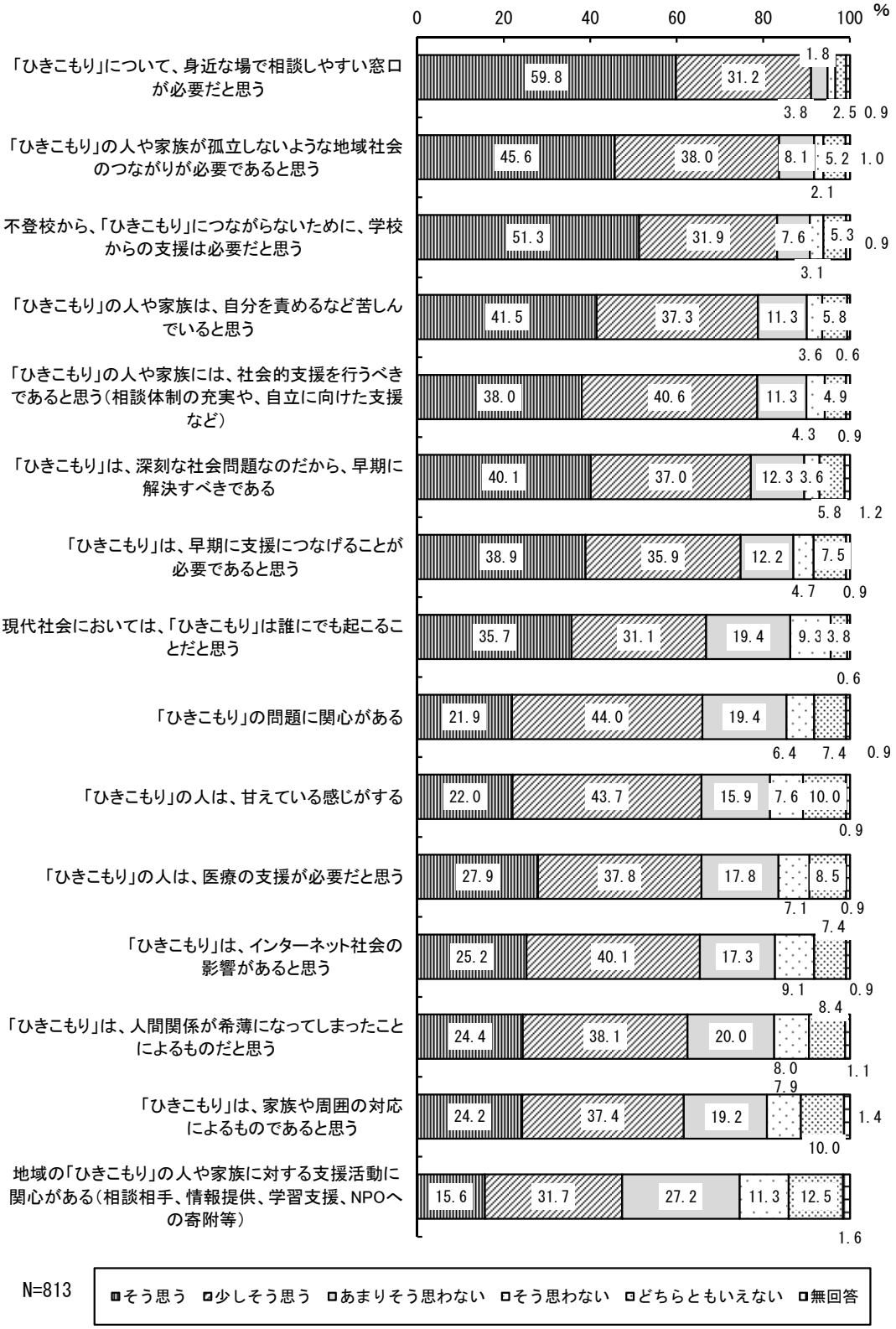
問６（2）　ひきこもりの状態の人の年齢（近所の人、親戚・知人）

	件数	割合 N=193	割合 (除無回答) N=193
小・中学生	8	4.1	4.1
10歳代（中学校卒業後）	14	7.3	7.3
20歳代	78	40.4	40.4
30歳代	73	37.8	37.8
40歳代	43	22.3	22.3
50歳代以上	22	11.4	11.4
不明	1	0.5	0.5
無回答	0	0.0	－
全　　体	239	－	－

４）「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

○「ひきこもりの人や家族への社会的支援の必要性」について 7 割以上の人が肯定しており、「ひきこもりについて、身近な場で相談しやすい窓口が必要」については 9 割以上が肯定している。
○全体的にみると、回答者のひきこもり問題に対する関心は高く、「本人、家族は苦しんでいると思う」など共感性も高いことがうかがえる。社会的支援の必要性についても高い割合の人が支持しており、特に「身近な相談窓口」「学校段階からの支援」については、半数以上が「そう思う」と回答している。

問７　「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について



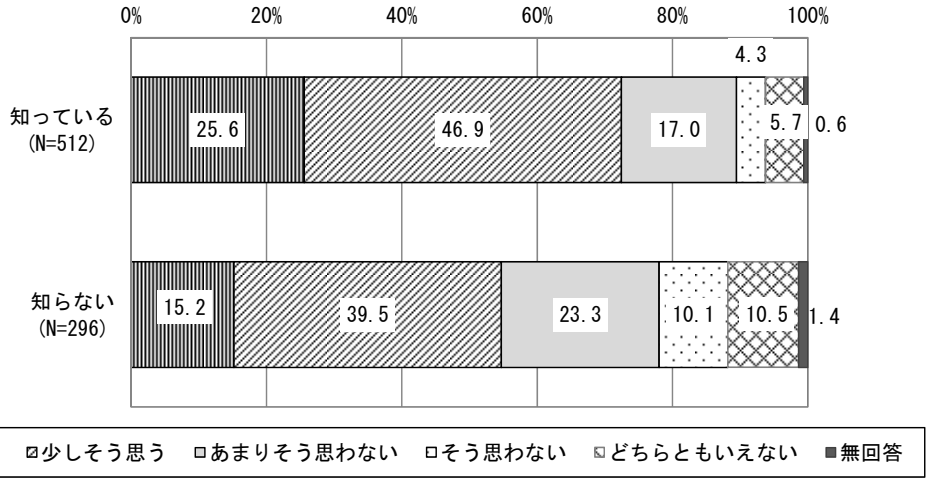
問７　「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

				そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1)	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う		486	254	31	15	20	7	813
	(2)	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う		371	309	66	17	42	8	813
	(3)	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う		417	259	62	25	43	7	813
	(4)	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う		337	303	92	29	47	5	813
	(5)	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）		309	330	92	35	40	7	813
	(6)	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである		326	301	100	29	47	10	813
	(7)	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う		316	292	99	38	61	7	813
	(8)	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う		290	253	158	76	31	5	813
	(9)	「ひきこもり」の問題に関心がある		178	358	158	52	60	7	813
	(10)	「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする		179	355	129	62	81	7	813
	(11)	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う		227	307	145	58	69	7	813
	(12)	「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う		205	326	141	74	60	7	813
	(13)	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う		198	310	163	65	68	9	813
	(14)	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う		197	304	156	64	81	11	813
	(15)	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）		127	258	221	92	102	13	813
割合	(1)	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	N=813	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9	100.0
	(2)	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	N=813	45.6	38.0	8.1	2.1	5.2	1.0	100.0
	(3)	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	N=813	51.3	31.9	7.6	3.1	5.3	0.9	100.0
	(4)	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	N=813	41.5	37.3	11.3	3.6	5.8	0.6	100.0
	(5)	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）	N=813	38.0	40.6	11.3	4.3	4.9	0.9	100.0
	(6)	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	N=813	40.1	37.0	12.3	3.6	5.8	1.2	100.0
	(7)	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	N=813	38.9	35.9	12.2	4.7	7.5	0.9	100.0
	(8)	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	N=813	35.7	31.1	19.4	9.3	3.8	0.6	100.0
	(9)	「ひきこもり」の問題に関心がある	N=813	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9	100.0
	(10)	「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	N=813	22.0	43.7	15.9	7.6	10.0	0.9	100.0
	(11)	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	N=813	27.9	37.8	17.8	7.1	8.5	0.9	100.0
	(12)	「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	N=813	25.2	40.1	17.3	9.1	7.4	0.9	100.0
	(13)	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	N=813	24.4	38.1	20.0	8.0	8.4	1.1	100.0
	(14)	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	N=813	24.2	37.4	19.2	7.9	10.0	1.4	100.0
	(15)	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）	N=813	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	100.0

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた問題への関心について

○問５で把握したひきこもりの状況の認知の有無別に、(1) ひきこもりの問題への関心をみたところ、ひきこもりの状況を知っている人では、知らない人と比べてひきこもりの問題への関心が高い。

ひきこもりの状況の認知の有無別（問５(3)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問７(1)）



ひきこもりの状況の認知の有無別（問５(3)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問７(1)）

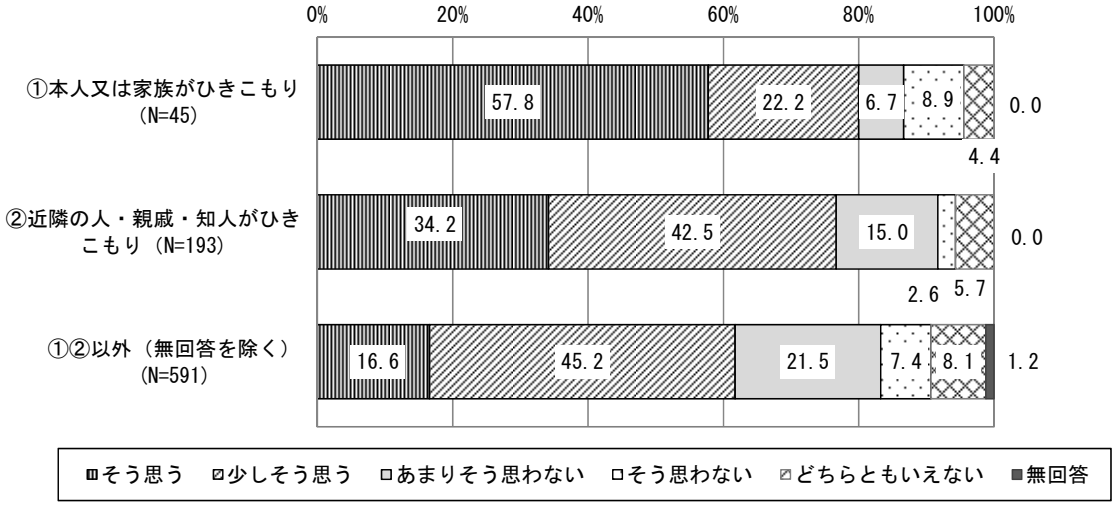
問７(1)「ひきこもり」の問題に関心がある

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	178	358	158	52	60	7
		100.0	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9
問５(3)　ひきこもりの長期化等の状況について	知っている	512	25.6	46.9	17.0	4.3	5.7	0.6
	知らない	296	15.2	39.5	23.3	10.1	10.5	1.4
	無回答	5	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○問 6 で把握したひきこもりの状況の人が身近にいるかどうかの回答状況別にみたところ、「ひきこもり」の問題への関心については、本人又は家族、近隣の人・親戚・知人にひきこもりの人がいる人では、そうでない人と比べて「そう思う」の割合が高い。特に本人又は家族がひきこもりの人では、「そう思う」が 57.8%となっている。

ひきこもりの身近さ別（問 6(1)(2)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）



ひきこもりの身近さ別（問 6(1)(2)）にみた
「ひきこもり」の問題への関心（問 7(1)）

問 7 (1)「ひきこもり」の問題に関心がある

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わな	そう思わない	どちらともいえな	無回答
全　　体		813	178	358	158	52	60	7
		100.0	21.9	44.0	19.4	6.4	7.4	0.9
問 6 (1)	はい	45	57.8	22.2	6.7	8.9	4.4	0.0
本人又は家族	いいえ	764	19.5	45.4	20.3	6.3	7.6	0.9
	無回答	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
問 6 (2)	はい	193	34.2	42.5	15.0	2.6	5.7	0.0
近隣の人・親戚	いいえ	603	17.7	44.6	21.1	7.8	7.8	1.0
知人	無回答	17	29.4	41.2	11.8	0.0	11.8	5.9
問 6 (1)(2)	はい	219	35.6	41.1	14.2	3.7	5.5	0.0
※重複を除く	いいえ	591	16.6	45.2	21.5	7.4	8.1	1.2
	無回答	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

問 6(1)　　：**1%有意
問 6 (2)　　：**1%有意
問 6 (1)(2)：**1%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた　ひきこもりの状況が誰にでも起こることかどうかについて

○本人や家族にひきこもりの状況の人がいる人では、「そう思う」の割合が 64.4%である。
○ひきこもりの状況の人がいない人では、「そう思う」は 33.8%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(1)）にみた ひきこもりの状況が誰にでも起こることかどうかについて（問 7(6)）

問 7 (6)現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	290	253	158	76	31	5
		100.0	35.7	31.1	19.4	9.3	3.8	0.6
問 6 (1) 本人又は家族	はい	45	64.4	17.8	8.9	6.7	2.2	0.0
	いいえ	764	33.8	31.9	20.2	9.6	3.9	0.7
	無回答	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた　社会的支援の必要性について

○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいる人では、「そう思う」の割合は 46.6%である。
○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいない人では、「そう思う」の割合は 34.8%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(2)）にみた　社会的支援の必要性について（問 7(9)）

問 7 (9)「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	309	330	92	35	40	7
		100.0	38.0	40.6	11.3	4.3	4.9	0.9
問 6 (2) 近隣の人・親戚知人	はい	193	46.6	35.2	12.4	2.6	3.1	0.0
	いいえ	603	34.8	42.8	11.1	4.8	5.5	1.0
	無回答	17	52.9	23.5	5.9	5.9	5.9	5.9

*5%有意

■「ひきこもり」の身近さ別にみた　地域社会のつながりの必要性について

○近隣・親戚・知人にひきこもりの状況の人がいる人では、いない人に比べて「そう思う」の割合がやや高い。

ひきこもりの身近さ別(問6(2))にみた　地域社会のつながりの必要性について(問7(13))

問7(13)「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　体		813	371	309	66	17	42	8
		100.0	45.6	38.0	8.1	2.1	5.2	1.0
問6(2)	はい	193	54.4	31.6	6.7	2.1	5.2	0.0
近隣の人・親戚	いいえ	603	42.3	40.8	8.6	2.2	5.1	1.0
知人	無回答	17	64.7	11.8	5.9	0.0	5.9	11.8

**1%有意

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた　身近な相談窓口の必要性

○ひきこもりの状況の認知の有無別にみると、いずれも身近な相談窓口を必要と感じている人の割合が高く、特にひきこもりの状況を知っている人では「そう思う」の割合がやや高くなっている。

ひきこもりの状況の認知の有無別(問5(3))にみた　身近な相談窓口の必要性(問7(14))

問7(14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　体		813	486	254	31	15	20	7
		100.0	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9
問5(3)　ひきこもりの長期化等の状況について	知っている	512	61.9	30.9	4.1	1.8	1.0	0.4
	知らない	296	55.7	32.1	3.4	2.0	5.1	1.7
	無回答	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○近隣の人・親戚・知人にひきこもりがいる人で「そう思う」の割合が高く 71.5%である。

ひきこもりの身近さ別（問 6(2)）にみた　身近な相談窓口の必要性（問 7(14)）

問 7 (14)「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	486	254	31	15	20	7
		100.0	59.8	31.2	3.8	1.8	2.5	0.9
問 6 (2)	はい	193	71.5	22.8	2.6	1.0	2.1	0.0
近隣の人・親戚	いいえ	603	56.2	34.0	4.1	2.2	2.5	1.0
知人	無回答	17	52.9	29.4	5.9	0.0	5.9	5.9

*5%有意

■「ひきこもり」の状況の認知、「ひきこもり」の身近さ別にみた　支援活動への関心

○ひきこもりの状況を認知している人の方が、「そう思う」の割合が高い。

ひきこもりの状況の認知の有無別（問 5(3)）にみた　支援活動への関心（問 7(15)）

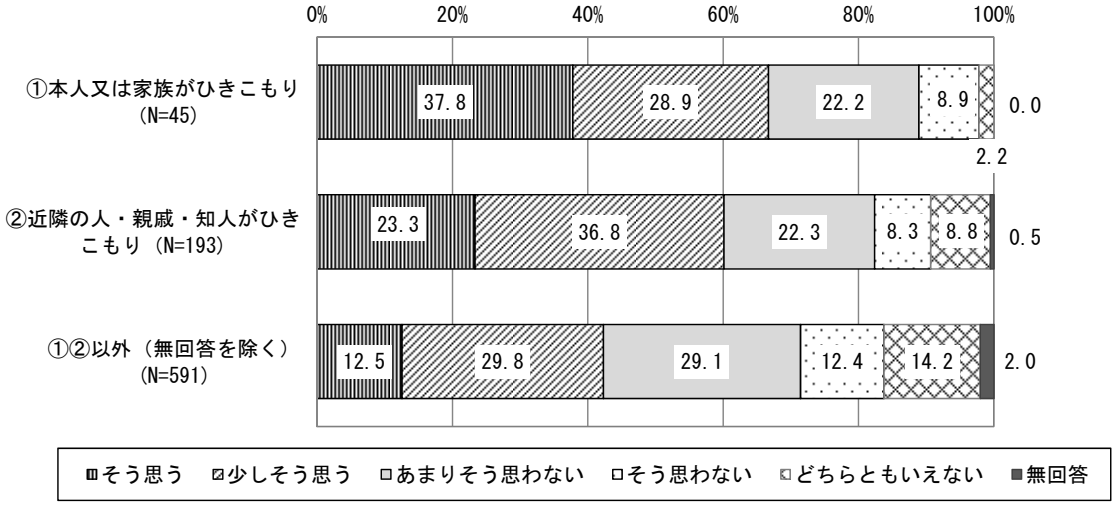
問 7 (15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	127	258	221	92	102	13
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6
問 5 (3)　ひきこもりの長期化等の状況について	知っている	512	18.4	33.2	26.2	10.4	10.7	1.2
	知らない	296	10.8	28.4	29.4	13.2	15.9	2.4
	無回答	5	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0

*5%有意

○本人や家族・身の周りにひきこもりの状況の人がいる人の方が、「そう思う」の割合が高い。

ひきこもりの身近さ別（問6(1)(2)）にみた　支援活動への関心（問7(15)）



ひきこもりの身近さ別（問6(1)(2)）にみた　支援活動への関心（問7(15)）

問7(15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある
（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）

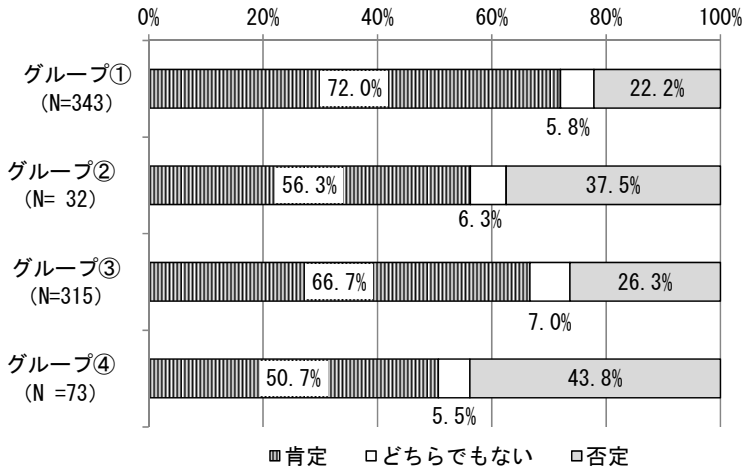
		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答
全　　体		813	127	258	221	92	102	13
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6
問6(1) 本人又は家族	はい	45	37.8	28.9	22.2	8.9	2.2	0.0
	いいえ	764	14.4	31.5	27.6	11.5	13.2	1.7
	無回答	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
問6(2) 近隣の人・親戚知人	はい	193	23.3	36.8	22.3	8.3	8.8	0.5
	いいえ	603	13.3	29.7	28.9	12.4	13.9	1.8
	無回答	17	11.8	47.1	23.5	5.9	5.9	5.9
問6(1)(2) ※重複を除く	はい	219	24.2	36.1	22.4	8.7	8.2	0.5
	いいえ	591	12.5	29.8	29.1	12.4	14.2	2.0
	無回答	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(1)、(2)、(1)(2)とも：**1%有意

■問 4 の回答グループ別にみた　「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

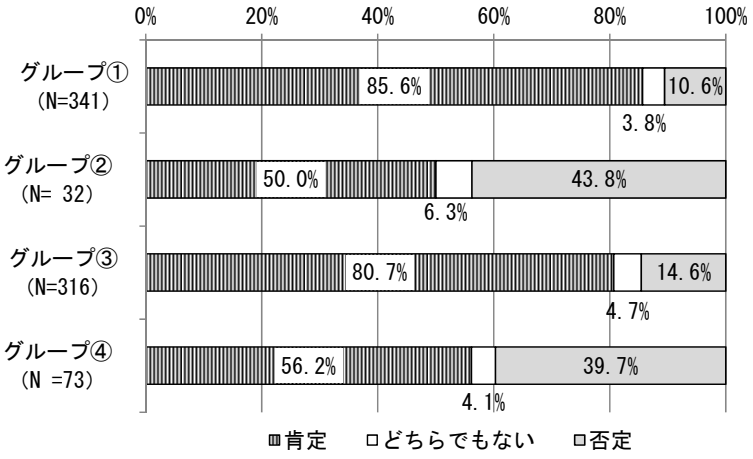
○全体的にみるとグループ①、③は、ひきこもりへの関心が高く、問題の早期解決、社会的支援の必要性についても肯定的な意見をもっており、半数以上が支援活動へも関心をもっている。グループ①と③の違いは、ひきこもりの要因に対する考え方で、グループ①の方が「誰にでも起こること」とする人が多く、「甘えている」とする人が少ない。一方、グループ②、④ではひきこもりに対する関心が低く、社会的支援について否定的な意見が過半数である。グループ②と④の違いは、グループ④の方が、全体的にひきこもりの問題に対して否定的な意見の割合が高いことと、「誰にでも起こることではない」、「甘えている感じがする」など個人的な問題と捉えている人が多いことであり、当事者や家族への支援活動に対する関心も低くなっている。

グループ①～④別にみた　ひきこもり問題への関心（問 7(1)）



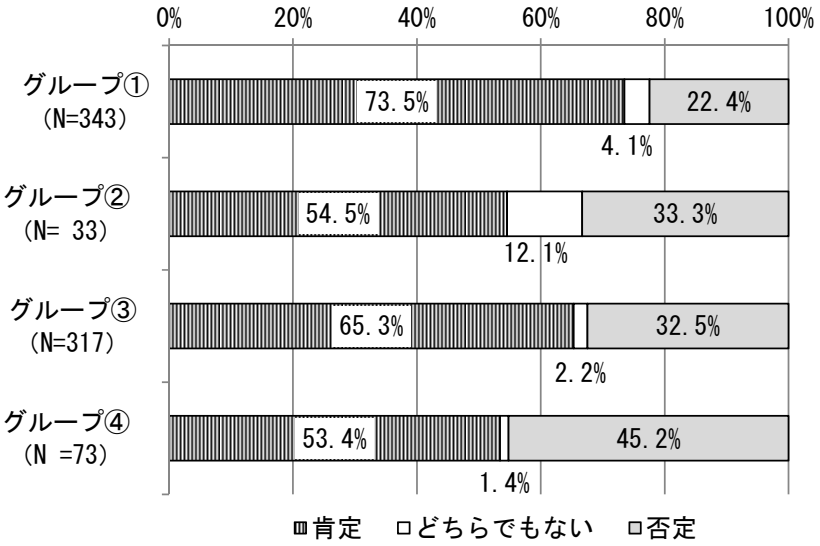
**1%有意

グループ①～④別にみた　早期解決について（問 7(2)）



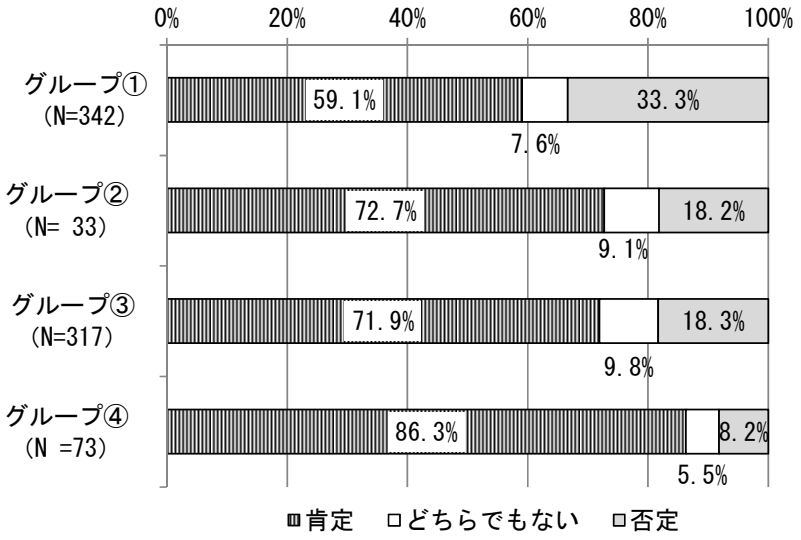
**1%有意

グループ①～④別にみた　誰にでも起こることかどうか（問 7(6)）



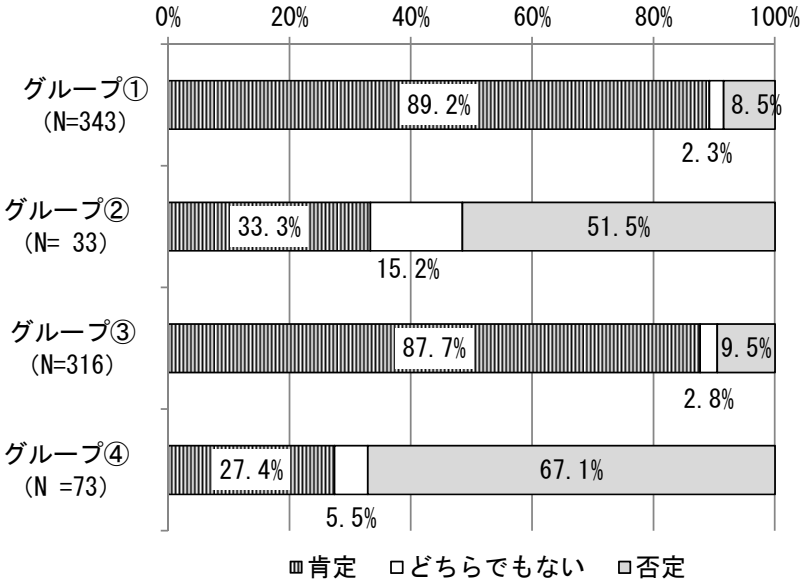
**1%有意

グループ①～④別にみた　甘えている感じがするかどうか（問 7(8)）



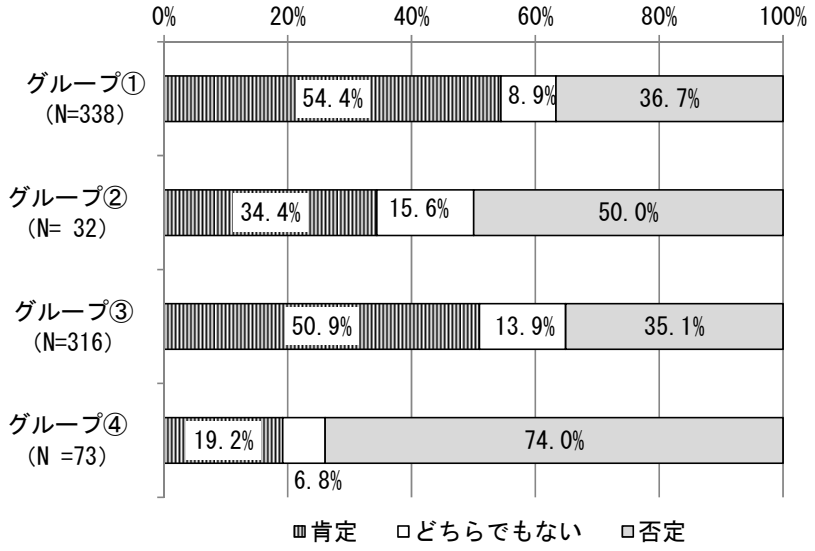
**1%有意

グループ①～④別にみた　社会的支援の必要性について（問 7(9)）



**1%有意

グループ①～④別にみた　支援活動への関心について（問 7(15)）



**1%有意

■問７への回答パターンによる分析

○性別、就業状況、子育ての経験の有無、居住形態、家族形態、身近なひきこもり状況の人の有無等により、ひきこもりに対する意識の違いが顕在化している。
○問７の回答状況をクラスター分析した結果、回答者は以下の５つのグループに分類された。

問７の回答パターンの分析・整理

	件数(件)	上段：回答状況の特徴／下段：グループの属性の特徴／下段：身近なひきこもりの人の割合
グループＡ	N=214	全体的にひきこもりの方への社会的支援を支持、(15)支援活動への関心は88.3%が肯定。「(8)ひきこもりは甘えている感じがする」は67.3%が肯定。
		【属性】女性62.9%。「常勤」37.4%で最も低い。「非常勤」24.3%、「主婦」23.8%。
		【身近な人がひきこもり】27.6%
グループＢ	N=181	全体的にはひきこもりの方への社会的支援は支持だが、(1)ひきこもり問題への関心についてはある人とない人が半々。(15)支援活動への関心は肯定16%で低い。
		【属性】女性が66.5%で最も高い。「非常勤」26.1%で最も高い。「常勤」37.8%。「夫婦のみ」が21.5%で最も多い。「単身」も11.6%でグループＣに次いで高い。
		【身近な人がひきこもり】16.0%
グループＣ	N=169	全体的にひきこもりの方への社会的支援に否定的。「(8)ひきこもりは甘えている感じがする」は71.6%が肯定。(15)支援活動への関心は11.3%で低い。
		【属性】男性が55.4%で最も高い。「常勤」が52.7%で最も高い。「主婦」13.0%で最も低い。「単身」14.8%で最も高い。「子育て経験あり」が59.3%で最も低い。居住形態「賃貸」26.0%で最も高い。
		【身近な人がひきこもり】19.5%
グループＤ	N=110	全体的にひきこもりの方への社会的支援は支持だが、「(6)誰にでも起こることである」について、肯定層は6.3%で低い。
		【属性】「常勤」47.6%で高い。「非常勤」が12.4%で最も低い。「主婦」25.7%。「子育て経験あり」が77.4%で最も高い。「単身」6.4%で最も低い。
		【身近な人がひきこもり】27.3%
グループＥ	N=105	全体的にひきこもりの方への社会的支援を支持。「(4)人間関係が希薄になってしまったことによるもの」について、「そう思う」2.9%で低い。「(8)甘えている感じがする」は「そう思う」7.6%で低い。(15)支援活動への関心は「そう思う」が31.4%で高い。
		【属性】「主婦」26.7%で最も高い。「子育て経験あり」が71.4%。「持ち家」78.1%で最も高い。
		【身近な人がひきこもり】35.2%

性別、就業状況、家族構成、子育て経験、住まいの形態：**1%有意

■（15）地域のひきこもりへの支援活動に関心がある人の属性について

○50 歳代女性と 60 歳代以上の男女で関心が高い傾向、就労状況では「学生」「主婦・主夫」で関心が高い傾向がみられる。

年齢・性別（問 12・問 13）にみた　地域のひきこもりへの支援活動への関心（問 7(15)）

問 7 (15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある
（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）

		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　体		813	127	258	221	92	102	13	385	313	102
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	47.4	38.5	12.5
問12性別 問13年齢	20歳代男性	37	13.5	29.7	27.0	21.6	5.4	2.7	43.2	48.6	5.4
	20歳代女性	44	13.6	36.4	22.7	20.5	6.8	0.0	50.0	43.2	6.8
	30歳代男性	72	11.1	33.3	29.2	18.1	8.3	0.0	44.4	47.2	8.3
	30歳代女性	102	13.7	26.5	34.3	6.9	17.6	1.0	40.2	41.2	17.6
	40歳代男性	90	16.7	21.1	35.6	11.1	13.3	2.2	37.8	46.7	13.3
	40歳代女性	128	16.4	32.8	25.0	9.4	14.8	1.6	49.2	34.4	14.8
	50歳代男性	78	12.8	24.4	25.6	19.2	15.4	2.6	37.2	44.9	15.4
	50歳代女性	104	19.2	39.4	25.0	2.9	13.5	0.0	58.7	27.9	13.5
	60歳代以上男性	57	12.3	43.9	21.1	15.8	7.0	0.0	56.1	36.8	7.0
	60歳代以上女性	89	22.5	33.7	22.5	5.6	11.2	4.5	56.2	28.1	11.2
	無回答	12	8.3	33.3	25.0	8.3	16.7	8.3	41.7	33.3	16.7

*5%有意

就業状況（問 14)、暮らし向き別（問 18）にみた
地域のひきこもりへの支援活動への関心（問 7(15)）

（相談相手、情報提供、学習支援、NPOへの寄附等）
問 7 (15)地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある

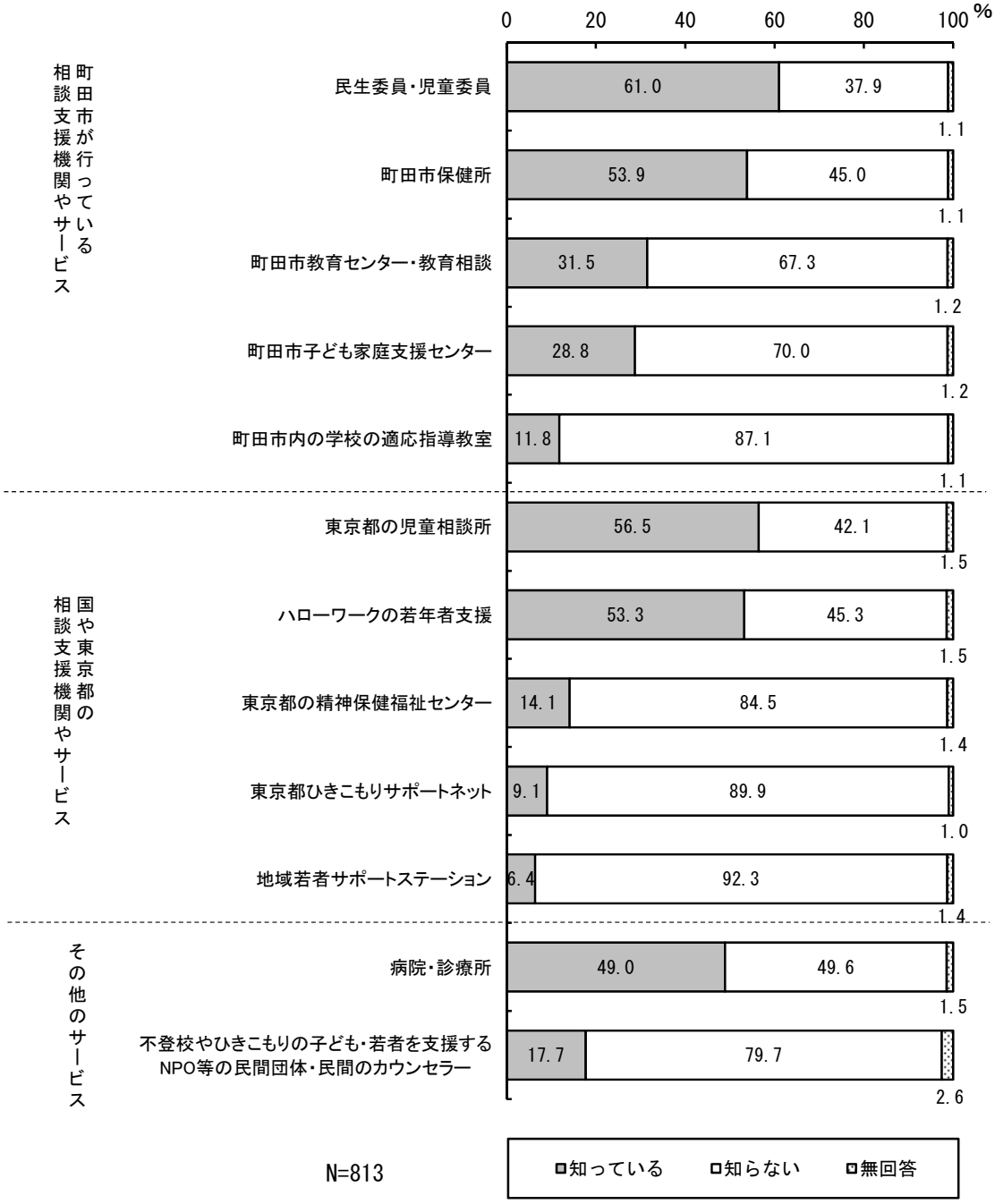
		全体	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	そう思う+少しそう思う	あまりそう思わない+そう思わない	どちらともいえない
全　　体		813	127	258	221	92	102	13	385	313	102
		100.0	15.6	31.7	27.2	11.3	12.5	1.6	47.4	38.5	12.5
問14	常勤	334	12.0	32.0	28.1	16.2	11.4	0.3	44.0	44.3	11.4
就業状況	非常勤	178	17.4	30.3	29.2	3.9	15.2	3.9	47.8	33.1	15.2
	自営業	34	20.6	26.5	32.4	17.6	2.9	0.0	47.1	50.0	2.9
	主婦・主夫	178	18.0	37.6	23.6	5.6	14.0	1.1	55.6	29.2	14.0
	学生	19	21.1	31.6	26.3	21.1	0.0	0.0	52.6	47.4	0.0
	無職・その他	62	19.4	21.0	24.2	16.1	16.1	3.2	40.3	40.3	16.1
	無回答	8	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	37.5	12.5
問18	上の上	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
暮らし向き	上の中	20	25.0	30.0	30.0	15.0	0.0	0.0	55.0	45.0	0.0
	上の下	38	21.1	23.7	21.1	26.3	7.9	0.0	44.7	47.4	7.9
	中の上	212	13.7	35.8	29.7	9.9	10.4	0.5	49.5	39.6	10.4
	中の中	316	15.2	33.5	26.6	8.9	13.9	1.9	48.7	35.4	13.9
	中の下	115	13.9	34.8	28.7	11.3	9.6	1.7	48.7	40.0	9.6
	下の上	56	19.6	19.6	17.9	16.1	21.4	5.4	39.3	33.9	21.4
	下の中	29	10.3	17.2	37.9	13.8	20.7	0.0	27.6	51.7	20.7
	下の下	14	28.6	21.4	7.1	28.6	14.3	0.0	50.0	35.7	14.3
	無回答	11	18.2	18.2	36.4	0.0	18.2	9.1	36.4	36.4	18.2
（再掲）	上	60	23.3	25.0	25.0	21.7	5.0	0.0	48.3	46.7	5.0
	中	643	14.5	34.5	28.0	9.6	12.0	1.4	49.0	37.6	12.0
	下	99	18.2	19.2	22.2	17.2	20.2	3.0	37.4	39.4	20.2

就業状況　：*5%有意
暮らし向き：*5%有意

５）「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて

○認知度が概ね半数を超えているサービスや機関は「民生委員・児童委員」「児童相談所」「保健所」「ハローワークの若年者支援」「病院・診療所」である。
○一方、認知度が低かったのは、「東京都ひきこもりサポートネット」(9.1%)、「地域若者サポートステーション」(6.4%) であった。

問 8①　「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（認知度）

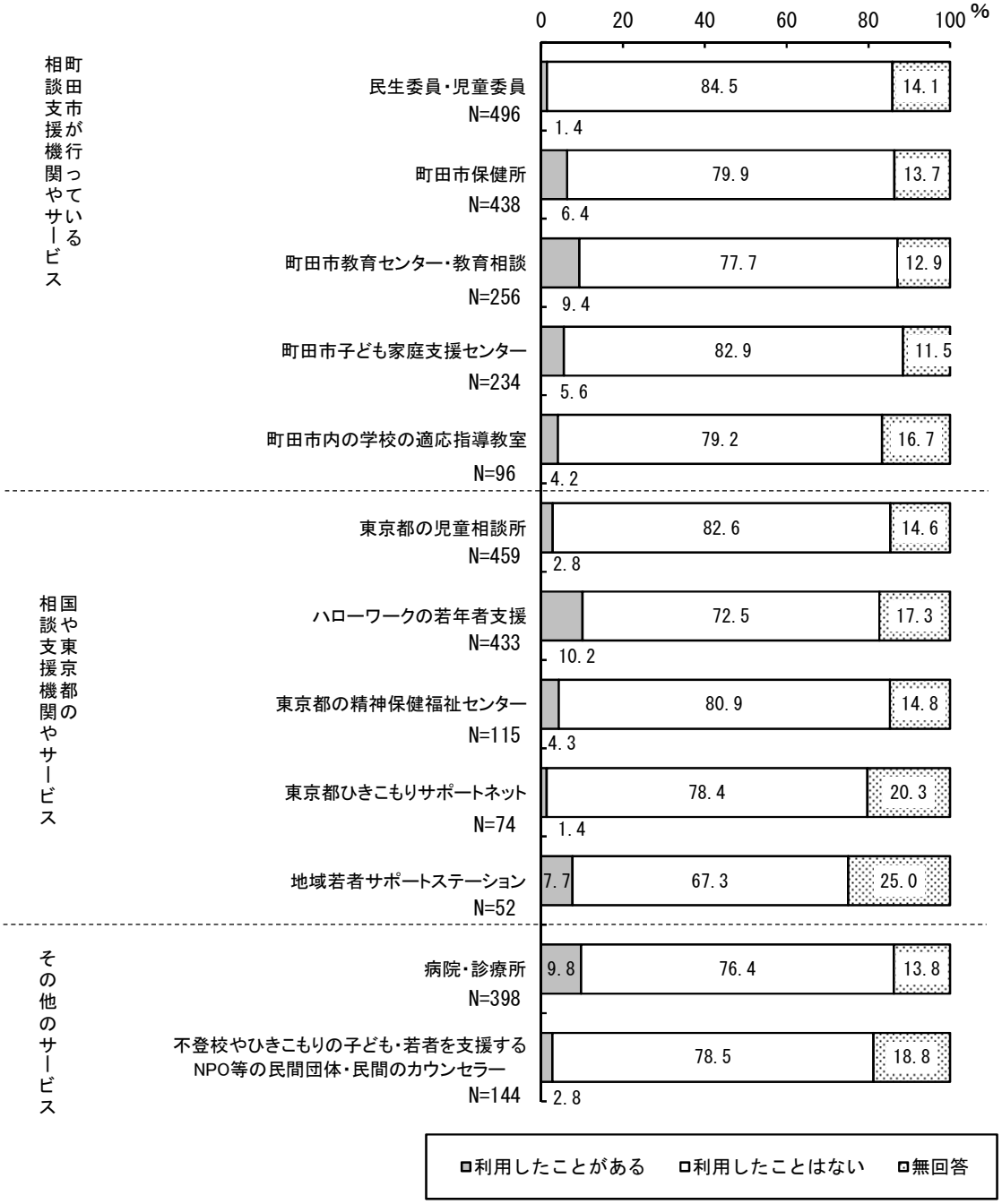


問 8①　「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（認知度）

				知っている	知らない	無回答	全体
件数	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員		496	308	9	813
		(2) 町田市保健所		438	366	9	813
		(3) 町田市教育センター・教育相談		256	547	10	813
		(4) 町田市子ども家庭支援センター		234	569	10	813
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室		96	708	9	813
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所		459	342	12	813
		(7) ハローワークの若年者支援		433	368	12	813
		(8) 東京都の精神保健福祉センター		115	687	11	813
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット		74	731	8	813
		(10) 地域若者サポートステーション		52	750	11	813
	その他のサービス	(11) 病院・診療所		398	403	12	813
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー		144	648	21	813
割合	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員	N=813	61.0	37.9	1.1	100.0
		(2) 町田市保健所	N=813	53.9	45.0	1.1	100.0
		(3) 町田市教育センター・教育相談	N=813	31.5	67.3	1.2	100.0
		(4) 町田市子ども家庭支援センター	N=813	28.8	70.0	1.2	100.0
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室	N=813	11.8	87.1	1.1	100.0
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所	N=813	56.5	42.1	1.5	100.0
		(7) ハローワークの若年者支援	N=813	53.3	45.3	1.5	100.0
		(8) 東京都の精神保健福祉センター	N=813	14.1	84.5	1.4	100.0
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット	N=813	9.1	89.9	1.0	100.0
		(10) 地域若者サポートステーション	N=813	6.4	92.3	1.4	100.0
	その他のサービス	(11) 病院・診療所	N=813	49.0	49.6	1.5	100.0
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー	N=813	17.7	79.7	2.6	100.0

○実際にサービスを利用したという人は、回答者全体でみると少ないが、12 項目中最も多かったのは「ハローワークの若年者支援」で 44 名であった。これは、「ハローワークの若年者支援」を「知っている」と回答した人 433 名の 10.2%にあたる。次いで「病院・診療所」(39 名)、「町田市保健所」(28 名)、「町田市教育センター・教育相談」(24 名)となっている。

問 8②　「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（利用経験）



問 8②　「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについて（利用経験）

				利用したことがある	利用したことはない	無回答	全体
件数	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 民生委員・児童委員		7	419	70	496
		(2) 町田市保健所		28	350	60	438
		(3) 町田市教育センター・教育相談		24	199	33	256
		(4) 町田市子ども家庭支援センター		13	194	27	234
		(5) 町田市内の学校の適応指導教室		4	76	16	96
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都の児童相談所		13	379	67	459
		(7) ハローワークの若年者支援		44	314	75	433
		(8) 東京都の精神保健福祉センター		5	93	17	115
		(9) 東京都ひきこもりサポートネット		1	58	15	74
		(10) 地域若者サポートステーション		4	35	13	52
	その他のサービス	(11) 病院・診療所		39	304	55	398
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー		4	113	27	144
割合	町田市が行っている相談支援機関やサービス	(1) 町田市子ども家庭支援センター	N=234	5.6	82.9	11.5	100.0
		(2) 町田市教育センター・教育相談	N=256	9.4	77.7	12.9	100.0
		(3) 町田市内の学校の適応指導教室	N=96	4.2	79.2	16.7	100.0
		(4) 民生委員・児童委員	N=496	1.4	84.5	14.1	100.0
		(5) 町田市保健所	N=438	6.4	79.9	13.7	100.0
	国や東京都の相談支援機関やサービス	(6) 東京都ひきこもりサポートネット	N=74	1.4	78.4	20.3	100.0
		(7) 東京都の児童相談所	N=459	2.8	82.6	14.6	100.0
		(8) 東京都の精神保健福祉センター	N=115	4.3	80.9	14.8	100.0
		(9) ハローワークの若年者支援	N=433	10.2	72.5	17.3	100.0
		(10) 地域若者サポートステーション	N=52	7.7	67.3	25.0	100.0
	その他のサービス	(11) 病院・診療所	N=398	9.8	76.4	13.8	100.0
		(12) 不登校やひきこもりの子ども・若者を支援するNPO等の民間団体・民間のカウンセラー	N=144	2.8	78.5	18.8	100.0

○病院・診療所を利用したことのある 39 名に対して、その場所を聞いたところ（複数回答あり）、「市内」21 名、「市外」20 名であった。

問 8②　利用した病院・診療所の場所（市内／市外）

	件数	割合 N=39	割合 (除無回答) N=39
市内	21	53.8	53.8
市外	20	51.3	51.3
無回答	0	0.0	－
全　　体	41	－	－

○民間団体、民間カウンセラーを利用したことのある 4 名に対して、その場所を聞いたところ、「市内」2 名、「市外」2 名であった。

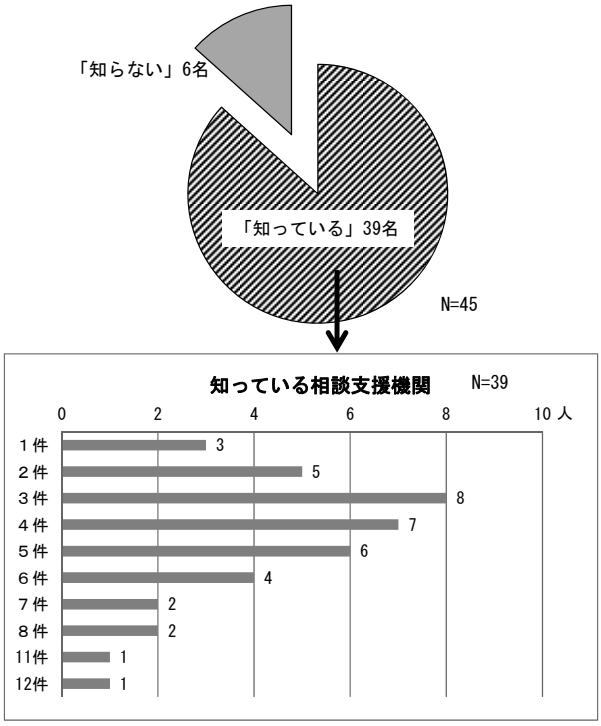
問 8②　利用した民間団体・民間のカウンセラーの場所（市内／市外）

	件数	割合 N=4	割合 (除無回答) N=4
市内	2	50.0	50.0
市外	2	50.0	50.0
無回答	0	0.0	－
全　　体	4	100.0	100.0

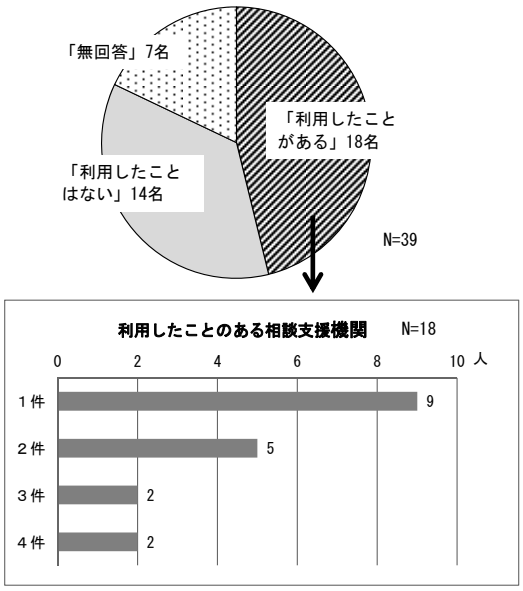
■「ひきこもり」の状況別にみた相談支援機関やサービスの認知と利用について

○本人または家族がひきこもりの状況の45名のうち1件も支援機関やサービスを知らない人は6名であった。
○相談支援機関やサービスを知っている39名のうち、「利用したことがある」人は18名であった。

本人または家族がひきこもりの状況の人（45名）の相談支援機関やサービスの認知状況



本人または家族がひきこもりの状況の人（45名）の相談支援機関やサービスの利用状況
（相談支援機関やサービスを認知している人39名の内訳）

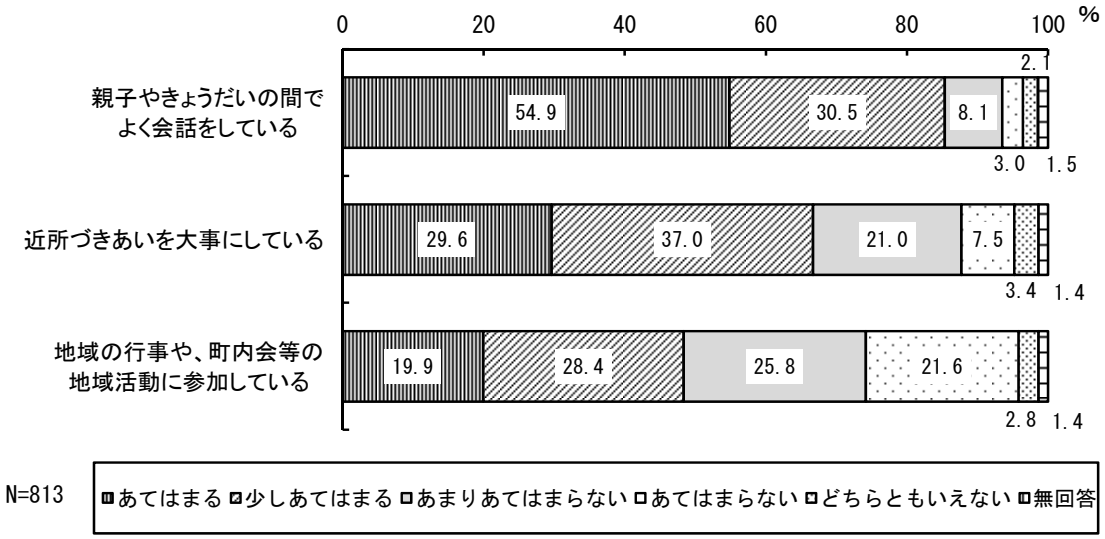


６）回答者や家族の状況について

（１）家族の状況について

○「親子やきょうだい間でよく会話をしている」については 54.9%、「近所づきあいを大切にしている」については 29.6%、「地域の行事や町内会等の地域活動への参加」については 19.9%が「あてはまる」と回答している。

問 9　家族の状況について



問 9　家族の状況について

				あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている		446	248	66	24	17	12	813
	(2)	近所づきあいを大事にしている		241	301	171	61	28	11	813
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している		162	231	210	176	23	11	813
割合	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている	N=813	54.9	30.5	8.1	3.0	2.1	1.5	100.0
	(2)	近所づきあいを大事にしている	N=813	29.6	37.0	21.0	7.5	3.4	1.4	100.0
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している	N=813	19.9	28.4	25.8	21.6	2.8	1.4	100.0
割合（除無回答）	(1)	親子やきょうだいの間でよく会話をしている	N=801	55.7	31.0	8.2	3.0	2.1	－	100.0
	(2)	近所づきあいを大事にしている	N=802	30.0	37.5	21.3	7.6	3.5	－	100.0
	(3)	地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している	N=802	20.2	28.8	26.2	21.9	2.9	－	100.0

■本人または家族がひきこもりの人の家族の状況について
－（2）近所づきあいを大事にしている－

○本人または家族がひきこもりの人では、53.3%が「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答している。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)）の家族の状況について（問 9）
－（2）近所づきあいを大事にしている－

問９(2)近所づきあいを大事にしている

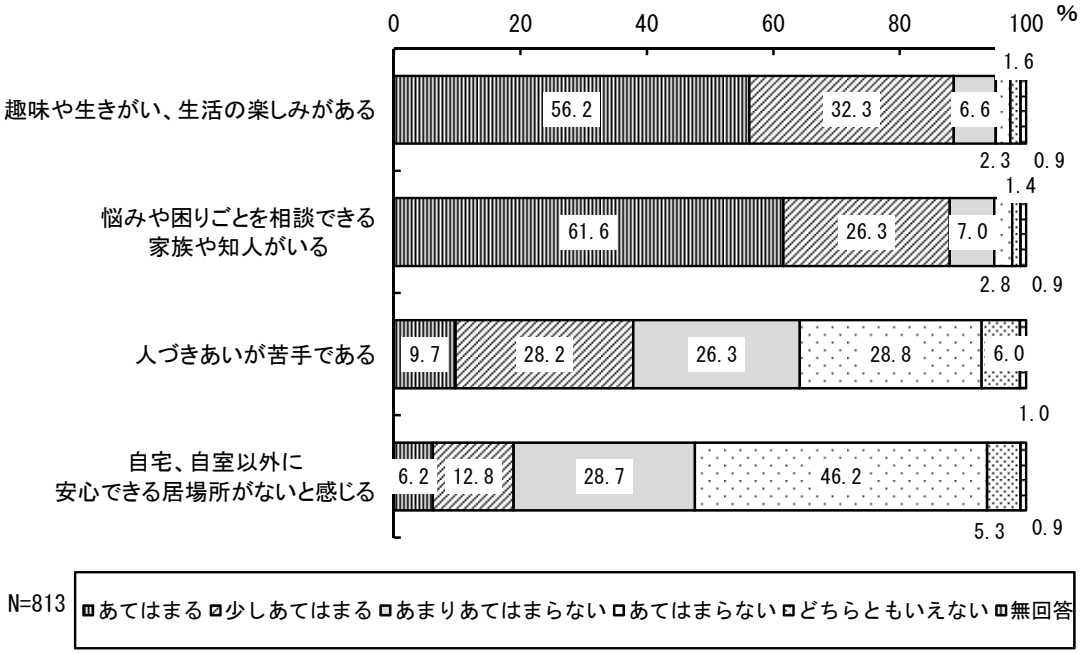
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　　体		813	241	301	171	61	28	11	542	232	28
		100.0	29.6	37.0	21.0	7.5	3.4	1.4	66.7	28.5	3.4
問６(1)	はい	45	17.8	28.9	33.3	20.0	0.0	0.0	46.7	53.3	0.0
本人又は家族	いいえ	764	30.2	37.6	20.4	6.8	3.7	1.3	67.8	27.2	3.7
	無回答	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0

**1%有意

（２）回答者自身の状況について

○「趣味や生きがい、生活の楽しみがある」については 56.2%が「あてはまる」と回答した。
○「悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる」については 61.6%が「あてはまる」と回答した。
○「人づきあいが苦手である」については 37.9%が「あてはまる」「少しあてはまると回答した。
○「自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる」については、19.0%が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した。

問 10　回答者自身の状況について



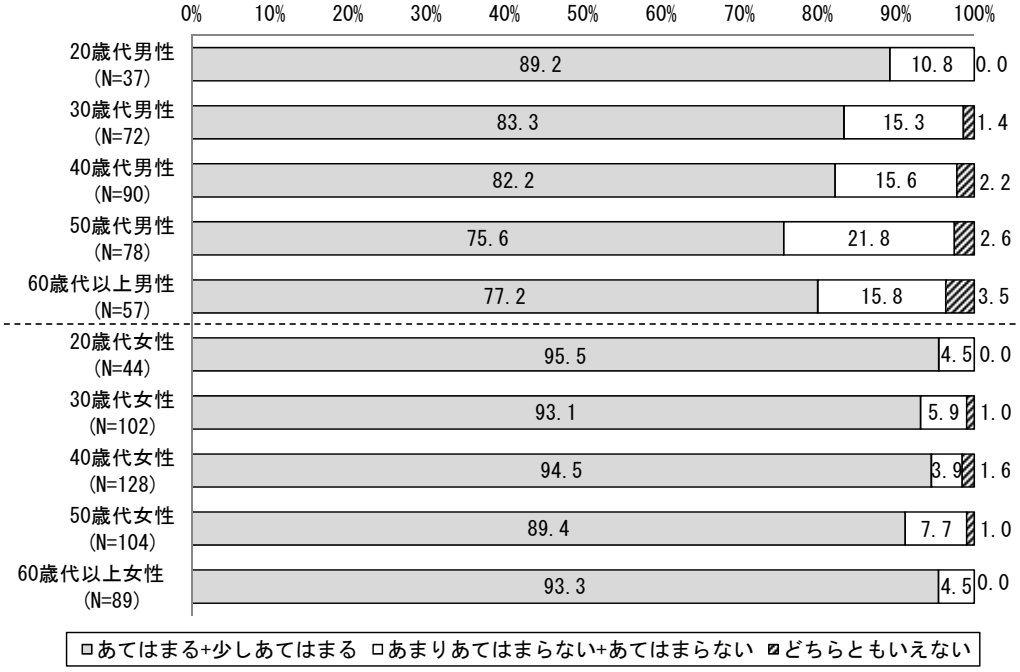
問 10　回答者自身の状況について

				あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	(1)	趣味や生きがい、生活の楽しみがある		457	263	54	19	13	7	813
	(2)	悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる		501	214	57	23	11	7	813
	(3)	人づきあいが苦手である		79	229	214	234	49	8	813
	(4)	自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる		50	104	233	376	43	7	813
割合	(1)	趣味や生きがい、生活の楽しみがある	N=813	56.2	32.3	6.6	2.3	1.6	0.9	100.0
	(2)	悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる	N=813	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	100.0
	(3)	人づきあいが苦手である	N=813	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	100.0
	(4)	自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる	N=813	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	100.0
割合（除無回答）	(1)	趣味や生きがい、生活の楽しみがある	N=806	56.7	32.6	6.7	2.4	1.6	－	100.0
	(2)	悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる	N=806	62.2	26.6	7.1	2.9	1.4	－	100.0
	(3)	人づきあいが苦手である	N=805	9.8	28.4	26.6	29.1	6.1	－	100.0
	(4)	自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる	N=806	6.2	12.9	28.9	46.7	5.3	－	100.0

■年齢・男女別　回答者自身の状況について
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

○男性の方が相談相手がいない傾向がみられ、特に 50 歳代男性では「あてはまらない」の割合が高い。

男女別・年齢別（問 12・問 13）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－



問10(2)悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

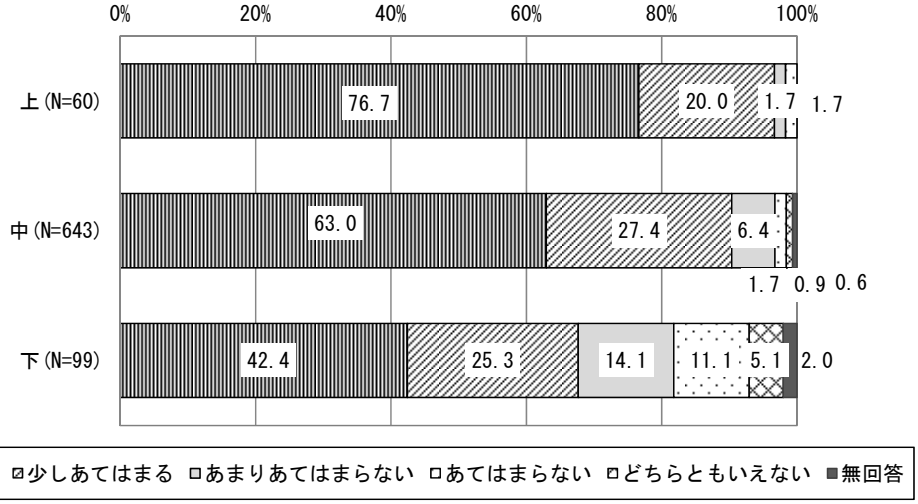
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問12　性別	20歳代男性	37	70.3	18.9	8.1	2.7	0.0	0.0	89.2	10.8	0.0
問13　年齢	20歳代女性	44	77.3	18.2	2.3	2.3	0.0	0.0	95.5	4.5	0.0
	30歳代男性	72	50.0	33.3	12.5	2.8	1.4	0.0	83.3	15.3	1.4
	30歳代女性	102	76.5	16.7	3.9	2.0	1.0	0.0	93.1	5.9	1.0
	40歳代男性	90	43.3	38.9	13.3	2.2	2.2	0.0	82.2	15.6	2.2
	40歳代女性	128	70.3	24.2	3.1	0.8	1.6	0.0	94.5	3.9	1.6
	50歳代男性	78	43.6	32.1	11.5	10.3	2.6	0.0	75.6	21.8	2.6
	50歳代女性	104	69.2	20.2	4.8	2.9	1.0	1.9	89.4	7.7	1.0
	60歳代以上男性	57	50.9	26.3	10.5	5.3	3.5	3.5	77.2	15.8	3.5
	60歳代以上女性	89	61.8	31.5	4.5	0.0	0.0	2.2	93.3	4.5	0.0
	無回答	12	66.7	25.0	0.0	0.0	0.0	8.3	91.7	0.0	0.0

**1%有意

■暮らし向き別　回答者自身の状況について
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

○暮らし向きについて「上」と感じている人では「あてはまる」「少しあてはまる」の割合が高く、「中」「下」となるほどその割合は低くなっている。
○「下の中」、「下の下」では「あてはまらない」、「あまりあてはまらない」の割合が３割を超えている。

暮らし向き別（問 18）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－



暮らし向き別（問 18）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

問10(2)悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問18 暮らし向き	上の上	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	上の中	20	75.0	20.0	5.0	0.0	0.0	0.0	95.0	5.0	0.0
	上の下	38	76.3	21.1	0.0	2.6	0.0	0.0	97.4	2.6	0.0
	中の上	212	66.5	25.9	5.7	0.9	0.5	0.5	92.5	6.6	0.5
	中の中	316	63.6	27.2	5.4	1.9	1.3	0.6	90.8	7.3	1.3
	中の下	115	54.8	30.4	10.4	2.6	0.9	0.9	85.2	13.0	0.9
	下の上	56	48.2	26.8	14.3	5.4	3.6	1.8	75.0	19.6	3.6
	下の中	29	31.0	34.5	13.8	17.2	3.4	0.0	65.5	31.0	3.4
	下の下	14	42.9	0.0	14.3	21.4	14.3	7.1	42.9	35.7	14.3
	無回答	11	72.7	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	81.8	9.1	0.0

**1%有意

■本人または家族がひきこもりの人の状況について
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

○本人または家族がひきこもりの人（45 人）の状況についてみたところ、「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合は、そうでない人と比べて低くなっており、26.7%は「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」としており、相談相手が少ない状況にある。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)）の　回答者自身の状況について（問 10）
－（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる－

問10(2)悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	501	214	57	23	11	7	715	80	11
		100.0	61.6	26.3	7.0	2.8	1.4	0.9	87.9	9.8	1.4
問６(1)	はい	45	51.1	22.2	15.6	11.1	0.0	0.0	73.3	26.7	0.0
本人又は家族	いいえ	764	62.3	26.6	6.5	2.4	1.4	0.8	88.9	8.9	1.4
	無回答	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0	0.0

**1%有意

■男女別　回答者自身の状況について
－（3）人づきあいが苦手である－

○どちらかというと男性の方が、人づきあいが苦手と感じる人が多い傾向にある。男性の41.6%が「あてはまる」または「少しあてはまる」としている。

男女別（問 12）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（3）人づきあいが苦手である－

問10(3)人づきあいが苦手である

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問12	男性	334	12.0	29.6	27.2	26.9	3.3	0.9	41.6	54.2	3.3
性別	女性	467	8.1	27.2	25.7	30.2	7.9	0.9	35.3	55.9	7.9
	無回答	12	8.3	25.0	25.0	25.0	8.3	8.3	33.3	50.0	8.3

**1%有意

■暮らし向き別　回答者自身の状況について
－（3）人づきあいが苦手である－

○暮らし向きが「下」と回答した人では「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合が高く、「中」、「上」となるほどその割合は低くなっている。「下の上」、「下の中」では「あてはまる」「少しあてはまる」の割合が半数を超えている。

暮らし向き別（問 18）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（3）人づきあいが苦手である－

問10(3)人づきあいが苦手である

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問18 暮らし向き	上の上	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	上の中	20	5.0	15.0	35.0	45.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	上の下	38	13.2	10.5	15.8	55.3	5.3	0.0	23.7	71.1	5.3
	中の上	212	9.4	26.9	28.3	29.7	4.7	0.9	36.3	58.0	4.7
	中の中	316	7.3	28.5	28.5	27.5	7.6	0.6	35.8	56.0	7.6
	中の下	115	12.2	33.0	23.5	26.1	4.3	0.9	45.2	49.6	4.3
	下の上	56	12.5	39.3	17.9	17.9	10.7	1.8	51.8	35.7	10.7
	下の中	29	17.2	41.4	24.1	17.2	0.0	0.0	58.6	41.4	0.0
	下の下	14	28.6	14.3	14.3	28.6	7.1	7.1	42.9	42.9	7.1
	無回答	11	0.0	9.1	36.4	36.4	9.1	9.1	9.1	72.7	9.1

**1%有意

■本人または家族がひきこもりの人の状況について
－（3）人づきあいが苦手である－

○本人または家族がひきこもりの人（45 人）の「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合は 62.2%で、そうでない人と比べて高くなっている。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)）の回答者自身の状況について（問 10）
－（3）人づきあいが苦手である－

問10(3)人づきあいが苦手である

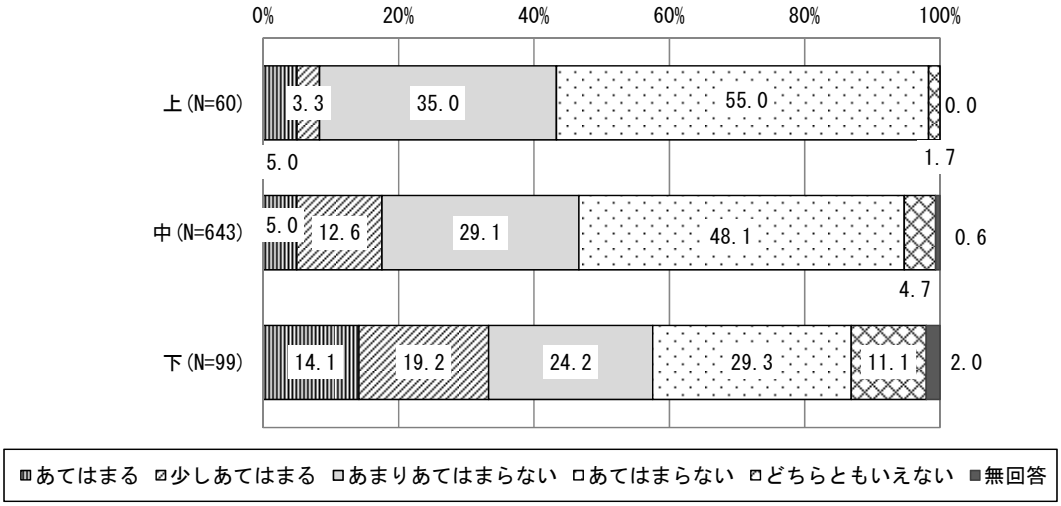
		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	79	229	214	234	49	8	308	448	49
		100.0	9.7	28.2	26.3	28.8	6.0	1.0	37.9	55.1	6.0
問６(1) 本人又は家族	はい	45	28.9	33.3	11.1	26.7	0.0	0.0	62.2	37.8	0.0
	いいえ	764	8.6	27.9	27.2	28.9	6.4	0.9	36.5	56.2	6.4
	無回答	4	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

**1%有意

■暮らし向き別　回答者自身の状況について
－（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

○暮らし向き別に回答状況をみたところ、「下」と回答した人では「あてはまる」または「少しあてはまる」の割合が高く、自宅・自室以外に安心できる居場所がないと感じていることがわかる。「中」、「上」となるほどその割合は低くなる傾向がみられる。

暮らし向き別（問 18）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－



暮らし向き別（問 18）にみた　回答者自身の状況について（問 10）
－（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

問10(4)自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　体		813	50	104	233	376	43	7	154	609	43
		100.0	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	18.9	74.9	5.3
問18 暮らし向き	上の上	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	上の中	20	5.0	5.0	30.0	55.0	5.0	0.0	10.0	85.0	5.0
	上の下	38	5.3	2.6	36.8	55.3	0.0	0.0	7.9	92.1	0.0
	中の上	212	3.8	10.4	31.1	50.9	3.3	0.5	14.2	82.1	3.3
	中の中	316	4.4	12.7	31.0	46.8	4.4	0.6	17.1	77.8	4.4
	中の下	115	8.7	16.5	20.0	46.1	7.8	0.9	25.2	66.1	7.8
	下の上	56	8.9	17.9	30.4	32.1	8.9	1.8	26.8	62.5	8.9
	下の中	29	20.7	24.1	24.1	24.1	6.9	0.0	44.8	48.3	6.9
	下の下	14	21.4	14.3	0.0	28.6	28.6	7.1	35.7	28.6	28.6
	無回答	11	9.1	18.2	9.1	45.5	9.1	9.1	27.3	54.5	9.1

**1%有意

■本人または家族がひきこもりの人の状況について
－（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

○「あてはまる」の割合は全体と比較すると高いが、半数以上はあてはまらない状況である。

本人または家族がひきこもりの人（問 6(1)の　回答者自身の状況について（問 10）
－（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる－

問10(4)自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる

		全体	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	無回答	あてはまる+少しあてはまる	あまりあてはまらない+あてはまらない	どちらともいえない
全　　体		813	50	104	233	376	43	7	154	609	43
		100.0	6.2	12.8	28.7	46.2	5.3	0.9	18.9	74.9	5.3
問６(1)	はい	45	13.3	22.2	22.2	35.6	6.7	0.0	35.6	57.8	6.7
本人又は家族	いいえ	764	5.8	12.2	28.9	47.1	5.2	0.8	17.9	76.0	5.2
	無回答	4	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

*5%有意

７）若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

○様々な意見がみられる中、「このアンケートを通じて、市の取り組みや事業を初めて知った」、「もっと市の事業について積極的に広報してほしい」、「必要としている人に情報が届くようにしてほしい」等、市の取り組みや事業に関する意見や、それらの広報に関する意見が多かった。様々な機関で相談支援活動を行っていることについて、評価するという意見がある一方で、分かりづらいので一本化すべきであるとの意見もあった。

○ひきこもりやニート等の問題には、社会的な要因があるという意見もあった。核家族できょうだいが少ない環境で育ち、友達との遊びやコミュニケーションツールが変化していることから、コミュニケーション能力が育ちにくい、精神的に弱い等の指摘があった。また、経済状況の低迷、正規雇用の減少など働きたくても働けない状況があり、もっと雇用対策や就労環境の整備に取り組んでいくべきであるという意見がみられた。

○ひきこもりやニート等を増やさない、予防的な取組が必要という意見もあり、学校教育や地域の中で子ども達のコミュニケーション能力を高めていく取組が必要、とする意見があった。また現在小さい子どもを育てている親世代への教育の必要性も指摘された。

○その一方で、ひきこもりやニート等の問題は、家庭や個人の問題であり、働く意欲のない人に対して公的支援を行うのは無駄である、とする意見や、生活保護を受けて働いていない若者に対する批判等もみられた。

○また、学校や職場でのいじめ問題に言及する意見も目立ち、解決への取り組みを訴える意見が多かった。

○回答者の中には、実際にひきこもり経験のある方や、発達障害の子どもを抱えている方、うつ、精神疾患など、様々な課題を抱えている方がいた。中には、身近な相談窓口や支援を求める切実な意見もみられた。

○問 11 の意見内容は、次頁の表の通りである。

問 11　若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

分　類	（件）	内　訳	（件）
若者支援に積極的に取り組んでほしい	99	支援・取組のPRや広報の工夫をしてほしい	32
		支援・取組の充実、推進を望む	16
		相談窓口を充実してほしい	12
		取組について初めて知った	7
		窓口の一元化を図ってほしい	3
		居場所・コミュニティづくりを行ってほしい	3
		関係機関の連携を進めてほしい	3
		医療面からの支援を行ってほしい	2
		その他	21
ひきこもりやニートを増やさない、予防的な取組を進めてほしい（子どもの頃からの教育、親への支援など）	54		54
ひきこもりやニートの背景には、社会的な要因がある（経済状況、遊びの変化、家族形態の変化など）	36		36
雇用対策や就労環境の整備を進めてほしい	18		18
学校や職場でのいじめ対策に取り組んでほしい	12		12
若者支援には賛成できない	15	ひきこもりやニートは家庭や個人の問題である	13
		行き過ぎた支援は逆効果	2
その他	10		10
合　計	244	合　計	244

民生委員・児童委員調査結果データ

１　調査概要

【調査対象及び回収の状況】

調査対象者　町田市内の民生委員、主任児童委員 244 名
有効回答件数　156 件（有効回収率　63.9%）

【調査方法】

直接配付、郵送による回収

【調査期間】

2012 年 10 月

２　調査結果の見方

①　設問の回答者数はＮで表示している。
②　集計は、小数第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100%にならない場合がある。
③　標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、回答者数（N）＝156 とする場合の誤差（95%は信頼できる誤差の範囲）は下記の通りである。

各回答の比率	5%又は95%	10%又は90%	15%又は85%	20%又は80%	25%又は75%	30%又は70%	35%又は65%	40%又は60%	45%又は55%	50%
標本誤差	±1.24%	±1.70%	±2.03%	±2.27%	±2.46%	±2.60%	±2.71%	±2.78%	±2.83%	±2.84%

④　統計的検定結果については、5%水準に＊印を、1%水準に＊＊印を、それぞれ付記した。
⑤　自由回答の集計については、内容ごとに分類し集計した。

３　回答者の属性

１）担当地区

○回答者の担当地区は下表の通りである。

問 10　回答者の担当地区

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=156
町田第一地区	21	13.5	13.5
町田第二地区	23	14.7	14.7
南第一地区	22	14.1	14.1
南第二地区	15	9.6	9.6
鶴川第一地区	15	9.6	9.6
鶴川第二地区	17	10.9	10.9
忠生第一地区	16	10.3	10.3
忠生第二地区	15	9.6	9.6
堺地区	12	7.7	7.7
無回答	0	0.0	－
全　　体	156	100.0	100.0

２）民生委員・児童委員歴

○民生委員・児童委員歴は、平均 6.5 年である。

問 11　民生委員・児童委員歴

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=154
２年未満	14	9.0	9.1
２～４年未満	34	21.8	22.1
４～６年未満	32	20.5	20.8
６～８年未満	15	9.6	9.7
８～10年未満	25	16.0	16.2
10～15年未満	23	14.7	14.9
15年以上	11	7.1	7.1
無回答	2	1.3	－
全　　体	156	100.0	100.0
平　　均	N=154	6.5年	

4　調査結果

1）「若者の自立」に関する相談の状況について

（1）担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方について

○担当地区内にひきこもり傾向にある人がいると回答した人は 40.4%であった。
○対象者の性別、年齢について回答しない方が多かった。回答の中では、男性の 30 歳代の人が多いが、男女とも 10 歳代から 50 歳代以上まで幅広い分布がみられる。

問１（1）　担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方について

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=149
はい	63	40.4	42.3
いいえ	86	55.1	57.7
無回答	7	4.5	－
全　　体	156	100.0	100.0

問１（1）－1　担当地区内の「ひきこもり」の傾向にあると思われる方の人数

			なし	１人	２人	３人	４人	無回答	全体	平均 (人)	平均 (人) (0を除く)
件数	男性	10歳代（小・中学校在籍）	53	6	2	1	1	0	63	0.3	1.7
		10歳代（中学校卒業後）	58	3	2	0	0	0	63	0.1	1.4
		20歳代	49	13	0	1	0	0	63	0.3	1.1
		30歳代	40	20	1	2	0	0	63	0.4	1.2
		40歳代	51	10	2	0	0	0	63	0.2	1.2
		50歳代以上	56	6	1	0	0	0	63	0.1	1.1
		小　　計		58	8	4	1	0			
	女性	10歳代（小・中学校在籍）	54	8	1	0	0	0	63	0.2	1.1
		10歳代（中学校卒業後）	59	3	1	0	0	0	63	0.1	1.3
		20歳代	60	3	0	0	0	0	63	0.0	1.0
		30歳代	57	6	0	0	0	0	63	0.1	1.0
		40歳代	54	9	0	0	0	0	63	0.1	1.0
		50歳代以上	56	7	0	0	0	0	63	0.1	1.0
		小　　計		36	2	0	0	0			

（２）「ひきこもり」または「ひきこもり」の傾向にあると思われる方に関する、相談・情報提供について

○相談や情報提供を受けたことがあると回答した人は 26.3%である。
○対象者の性別、年齢について回答しない方が多かった。男女とも 10 歳代から 50 歳代以上まで幅広い分布がみられる。

問１（2）　「ひきこもり」又は、「ひきこもり」の傾向にある方に関する相談・情報提供の有無について

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=127
はい	41	26.3	32.3
いいえ	86	55.1	67.7
無回答	29	18.6	－
全　　体	156	100.0	100.0

問１（2）－1　「ひきこもり」傾向にあると思われる方の人数

			なし	１人	２人	３人	４人	無回答	全体	平均（人）	平均（人）(0を除く)
件数	男性	10歳代（小・中学校在籍）	33	5	1	1	1	0	41	0.3	1.8
		10歳代（中学校卒業後）	39	2	0	0	0	0	41	0.0	1.0
		20歳代	32	8	1	0	0	0	41	0.2	1.1
		30歳代	36	5	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		40歳代	34	6	1	0	0	0	41	0.2	1.1
		50歳代以上	36	5	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		小　　計		31	3	1	1	0			
	女性	10歳代（小・中学校在籍）	33	8	0	0	0	0	41	0.2	1.0
		10歳代（中学校卒業後）	39	1	1	0	0	0	41	0.1	1.5
		20歳代	37	3	1	0	0	0	41	0.1	1.3
		30歳代	35	6	0	0	0	0	41	0.1	1.0
		40歳代	39	2	0	0	0	0	41	0.0	1.0
		50歳代以上	37	3	1	0	0	0	41	0.1	1.3
		小　　計		23	3	0	0	0			

（３）相談・情報の提供元について

○相談・情報提供を受けたことがある 41 名に聞いたところ、「ご家族からの相談」と「教育機関からの相談・情報提供」が最も多く各 14 件、次いで「近隣の方からの相談・情報提供」（11 件）、「行政機関からの相談・情報提供」（9 件）となっている。

問 2　相談・情報の提供元について（複数回答）

	件数	割合 N=41	割合 (除無回答) N=41
ご家族からの相談	14	34.1	34.1
近隣の方からの相談・情報提供	11	26.8	26.8
自治会・町内会からの相談・情報提供	1	2.4	2.4
教育機関からの相談・情報提供	14	34.1	34.1
行政機関からの相談・情報提供	9	22.0	22.0
交番・警察・消防からの情報提供	0	0.0	0.0
その他	3	7.3	7.3
無回答	0	0.0	－
全　　体	52	－	－

問 2　相談・情報の提供元について（具体的な機関名）

	機関名
教育機関	小学校・中学校（7件）
行政機関	生活援護課（5件）
	子ども家庭支援センター
その他	社会福祉協議会
	前任者

（４）相談・情報提供を受けた後の対応

○相談・情報提供を受けた後の対応については、「その他」が最も多く 18 件、次いで「訪問や電話相談を行った（行っている）」（15 件）、「行政機関、専門機関に相談した」（14 件）が多い。
○「その他」の具体的な内容は表の通りである。

問 3　相談を受けた後の対応（複数回答）

	件数	割合 N=41	割合 (除無回答) N=41
訪問や電話相談を行った（行っている）	15	36.6	36.6
行政機関、専門機関に相談した	14	34.1	34.1
他の民生委員・児童委員に相談した	8	19.5	19.5
自治会・町内会の役員に相談した	2	4.9	4.9
その他	18	43.9	43.9
無回答	0	0.0	－
全　　体	57	－	－

問 3　相談を受けた後の対応：「その他」の内容

内　容	（件）
見守っている	6
家族と話をしている、家族への情報提供	5
本人から話を聞いている、本人への情報提供	2
今後訪問予定	1
交番との打ち合わせ	1
対応していないが対応困難	1
訪問しているが応答がない	1
合　計	17

（５）相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこと

○相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこととして最も多かったのは「対応方法がわからない」、「こちらからの働きかけを拒否、無視される」という意見であった。また「見守ってくださいと言われたが、具体的にどのようにしたらよいかわからない」、「精神疾患の方への接し方がわからない」など、全体として当事者や家族との関わり方について課題と感じている状況がうかがえる。

問４　相談を受ける上で、困ったこと、課題と感じたこと（自由回答）

内　容	（件）
対応方法が分からない	5
こちらからの働きかけを拒否、無視される	5
見守りの場合、対応が難しい	4
精神疾患の方への接し方がわからない	3
近隣住民が困っている（騒音等）	3
家族が隠したがる	2
本人・家族の態度（問題と思っていない）	2
個人情報の取り扱い	2
その他	5
合　計	31

２）「ひきこもり」等に関する相談支援機関やサービスについて

（１）相談支援機関やサービスの利用経験の有無

○利用したことのある相談機関やサービスについては、無回答が多く、回答者の半数以上が無回答であった。また「いずれの機関にも相談したことがない」が 47 件であった。
○利用した件数が最も多かったのは「町田市保健所」(8 件)、「上記以外の市役所の担当課」(7 件)、「病院・診療所」(5 件)、「その他」(5 件) と続いている。「上記以外の市役所の担当課」については、全て「生活援護課」である。

問 5　相談支援機関やサービスの利用経験の有無（複数回答）

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=73
町田市保健所	8	5.1	11.0
町田市子ども家庭支援センター	3	1.9	4.1
町田市教育センター・教育相談	1	0.6	1.4
町田市内の学校の適応指導教室	1	0.6	1.4
上記以外の市役所の担当課	7	4.5	9.6
町田市社会福祉協議会	2	1.3	2.7
東京都ひきこもりサポートネット	1	0.6	1.4
東京都の児童相談所	2	1.3	2.7
東京都精神保健福祉センター	1	0.6	1.4
ハローワーク	0	0.0	0.0
地域若者サポートステーション	0	0.0	0.0
病院・診療所	5	3.2	6.8
民間の支援団体やカウンセリングルーム	2	1.3	2.7
その他	5	3.2	6.8
いずれの機関にも相談したことはない	47	30.1	64.4
無回答	83	53.2	－
全　　体	168	－	－

問 5　利用したことのある相談支援機関やサービス：「その他」の内容

その他の内訳
高齢者支援センター（2件）
仲間の民生委員
学校
交番

（２）利用した相談支援機関やサービスの対応について

○記載のあった主な意見は以下の通りである。

問 5－1　利用した相談支援機関やサービスの対応について

・家族に次回お会いできたときに話すヒントをもらうことができた。
・本人だけでなく、家族にも気遣いがあり、安心することができた。
・みんなで支え合うという意志が感じられた。
・対応の助言・協力が得られた。
・よく話を聞いてくれた。
・親切で丁寧な対応だった。
・期待した支援は受けられなかった。
・「本人の意思を尊重」という点が、現実とずれているようでもどかしく思った。
・対応方針が相談者としては不満足だった。
・現状では、見守り以上の方法はなかった。
・対応については了解したが大きな進展はなかった。

（３）若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組みについて

○記載のあった意見は以下の通りである。

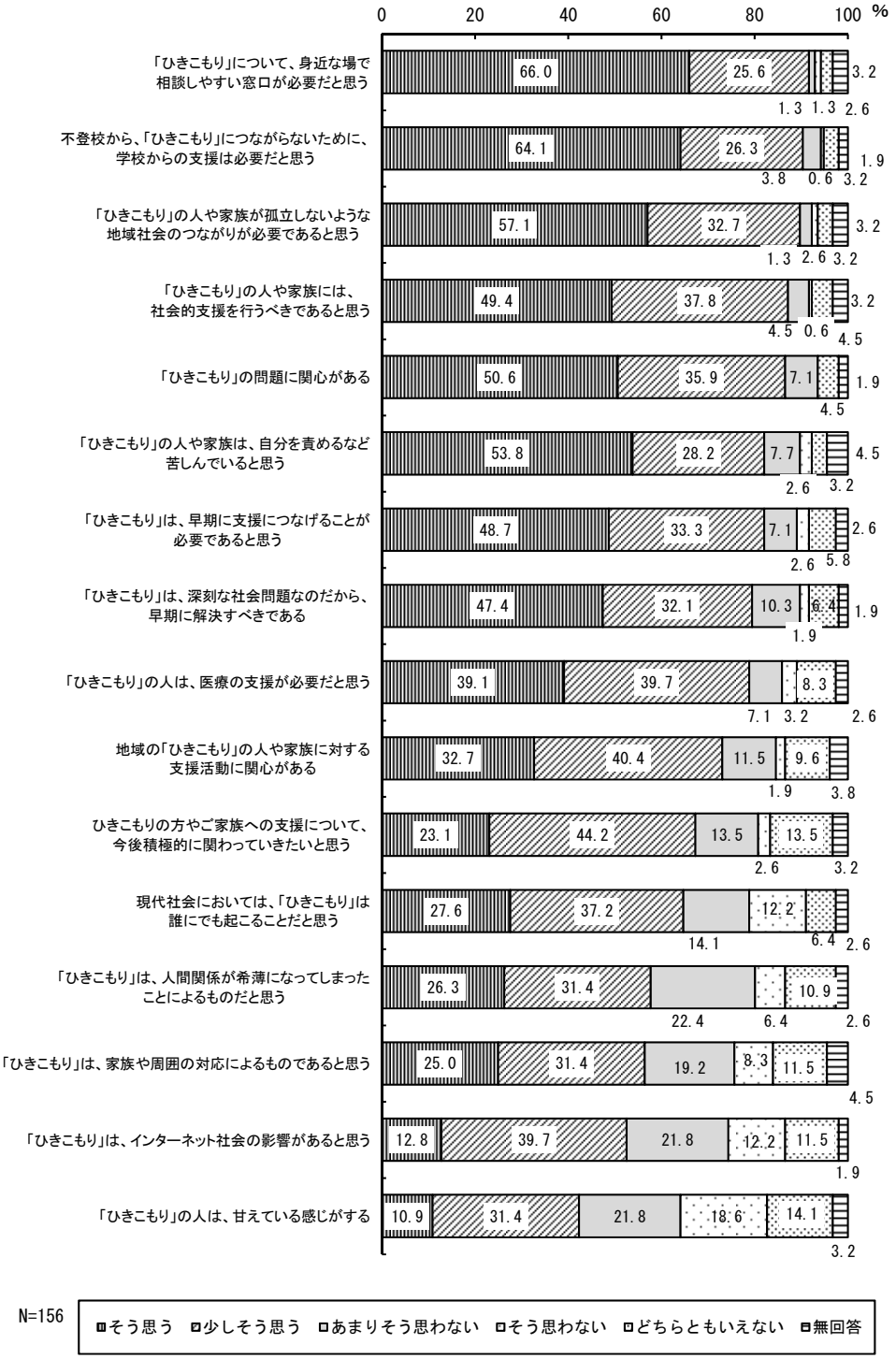
問 6　若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組みについて

・地域活動へ声かけする（祭りやイベントの手伝いなど）。
・自立支援にも段階が必要と思う。ひきこもりの年代、状態も様々です。チラシや回覧、ネットでの広告はどうだろうか（個人で話を聞いてもらいたい、数人と会っても大丈夫等）。
・短時間で次にも行きたいと繋げられるような活動場所やプランニングはどこが提供するのだろうか。
・若者だけでなく、リストラなどで 40 代のひきこもりがいる。
・行政が支援活動、居場所を作る、考えるべきとも思う。

３）「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援について

○社会的支援の必要性や早期支援の必要性について８割が肯定しており、地域の支援活動には７割が関心をもっている。

問７　ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について



問７　「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について

			そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	全体
件数	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う		103	40	2	2	4	5	156
	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う		100	41	6	1	5	3	156
	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う		89	51	4	2	5	5	156
	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う		77	59	7	1	7	5	156
	「ひきこもり」の問題に関心がある		79	56	11	0	7	3	156
	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う		84	44	12	4	5	7	156
	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う		76	52	11	4	9	4	156
	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである		74	50	16	3	10	3	156
	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う		61	62	11	5	13	4	156
	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある		51	63	18	3	15	6	156
	ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う		36	69	21	4	21	5	156
	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う		43	58	22	19	10	4	156
	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う		41	49	35	10	17	4	156
	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う		39	49	30	13	18	7	156
	「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う		20	62	34	19	18	3	156
	「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする		17	49	34	29	22	5	156
割合	「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	N=156	66.0	25.6	1.3	1.3	2.6	3.2	100.0
	不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	N=156	64.1	26.3	3.8	0.6	3.2	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	N=156	57.1	32.7	2.6	1.3	3.2	3.2	100.0
	「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	N=156	49.4	37.8	4.5	0.6	4.5	3.2	100.0
	「ひきこもり」の問題に関心がある	N=156	50.6	35.9	7.1	0.0	4.5	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	N=156	53.8	28.2	7.7	2.6	3.2	4.5	100.0
	「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	N=156	48.7	33.3	7.1	2.6	5.8	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	N=156	47.4	32.1	10.3	1.9	6.4	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	N=156	39.1	39.7	7.1	3.2	8.3	2.6	100.0
	地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	N=156	32.7	40.4	11.5	1.9	9.6	3.8	100.0
	ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う	N=156	23.1	44.2	13.5	2.6	13.5	3.2	100.0
	現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	N=156	27.6	37.2	14.1	12.2	6.4	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	N=156	26.3	31.4	22.4	6.4	10.9	2.6	100.0
	「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	N=156	25.0	31.4	19.2	8.3	11.5	4.5	100.0
	「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	N=156	12.8	39.7	21.8	12.2	11.5	1.9	100.0
	「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	N=156	10.9	31.4	21.8	18.6	14.1	3.2	100.0

○一般市民調査（問 7）と比較すると、全体的にひきこもりの問題への関心が高く、支援の必要性、早期解決の必要性について、一般市民よりも高い割合で支持している傾向がみられる。
○また「家族や周囲の対応によるものだと思う」、「ひきこもりの人は甘えている気がする」等については、「そう思う」または「少しそう思う」の割合は、一般市民と比べて低くなっている。
○「(15) 地域の『ひきこもり』の人や家族に対する支援活動への関心」について、「そう思う」または「少しそう思う」の割合は、一般市民調査では 47.4%であったのに対して、民生委員調査では 73.1%となっており、大きく上回っている。

問 7　「ひきこもり」の背景、「ひきこもり」に対する考え、社会的支援等について（一般市民調査との比較）

	民生委員調査 (N=156)			一般市民調査 (N=813)		
	そう思う＋少しそう思う	そう思わない＋あまりそう思わない	どちらともいえない	そう思う＋少しそう思う	そう思わない＋あまりそう思わない	どちらともいえない
「ひきこもり」の問題に関心がある	**86.5**	7.1	4.5	65.9	25.8	7.4
「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである	**79.5**	12.2	6.4	77.1	15.9	5.8
「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う	56.4	27.6	11.5	**61.6**	27.1	10.0
「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う	57.7	28.8	10.9	**62.5**	28.0	8.4
「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う	52.6	34.0	11.5	**65.3**	26.4	7.4
現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う	64.7	26.3	6.4	**66.8**	28.8	3.8
「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う	**82.1**	10.3	3.2	78.7	14.9	5.8
「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする	42.3	40.4	14.1	**65.7**	23.5	10.0
「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う	**87.2**	5.1	4.5	78.6	15.6	4.9
「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う	**78.8**	10.3	8.3	65.7	25.0	8.5
「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う	**82.1**	9.6	5.8	74.8	16.9	7.5
不登校から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う	**90.4**	4.5	3.2	83.2	10.7	5.3
「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う	**89.7**	3.8	3.2	83.6	10.2	5.2
「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う	**91.7**	2.6	2.6	91.0	5.7	2.5
地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある	**73.1**	13.5	9.6	47.4	38.5	12.5
ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う	67.3	16.0	13.5	－	－	－

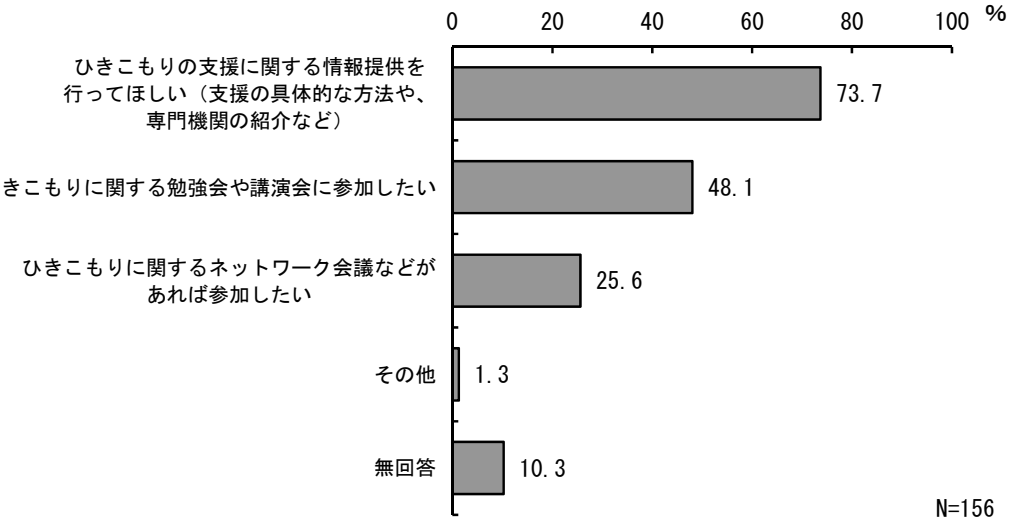
※網掛け部分は、「そう思う＋少しそう思う」の割合が高い方を示す
**1%有意

４）「ひきこもり」の支援に関する今後の活動意向について

（１）ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること

○「ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい」(73.7%)、「ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい」(48.1%)、「ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい」(25.6%) であった。

問８　ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること（複数回答）



問８　ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待すること（複数回答）

	件数	割合 N=156	割合 (除無回答) N=140
ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい（支援の具体的な方法や、専門機関の紹介など）	115	73.7	82.1
ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい	75	48.1	53.6
ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい	40	25.6	28.6
その他	2	1.3	1.4
無回答	16	10.3	－
全　体	248	－	－

５）若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

○事業の周知やいじめ・不登校対策など、積極的に取り組んでほしいという期待が高い。

問９　若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について（自由回答）

分　類	（件）	内　訳	（件）
積極的に事業の周知、PRをしてほしい	8		8
相談支援の充実、対応に努めてほしい	6	相談支援を充実してほしい	5
		幅広く対応してほしい	1
いじめ・不登校対策に取り組んでほしい	5		5
若者支援を強化してほしい	4	取組の強化	2
		専門部署の設置	1
		方針の明確化	1
実態把握が必要である	2		2
民生委員の活動に支援してほしい	4	情報共有の機会をつくってほしい	2
		学習機会を提供してほしい	2
就労支援を推進してほしい	4	雇用対策に取り組んでほしい	2
		コミュニケーション教育が必要である	1
		生保受給者の自立支援が必要である	1
コミュニティの強化・居場所づくりが必要である	4	地域コミュニティの強化が必要である	2
		若者の出会いの場が必要である	1
		家族の居場所が必要である	1
ひきこもり問題の背景についての意見	7	家族のあり方に要因がある	3
		教育のあり方に要因がある	2
		社会のあり方に要因がある	2
当事者・家族への対応が難しい	5		5
具体的なケースについて	5		5
その他	2	相談を受けた経験がない	1
		よく理解できていない	1
合　計	56		56

社会資源調査（精神保健・医療分野）機関一覧

社会資源調査（精神保健・医療分野）機関一覧

※「医療機能情報」欄は、医療機関よりいただいた情報を掲載しています。（○：実施　－：実施していない　△：要相談　）

No.	医療機関名	住所	電話番号	医療機能情報		
				児童思春期	カウンセリング	心理検査
【病院】						
1	飛鳥病院	町田市鶴間371 http://www.tsurumaikai-hosp-asuka.com/	042-795-2080	－	○	○
2	こころのホスピタル町田	町田市上小山田町2140 http://kokoro-hospital.jp/	042-797-0957	○	○	○
3	鶴が丘 ガーデンホスピタル	町田市三輪緑山2－2133－1 http://www.tsurugaoka.or.jp/new/	044-988-3121	△	○	－
4	鶴川さくら病院	町田市小野路町1632 http://www.tsurukawasakura.or.jp/	042-735-2621	○	－	－
5	鶴川サナトリウム病院	町田市真光寺町197 http://www.ims.gr.jp/turukawa/	042-735-2222	－	－	○
6	常盤病院	町田市常盤町3439－2 http://www1.odn.ne.jp/tokiwa/	042-797-2121	－	－	○
7	町田市民病院	町田市旭町2－15－41 http://machida-city-hospital-tokyo.jp/	042-722-2230	－	○	○
8	町田病院	町田市木曽東4-21-43 http://www.machidahospital.jp/	042-789-0502	－	－	－
9	よしの病院	町田市図師町2252 http://www.yoshinohp.com/	042-791-0734	○	－	○
【クリニック・診療所】						
10	石井メンタルクリニック	町田市能ヶ谷1-8-1神蔵ビル1F なし	042-737-0122	△	○	○
11	大蔵メンタルクリニック	町田市大蔵町2221－2 http://www.machida.tokyo.med.or.jp/iryo/tsurukawa/turu16.html	042-734-6468	○	－	－
12	かざまクリニック	町田市原町田4－20－8永井ビル201 http://www007.upp.so-net.ne.jp/kazama/	042-722-3416	○	○	－
13	敬愛クリニック	町田市忠生4-5-8渋谷ビル201 http://www.machidakeiai.com/kurinikku/index.html	042-794-9106	－	－	－
14	すこやかクリニック	町田市森野1－37－11フラワー吉田ビル3F http://www.sukoyaka-cl.jp/home.htm	042-724-2889	－	－	－
15	すずかけ台診療所	町田市つくし野3－17－9 http://home.u00.itscom.net/suzukake/	042-795-2121	○	○	－
16	つくし野クリニック	町田市つくし野2－18－6 なし	042-799-3033	△	○	－
17	つばさクリニック	町田市忠生3－25－11忠生ビル302号室 http://www.clinic-tsubasa.com/	042-794-6811	－	－	－

※「医療機能情報」欄は、医療機関よりいただいた情報を掲載しています。（○：実施　－：実施していない　△：要相談　）

No.	医療機関名	住所	電話番号	医療機能情報		
				児童思春期	カウンセリング	心理検査
18	つるかわ心療クリニック	町田市能ヶ谷1-5-8鶴川インペリアルビル4階-D http://www.tsurukawa-mh-cl.jp/	042-734-0913	△	○	○
19	つるまるクリニック	町田市森野1－35－8ヴィンテージⅡ4階 http://nttbj.itp.ne.jp/0427280166/index.html	042-728-0166	○	○	○
20	成瀬メンタルクリニック	町田市南成瀬1－1－2プラザ成瀬2－15号室 http://www3.ocn.ne.jp/~narusecl/	042-710-7657	○	○	○
21	ハートクリニック町田	町田市原町田3－2－2第2タストンビル3階 http://www.heartclinic-machida.com/	0120-627-556	○	－	○
22	発達心療クリニック	町田市原町田6－29－1ドヒハラビル2階 http://www.codomo-cl.com/	042-851-8702	○	－	○
23	浜クリニック	町田市南成瀬6－18－10 なし	042-729-0751	○	－	－
24	町田まごころクリニック	町田市森野2－8－15AWEA渋谷ビル1階 http://www.magokoro-clinic.info/	042-851-7824	○	○	○
25	町田こころのクリニック	町田市中町1－3－1小田桐ビル2F http://www.kokoro-clinic.jp/	042-710-2782	○	○	○
26	町田心療クリニック	町田市森野1－36－10杉井ビル7F http://www.machida-mhcl.com/pc/	042-720-2877	○	○	○
27	町田南ホームクリニック	町田市鶴間684－1 なし	042-788-2581	－	－	－
28	町田メンタル 内科クリニック	町田市森野1－25－15 http://www.myclinic.ne.jp/machidam/pc/	042-710-2207	○	－	－
29	雅クリニック	町田市原町田6－17－4芳村ビル1階 http://www.masa-clinic.com/pc/	042-850-8790	△	－	－
【市外病院】						
30	北里大学東病院	神奈川県相模原市南区麻溝台2－1－1 http://www.ehp.kitasato-u.ac.jp/ehp/	042-748-9111	△	○	○
31	横浜カメリアホスピタル	神奈川県横浜市旭区白根町920 http://www.camellia-yokohama.jp/	045-958-0205	○	－	○
32	駒木野病院	東京都八王子市裏高尾町273 http://www.komagino.jp/	042-663-2222	○	○	○
33	都立小児 総合医療センター	東京都府中市武蔵台2－8－29 http://www.byouin.metro.tokyo.jp/shouni/	042-300-5111	○	○	○
34	関東中央病院	東京都世田谷区上用賀6－25－1 http://www.kanto-ctr-hsp.com/	03-3429-1171	○	○	○
35	都立松沢病院	東京都世田谷区上北沢2－1－1 http://www.byouin.metro.tokyo.jp/matsuzawa/	03-3303-7211	○	○	○
36	国立成育医療研究センター	一般精神科診療機関ではないため掲載していません				

調　査　票

町田市　若年者の自立に関する調査

ー　調査ご協力のお願い　ー

市民の皆様には、平素から市政にご協力とご理解を頂き深くお礼申し上げます。

近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。ひきこもり*、ニート**など様々な課題や困難を抱える若年者が全国的に増加している、といわれています。

東京都の推計によると、15 歳～34 歳でひきこもりの状態にある方は、都内に少なくとも 2 万 5 千人以上いる、といわれています。

町田市保健所では、1999 年度に思春期の精神専門医相談を始めて以来、ひきこもりの状態にあるご本人及びご家族に対して支援を行ってきました。10 年以上にわたる支援の中で、問題が深刻化してからの相談が多いこと、相談が長期化しており対象者の年齢の幅が広いこと、保護者の高齢化が問題になっていること等、様々な状況が見えてきました。課題を抱えている若年者を支援していく環境づくりと共に、早期に支援につないでいく仕組みを構築することが必要です。

町田市では、「町田市新５ヵ年計画（2012 年度～2016 年度）」の重点事業として、「ひきこもり者支援体制推進事業」を位置づけ、今年度より重点的に取り組んでいます。

本調査は、市民の方の「若年者の自立」、とりわけ「ひきこもり」についての意識を把握し、今後の施策展開の基礎資料とするものです。本調査の対象として、市内にお住まいの 2,000 人の方を無作為に選びましたところ、あなたに回答をお願いすることとなりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、市民の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2012 年 9 月
町田市長　石阪　丈一

【お問い合わせ先】
町田市いきいき健康部　保健対策課（町田市保健所）
〒194-0021　町田市中町 2 丁目 13 番 3 号
電　話：042-722-7636　　FAX：042-722-3249
e-mail：ikiiki080@city.machida.tokyo.jp

【アンケートに関するお願い、記入の要領など】

◇この調査票は、封筒に記載されている宛名の方ご本人がご回答ください。

◇回答は、統計処理に用いるもので、個人情報としての利用や、個人にご迷惑をおかけすることはありません。
（住所や氏名のご記入は必要ありません。）

◇ご記入後、調査票を同封の返信用封筒に入れて、2012年9月30日までに投函してください。切手を貼る必要はありません。

◇本調査でいう「若年者」「若者」とは、実際にひきこもりの相談が多い10歳代～40歳代の方を想定しています。

*「ひきこもり」･･･仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態をいう。（他者と関わらない形での外出をしている場合も含む）

**「ニート」･･･ 学校に通学せず、独身で、収入を伴う仕事をしていない 15～34 歳の個人（若年無業者）のうち、「就職したいが就職活動していない」または「就職したくない」者をいう。

はじめに、「若年者の自立」についてお尋ねします。

※本調査でいう「若年者」「若者」とは、10歳代～40歳代の方を想定しています。

問1 「最近、自立していない若年者が増えている」と言われていますが、そのことについてあなたはどのように感じますか。（○は1つ）

1. そう思う	2. 少しそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	5. どちらともいえない

問2 （問1で選んだ選択肢についてお答えください。）あなたが、そのように感じる理由は何ですか。自由にお書きください。

問3 あなたが重視する「自立した若者の条件」とは何ですか。下記の中から上位3項目を選び、枠の中に番号を書いてください。

1. 洗濯や掃除など、自分の身の回りのことが出来ること
2. 挨拶など、他の人と円滑なコミュニケーションがとれること
3. 自分の将来の目標があること
4. 自分のことは自分で決めて行動できること
5. 学校や職場等で、集団のルールを守りながら社会生活が送れること
6. 地域活動やボランティア活動に参加していること
7. 困難やトラブルに対して、自分で対処できること
8. 働いていること
9. 親から経済的に独立して生活していること
10. 家庭をもっていること
11. その他

あなたが重視する項目 [　　] [　　] [　　]

「11.その他」を選んだ方 →具体的に（　　）

問4 以下の（1）～（5）について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない
（1）現在の経済状況では、働きたくても働けない若者がいるのは仕方がないと思う。	1	2	3	4	5
（2）フリーターやアルバイトなど、様々な働き方があってもよいと思う。	1	2	3	4	5
（3）仕事をしていなくても、家事や育児、介護を行っている若者がいてもいいと思う。	1	2	3	4	5
（4）仕事をしていなくても、ボランティア活動など社会参加をしている若者がいてもいいと思う。	1	2	3	4	5
（5）若者の自立について、社会的に支援していくことは必要であると思う。（相談窓口の設置や、職業訓練の機会づくりなど）	1	2	3	4	5

「ひきこもり」の認知について、お尋ねします。

問5　以下の（1）～（3）について、あなたはご存知ですか。どちらかに〇をつけてください。（〇はそれぞれ1つ）

	知っている	知らない
（1）「ひきこもり」という言葉をご存知ですか。	1	2
（2）「ひきこもり」とは、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」のことであり、時々は買い物などで外出することもあるという場合も「ひきこもり」に含める、ということをご存知ですか。	1	2
（3）ひきこもりの長期化や、社会に出た後にひきこもりになってしまうケースがあり、30歳代、40歳代のひきこもりの人が増えている、ということをご存知ですか。	1	2

あなたやあなたの周りの方の状況について、お尋ねします。

問6　（1）～（2）について、あてはまることがありますか。

（1）自分自身、または家族の中に、問５（２）の「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいる。（〇は1つ）	1 はい	2 いいえ
（1）－１ 「はい」の場合、ひきこもりの状態にある方の年齢について、お選びください。（複数いらっしゃる場合は、年齢について複数回答可。）	1.　小・中学生 2.　10 歳代（中学校卒業後） 3.　20 歳代 4.　30 歳代 5.　40 歳代 6.　50 歳代以上	
（2）近所の人や親戚・知人に、問５（２）の「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいる。（〇は1つ）	1 はい	2 いいえ
（2）－１ 「はい」の場合、ひきこもりの状態にある方の現在の年齢について、お選びください。（複数いらっしゃる場合は、年齢について複数回答可。）	1.　小・中学生 2.　10 歳代（中学校卒業後） 3.　20 歳代 4.　30 歳代 5.　40 歳代 6.　50 歳代以上 7.　不明	

次に、「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。

問7　以下の（1）～（15）について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない
（1）「ひきこもり」の問題に関心がある。	1	2	3	4	5
（2）「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである。	1	2	3	4	5
（3）「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う。	1	2	3	4	5
（4）「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う。	1	2	3	4	5
（5）「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う。	1	2	3	4	5
（6）現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う。	1	2	3	4	5
（7）「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う。	1	2	3	4	5
（8）「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする。	1	2	3	4	5
（9）「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う。（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）	1	2	3	4	5
（10）「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う。	1	2	3	4	5
（11）「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う。	1	2	3	4	5
（12）不登校*から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う。	1	2	3	4	5
（13）「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う。	1	2	3	4	5
（14）「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う。	1	2	3	4	5
（15）地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、NPO への寄附等）。	1	2	3	4	5

「不登校」*・・・　年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」

次に、「ひきこもり」に関する相談支援機関やサービスについてお尋ねします。

問8　あなたは、（1）～（12）についてご存知ですか。①で「知っている」と回答した方は、利用の状況についてもお答えください。（○は1つずつ）

A. 町田市が行っている相談支援機関やサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
（1）町田市子ども家庭支援センター 子どもと家庭の問題に関する総合相談窓口です。０歳～１８歳未満のお子さんとその家庭の相談に対応しています。	1	2	1	2
（2）町田市教育センター・教育相談 幼児から１８歳までのお子さんの様々なご相談（学校に行きたがらない等）について、専門のカウンセラーが支援を行います。	1	2	1	2
（3）町田市内の学校の適応指導教室 心理的な要因により学校に行きにくい、または実際に登校できない状態にある児童に、学校復帰に向けた支援（社会性、協調性を育てるための体験的活動、学習内容の補充、生活リズムの調整等）を行います。	1	2	1	2
（4）民生委員・児童委員 地域の身近な相談相手として、安心して地域で暮らせるよう、社会福祉に関する相談・支援を行っています。	1	2	1	2
（5）町田市保健所 地区担当保健師が継続して相談をお受けし、必要に応じて家庭訪問の実施などを行います。来所相談や専門医相談は予約制です。	1	2	1	2

B. 国や東京都の相談支援機関やサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
（6）東京都ひきこもりサポートネット メール（パソコン・携帯）及び電話を通じて、ひきこもりで悩む人たちの相談を受けています。本人に限らず、家族や友人などの関係者も相談できます。	1	2	1	2

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
（7）東京都の児童相談所 子どもに関しての様々な相談（養護相談、保健相談、障がい相談、非行相談、育成相談等）に対応しています。	1	2	1	2
（8）東京都の精神保健福祉センター ひきこもり、家庭内暴力、摂食障害の問題や病気かどうかわからないが心配等のご相談に対応します。	1	2	1	2
（9）ハローワークの若年者支援 就職支援ナビゲーターによる就職活動の相談（就職活動の進め方、応募書類の作成、面接の受け方等）や、若者相談コーナー（４５歳未満の方の就職活動相談）を設置して支援を行っています。	1	2	1	2
（10）地域若者サポートステーション 働くことについてさまざまな悩みを抱えている１５歳～３９歳くらいまでの若者が就労に向かえるよう、多様な支援サービスでサポートします。	1	2	1	2

C. その他のサービスについて

	①		②	
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない
（11）病院・診療所 精神的な疾患かどうかの判断や状況に合わせたカウンセリングやデイケアなどの支援も実施することがあります。	1	2	1	2
（11）－1 **※「利用したことがある」と回答した方のみ** それは、市内の機関ですか。市外の機関ですか。			1. 市内 2. 市外	
（12）不登校やひきこもりの子ども・若者を支援する NPO 等の民間団体・民間のカウンセリングルーム 課題や悩みを抱えている子ども・若者に対して、相談支援や学習支援、生活訓練等を行っている民間団体や民間施設があります。（その団体によって、対象者や活動内容は異なります。）	1	2	1	2
（12）－1 **※「利用したことがある」と回答した方のみ** それは、市内の機関ですか。市外の機関ですか。			1. 市内 2. 市外	

あなたご自身やご家族の状況についてお尋ねします。

問9　以下の（1）～（3）について、あなたのご家族の状況に最も近いものに〇をつけてください。（〇はそれぞれ1つ）

	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
（1）親子やきょうだいの間でよく会話をしている。	1	2	3	4	5
（2）近所づきあいを大事にしている。	1	2	3	4	5
（3）地域の行事や、町内会等の地域活動に参加している。	1	2	3	4	5

問10　以下の（1）～（4）について、あなたご自身の状況に最も近いものに〇をつけてください。（〇はそれぞれ1つ）

	あてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
（1）趣味や生きがい、生活の楽しみがある。	1	2	3	4	5
（2）悩みや困りごとを相談できる家族や知人がいる。	1	2	3	4	5
（3）人づきあいが苦手である。	1	2	3	4	5
（4）自宅、自室以外に安心できる居場所がないと感じる。	1	2	3	4	5

問11　若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

最後に、あなたご自身についてお尋ねします。

問12　あなたの性別をお聞かせください。（○は1つ）

1.　男　性	2.　女　性

問13　あなたの年齢は、次のどれにあたりますか？（○は1つ）

1.　20～24歳	6.　45～49歳
2.　25～29歳	7.　50～54歳
3.　30～34歳	8.　55～59歳
4.　35～39歳	9.　60歳以上
5.　40～44歳	

問14　あなたの就業状況は、次のどれにあたりますか？（○は1つ）

1.　常勤（正規の社員、職員、会社役員、従業員など）	4.　主婦・主夫
2.　非常勤（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託など）	5.　学生
3.　自営業	6.　無職・その他

問15　あなたのご家族の構成は、次のどれにあたりますか？（○は1つ）

1.　単身（一人世帯）	4.　三世代世帯
2.　夫婦のみの世帯	5.　その他
3.　二世代世帯（親と子どもからなる家族）	

問16　子育ての経験はありますか？（○は1つ）

1.　は　い	2.　いいえ

問17　あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか？（○は1つ）

1.　持ち家　（一戸建て・共同住宅含む）	3.　社宅・官舎・寮
2.　賃貸住宅（一戸建て・共同住宅含む）	4.　その他

問18　あなたの家の暮らし向き（衣食住レジャーなどの物質的な生活水準）は世間一般と比べてみて、どれにあたると思われますか。あなたの実感に近いものをお答えください。（○は1つ）

1.　上の上	4.　中の上	7.　下の上
2.　上の中	5.　中の中	8.　下の中
3.　上の下	6.　中の下	9.　下の下

問19　あなたのお住まいの地区をお選びください。（1～5の地区名に1つだけ〇をつけてください。）

地区名	町名	地区名	町名	地区名	町名
1.　堺地区	相原町	3.　鶴川地区	大蔵町	4.　町田地区	旭町
	小山町		小野路町		玉川学園
	小山ヶ丘		金井		中町
2.　忠生地区	小山田桜台		金井町		原町田
	上小山田町		真光寺		東玉川学園
	木曽町		真光寺町		本町田
	木曽西		鶴川		南大谷
	木曽東		野津田町		森野
	下小山田町		能ヶ谷	5.　南地区	小川
	図師町		広袴		金森
	忠生		広袴町		高ヶ坂
	常盤町		三輪町		つくし野
	根岸町		三輪緑山		鶴間
	根岸		薬師台		成瀬
	矢部町				成瀬が丘
	山崎町				成瀬台
	山崎				南つくし野
					南成瀬

※町名変更のあった地域にお住まいの方は、このアンケートが到着した時点での地区について、ご回答ください。

－　ご協力ありがとうございました　－

町田市　若年者の自立に関する調査

【民生委員・児童委員向け調査】

ー 調査ご協力のお願い ー

民生委員・児童委員の皆様には、平素から市政にご協力とご理解を頂き深くお礼申し上げます。

近年、若年者の自立の問題が深刻な社会問題として取り上げられるようになってきました。ひきこもり*、ニート**など様々な課題や困難を抱える若年者が全国的に増加している、といわれています。

東京都の推計によると、15 歳～34 歳でひきこもりの状態にある方は、都内に少なくとも 2 万 5 千人以上いる、といわれています。

町田市保健所では、1999 年度に思春期の精神専門医相談を始めて以来、ひきこもりの状態にあるご本人及びご家族に対して支援を行ってきました。10 年以上にわたる支援の中で、問題が深刻化してからの相談が多いこと、相談が長期化しており対象者の年齢の幅が広いこと、保護者の高齢化が問題になっていること等、様々な状況が見えてきました。課題を抱えている若年者を支援していく環境づくりと共に、早期に支援につないでいく仕組みを構築することが必要です。

町田市では、「町田市新５ヵ年計画（2012 年度～2016 年度）」の重点事業として、「ひきこもり者支援体制推進事業」を位置づけ、今年度より重点的に取り組んでいます。

本調査は、町田市内で活動されている民生委員・児童委員の方の「若年者の自立」とりわけ「ひきこもり」についての相談状況やお考えをお聞きし、今後の施策展開の基礎資料とするものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2012 年 10 月

町田市長　石阪　丈一

【お問い合わせ先】
町田市いきいき健康部　保健対策課（町田市保健所）
〒194-0021　町田市中町 2 丁目 13 番 3 号
電　話：042-722-7636　　FAX：042-722-3249
e-mail：ikiiki080@city.machida.tokyo.jp

【アンケートに関するお願い、記入の要領など】

◇この調査票は、民生委員・児童委員の方ご本人がご回答ください。

◇回答は、統計処理に用いるもので、個人情報としての利用や、個人にご迷惑をおかけすることはありません。（住所や氏名のご記入は必要ありません。）

◇ご記入後、調査票を同封の返信用封筒に入れて、2012年10月31日までに投函してください。切手を貼る必要はありません。

◇本調査でいう「若年者」「若者」とは、実際にひきこもりの相談が多い10歳代～40歳代の方を想定しています。

*「ひきこもり」･･･仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態をいう。（他者と関わらない形での外出をしている場合も含む。）

**「ニート」･･･ 学校に通学せず、独身で、収入を伴う仕事をしていない 15～34 歳の個人（若年無業者）のうち、「就職したいが就職活動していない」または「就職したくない」者をいう。

若者の自立に関する相談の状況について、お尋ねします。

問1　概ね過去1年間の活動の中で、（1）～（2）について、あてはまることがありましたか。

（1）相談や情報提供は受けていないが、担当地区に「ひきこもり」の傾向にあると思われる方がいる。	1 はい	2 いいえ

（1）－1 「はい」の場合、「ひきこもり」の傾向にある方の人数を、性別・年齢層ごとにご記入ください。
（年齢がわからない場合は、概ねの年齢でご記入ください。）

	男性	女性
1.　10歳代（小・中学校在籍）	人	人
2.　10歳代（中学校卒業後）	人	人
3.　20歳代	人	人
4.　30歳代	人	人
5.　40歳代	人	人
6.　50歳代以上	人	人

（2）「ひきこもり」又は、「ひきこもり」の傾向にある方に関する、相談・情報提供を受けたことがある。	1 はい	2 いいえ

（2）－1 「はい」の場合、ひきこもり状態と思われる方の人数を、性別・年齢層ごとにご記入ください。
（年齢がわからない場合は、概ねの年齢でご記入ください。）

	男性	女性
1.　10歳代（小・中学校在籍）	人	人
2.　10歳代（中学校卒業後）	人	人
3.　20歳代	人	人
4.　30歳代	人	人
5.　40歳代	人	人
6.　50歳代以上	人	人

「ひきこもり」に関する相談・情報提供を受けたことがある方に、お尋ねします。
※問1の（2）で「はい」と回答された方にお尋ねします。

問2 「ひきこもり」に関する相談は、どなたからの相談・情報提供でしたか。
（ ）内は具体的な機関名をご記入ください。（○はいくつでも）

1. ご家族からの相談	5. 行政機関からの相談・情報提供 （　　）
2. 近隣の方からの相談・情報提供	6. 交番・警察・消防からの情報提供
3. 自治会・町内会からの相談・情報提供	7. その他 （　　）
4. 教育機関からの相談・情報提供 （　　）	

問3 あなたはその相談を受けてから、どのように対応しましたか。（○はいくつでも）

1. 訪問や電話相談を行った（行っている）	4. 自治会・町内会の役員に相談した
2. 行政機関、専門機関に相談した	5. その他 （具体的に：　　）
3. 他の民生委員・児童委員に相談した	

問4 「ひきこもり」の相談を受ける上で、あなたが困ったこと、課題と感じたことがあれば、具体的にご記入ください。

例：どこに相談してよいかわからない、どのように対応すればよいか悩む等、率直なご意見をお聞かせください。

「ひきこもり」等に関する相談支援機関やサービスについてお尋ねします。

問5　あなたは、下記の機関に、対象の方や家族について相談したことがありますか。（○はいくつでも）

1.　町田市保健所
2.　町田市子ども家庭支援センター
3.　町田市教育センター・教育相談
4.　町田市内の学校の適応指導教室
5.　1～4以外の市役所の担当課
（具体的に：　　）
6.　町田市社会福祉協議会
7.　東京都ひきこもりサポートネット
8.　東京都の児童相談所
9.　東京都精神保健福祉センター
10.　ハローワーク
11.　地域若者サポートステーション
12.　病院・診療所
13.　民間の支援団体やカウンセリングルーム
14.　その他
（具体的に：　　）
15.　いずれの機関にも相談したことはない

問5-1　問5の機関に相談したことのある方にお尋ねします。あなたが相談した際の対応について、ご意見・ご感想がありましたら、ご記入ください。どの機関についてのご意見か、問5の番号をお書きください。

機関（番号）	ご意見・ご感想

問6　若者の自立支援に関わる、地域ならではの取組み（地域の中の居場所、支援活動など）があれば教えてください。

次に、「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。

問7　以下の（1）～（16）について、あなたのお考えに最も近いものに〇をつけてください。（〇はそれぞれ1つ）

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない
（1）「ひきこもり」の問題に関心がある。	1	2	3	4	5
（2）「ひきこもり」は、深刻な社会問題なのだから、早期に解決すべきである。	1	2	3	4	5
（3）「ひきこもり」は、家族や周囲の対応によるものであると思う。	1	2	3	4	5
（4）「ひきこもり」は、人間関係が希薄になってしまったことによるものだと思う。	1	2	3	4	5
（5）「ひきこもり」は、インターネット社会の影響があると思う。	1	2	3	4	5
（6）現代社会においては、「ひきこもり」は誰にでも起こることだと思う。	1	2	3	4	5
（7）「ひきこもり」の人や家族は、自分を責めるなど苦しんでいると思う。	1	2	3	4	5
（8）「ひきこもり」の人は、甘えている感じがする。	1	2	3	4	5
（9）「ひきこもり」の人や家族には、社会的支援を行うべきであると思う。（相談体制の充実や、自立に向けた支援など）	1	2	3	4	5
（10）「ひきこもり」の人は、医療の支援が必要だと思う。	1	2	3	4	5
（11）「ひきこもり」は、早期に支援につなげることが必要であると思う。	1	2	3	4	5
（12）不登校*2 から、「ひきこもり」につながらないために、学校からの支援は必要だと思う。	1	2	3	4	5
（13）「ひきこもり」の人や家族が孤立しないような地域社会のつながりが必要であると思う。	1	2	3	4	5
（14）「ひきこもり」について、身近な場で相談しやすい窓口が必要だと思う。	1	2	3	4	5
（15）地域の「ひきこもり」の人や家族に対する支援活動に関心がある（相談相手、情報提供、学習支援、NPO への寄附等）。	1	2	3	4	5
（16）ひきこもりの方やご家族への支援について、今後積極的に関わっていきたいと思う。	1	2	3	4	5

「不登校」*2・・・年間30日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者」

「ひきこもり」の支援に関して、今後の活動意向についてお尋ねします。

問8　ひきこもりの方やご家族への支援に関して、行政に期待することは何ですか。（○はいくつでも）

1.　ひきこもりの支援に関する情報提供を行ってほしい（支援の具体的な方法や、専門機関の紹介など）
2.　ひきこもりに関する勉強会や講演会に参加したい
3.　ひきこもりに関するネットワーク会議などがあれば参加したい
4.　その他（具体的に：　　）

問9　若年者の様々な課題や町田市の取り組み等について、ご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

問10　あなたの担当地区は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1.　町田第一地区
2.　町田第二地区
3.　南第一地区
4.　南第二地区
5.　鶴川第一地区
6.　鶴川第二地区
7.　忠生第一地区
8.　忠生第二地区
9.　堺地区

問11　あなたの民生委員・児童委員歴は何年ですか。　　年

－　ご協力ありがとうございました　－

町田市ひきこもり者支援体制推進事業
「若年者の自立に関する調査報告」
～ひきこもる若者たちを地域で支えるために～

2013 年（平成 25 年）3 月発行

編集　町田市
発行　町田市いきいき健康部保健対策課（町田市保健所）
〒194-0021　町田市中町 2-13-3
電話　042-722-7636
刊行物番号　12－108
集計・編集　ビズデザイン株式会社
〒105-0021　東京都港区東新橋 2-10-10
電話　03-4570-2846